

2025 推 奨 施 工 法

SOLIDO typeF coffee
typeF shirasu

— 金具工法、接着工法 —



本資料のご使用に当たって

- 本資料は、SOLIDO typeF coffee、shirasuを安全に正しくお使いいただくための情報を記載しています。
- 工事に当たり、設計・施工の参考にしてください。
- 施工方法や納まりの詳細につきましては、元請様や工事店様のご判断、責任のもと、製品品質や施工品質が確保できるように方法を決定していただきますようお願い致します。
- 本資料内の数値の単位は、記載なき場合は全て「mm」です。

本体、色合いについて

- 製品本体、色の保証はございません。
- 本製品は素材から出た自然な色合いの為、一枚一枚の色、白華の風合いが大きく異なります。
また、似た風合いの製品が混ざる場合がありますが、色味、風合いの指定はできません。色味、風合いについての返品・交換は致しかねます。
- 本製品の四周切断面は面取り加工をしていませんので、施工、使用中に欠けが発生することがありますが、不良品ではございません。
- 年数が経過するにつれて、外観表面の白華（エフロレッセンス）部分が増減するなどにより色味が変わる可能性があります。

施工の前に

- 一枚一枚の色味が大きく異なりますが、製造上色味の近い商品がかたよって納品される場合があります。施工前に仮並べをして配置を検討してから施工することをおすすめします。
- 長さ違い製品（10尺、6尺、3尺）を混ぜ張りすると配置の調整ができずに、色味がかたよる場合があります。同一長さ製品での施工をおすすめします。

■配置検討

＜色味を確認しなかった例＞



＜色味を確認して配置を検討した例＞

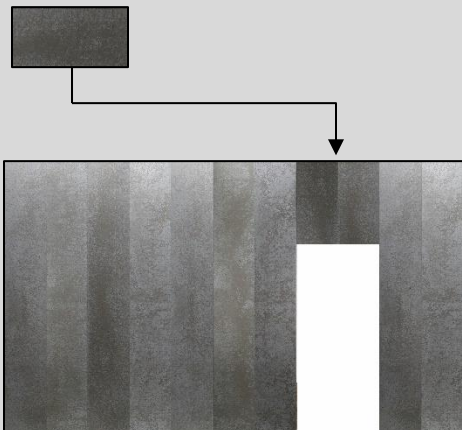


■長さ違い製品施工

＜10尺品と3尺品を使用した例＞

長さ違いで色味が違った時に配置調整ができない

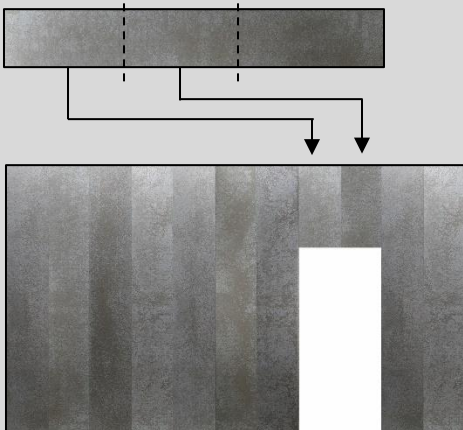
3尺品



＜10尺品だけを使用した例＞

バランスを考えながら配置が可能

10尺品



目次

本資料のご使用に当たって	1
本体、色合いについて	1
施工の前に	2

1. 商品の選定 4

【1】商品仕様	5
【2】不燃材料の認定番号	6
【3】性能一覧	6

2. 推奨範囲 7

【1】推奨範囲	8
【2】推奨施工法	8

3. 金具工法 9

【1】下地仕様	10
【2】標準施工仕様	11
【3】使用部材	12
【4】推奨切断刃	15
【5】施工手順	15
【6】横張り施工のポイント	16
【7】縦張り施工のポイント	22

4. 接着工法 28

【1】下地仕様	29
【2】施工仕様	30
【3】使用部材	31
【4】推奨切断刃	34
【5】施工手順	34
【6】横張り施工のポイント(施工高さ3.2m以下の場合)	35
【7】横張り施工のポイント(施工高さ3.2m超6.2m以下の場合)	48
【8】縦張り施工のポイント(施工高さ3.2m以下の場合)	57
【9】縦張り施工のポイント(施工高さ3.2m超6.2m以下の場合)	70

5. 木製部材の施工 80

【1】部材仕様	81
【2】施工仕様	83

6. 参考資料 86

【1】補修・仕上げ方法	87
-------------------	----



木製部材

※施工事例は、ウェブサイトでご覧いただけます。 <https://www.kmew.co.jp/shouhin/solido/category/>



1. 商品の選定

【1】商品仕様	5
【2】不燃材料の認定番号	6
【3】性能一覧	6

1. 商品の選定

【1】商品仕様

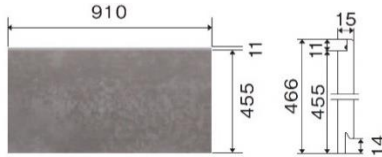
< 1 > 本体

①SOLIDO typeF coffee

(単位:mm)

	10尺品 (品番 : EA6511K)
形状・寸法	
働き寸法	455 × 3030
1枚当たりの重量	約28kg/枚
1枚当たりの㎡数	1.38㎡/枚
梱包入数	2枚/梱

(単位:mm)

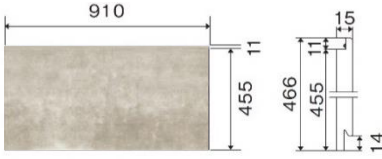
	6尺品 (品番 : EA6511K6)	3尺品 (品番 : EA6511K3)
形状・寸法		
働き寸法	455 × 1820	455 × 910
1枚当たりの重量	約17kg/枚	約8.5kg/枚
1枚当たりの㎡数	0.83㎡/枚	0.41㎡/枚
梱包入数	2枚/梱	2枚/梱

②SOLIDO typeF shirasu

(単位:mm)

	10尺品 (品番 : EA6621K)
形状・寸法	
働き寸法	455 × 3030
1枚当たりの重量	約28kg/枚
1枚当たりの㎡数	1.38㎡/枚
梱包入数	2枚/梱

(単位:mm)

	6尺品 (品番 : EA6621K6)	3尺品 (品番 : EA6621K3)
形状・寸法		
働き寸法	455 × 1820	455 × 910
1枚当たりの重量	約17kg/枚	約8.5kg/枚
1枚当たりの㎡数	0.83㎡/枚	0.41㎡/枚
梱包入数	2枚/梱	2枚/梱

1. 商品の選定

【2】不燃材料の認定番号

●ケイミューが取得している不燃材料認定は以下の通りです。

認定区分	認定番号	一般名称
不燃材料	NM-3812	窯業系内装材

【3】性能一覧

<1>物性一覧表

●物性値は下表の通りです。

項目	物性値	試験方法
比重	1.3	105℃ 24hr乾燥（弊社測定値）
曲げ破壊荷重	785N以上	JIS A 5422
耐衝撃性	合格	JIS A 5422

※JIS A 5422に準じて測定していますが、JIS商品ではありません。

<2>VOC放散速度について

- 建築基準法によるシックハウス対策規制以後、ホルムアルデヒドだけでなく、それ以外のVOC(揮発性有機化合物)についても、室内濃度の測定方法や基準の設定が要求され、業界の自主的な取組みとして「住宅部品VOC表示ガイドライン」が制定されています。
- 本製品は「住宅部品VOC表示ガイドライン」の対象外ですが、VOC放散速度の確認をしています。
- VOC放散速度の確認結果は下表の通りです。

【外部機関測定結果及びVOC放散速度基準値】（外部機関：パナソニック㈱プロダクト解析センター）

	VOC放散速度（単位：μg/m ³ h）					
	ホルムアルデヒド	トルエン	キシレン	エチルベンゼン	スチレン	クロルピリホス
SOLIDO type F coffee	1	4	0.2未満	0.2未満	0.2未満	検出できず
SOLIDO type F shirasu	0.2	0.2未満	0.2未満	0.2未満	0.2未満	検出できず
基準値（上限値）	5	38	29	550	32	—

※「建材からのVOC放散速度基準」に規定されている試験方法である「JIS A 1901」（小型チャンバー法）の試験開始後7日目の測定結果です。

※試験条件は、試験負荷率2.2m²/m³、換気回数0.5回/時間、温度28℃、湿度50%です。

<3>調湿性能について

●SOLIDO typeF shirasu は、（一社）日本建材・住宅設備産業協会の調湿建材登録・表示制度の適合商品です。

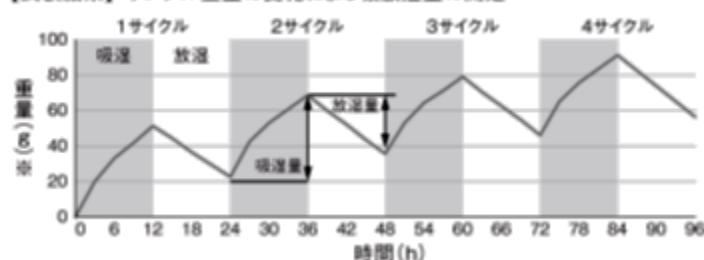
※SOLIDO typeF coffee は、下表の性能を満たしていません。

項目	3時間後	6時間後	12時間後
吸湿量（g/m ² ）	15以上	20以上	29以上
放湿量（g/m ² ）	—	—	20以上 4サイクル確認

※試験方法 JIS A 1470 - 1:2014（建築材料の吸放湿性試験方法—第1部：湿度応答法）および付属書JA（規定）

相対湿度50%→75%→50%周期を4サイクル繰り返す、温度23℃

【試験結果】サンプル重量の変化による吸放湿量の測定



※1 m²当たりの重量変化分です。
※左記結果は試験値であり、
使用環境によって異なります。

2. 推獎範圍

【1】推獎範圍	8
【2】推獎施工法	8

2. 推奨範囲

【1】推奨範囲

< 1 > 推奨地域

- 日本全国

< 2 > 推奨部位

- 垂直かつ平面である屋内壁に使用できます。それ以外のご使用の場合、当社で安全性等の確認・検証ができておりません。
- 層間変形角1/120以下の箇所に使用してください。
- 曲面へ本製品を曲げての施工は、割れや脱落の原因となるので避けてください。
- 下記の場所での使用については、変形等のおそれがあるため推奨していません。
 - ・ 水を使用したり、湿気が多くなる場所（例：トイレ、浴室、洗面等）
 - ・ 火気等を使用し、高温になる場所（例：暖炉、ガスコンロ周辺等）
- 防耐火規制等の法規制について、採用される認定や使用される部位の規制等を確認していただき、使用可否判断を行ってください。
- 留付け下地の不陸は2mm以下になるよう調整してください。

【2】推奨施工法

- 推奨施工法として、「**金具工法**」と「**接着工法**」、「**接着工法（剥落防止処置）**」があります。

推奨施工法	概要
金具工法	<u>専用金具</u> を用いて固定する工法。
接着工法	<u>接着剤と仮留め材（フィニッシュネイル等）</u> を併用して固定する工法。接着剤が硬化するまでの間、仮留め材で保持します（仮留め材の撤去は不要）。
接着工法（剥落防止処置）	剥落防止のため、 <u>接着剤と固定材（釘、ビス等）</u> を併用して固定する施工方法。

- 推奨施工法は施工高さや下地および下地位置等で仕様が異なります。下表でご確認ください。

※**接着工法**で3.2mを超える屋内壁に施工する場合は、必ず「接着工法（剥落防止処置）」で施工してください。

■ 高さ別施工可否表※1

○：施工可 △：条件付きで可 ×：施工不可

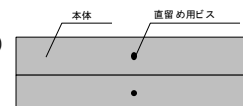
本体の 施工高さ	金具工法	接着工法	接着工法（剥落防止処置）
3.2m以下	○	○	○
6.2m以下	○	×	○
31m以下	△ ※2	×	×

※1 推奨施工法は風圧力の影響が無い屋内壁を前提としています。

風圧力の影響がある屋内壁の場合は、品質面や安全面等は十分ご配慮いただき、「KMEW外壁材設計施工マニュアル」最新版に基づいて設計・施工してください。

※2 施工高さが13mを超える場合、縦張りや2mm金具留めでの施工は不可です。

また16mを超える範囲は、本体1枚につき表面から直留め用ビスで1本留付けてください。（右図参照）



■ 下地別施工可否表

○：施工可 ×：施工不可

施工仕様	金具工法 ※3						接着工法			
	通気金具		5mm金具		2mm金具		下地面材なし ※4		下地面材あり	
	縦張り	横張り	縦張り	横張り	縦張り	横張り	縦張り	横張り	縦張り	横張り
木下地	○	○ ※4	○	○ ※4	×	○ ※4	○	○	○	○
鉄骨下地	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○
LGS下地	○ ※5	○	○ ※5	○	×	×	○ ※5	○	○	○

※3 面材を追加する施工も可能です。面材の種類や留付け仕様については特に設定していませんが、留め金具や本体を留付ける釘またはビスの長さを長くする必要があります。

※4 本体の目地位置や留付け材の留付け位置毎に各下地が必要です。本体の割付けや留付け位置を考慮して各下地の設置位置を決めてください。

※5 長手方向の目地位置毎にLGS下地が必要です。本体の割付けを考慮してLGS下地の設置位置を決めてください。

3. 金具工法

【1】下地仕様	10
【2】標準施工仕様	11
【3】使用部材	12
【4】推奨切断刃	15
【5】施工手順	15
【6】横張り施工のポイント	16
【7】縦張り施工のポイント	22

本推奨施工法では、各ページがどの下地について説明しているか分かるよう、以下の通り、ページ右上に該当下地の○×表を付けています。

例) 木下地について説明している場合

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	○	×	×

3. 金具工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	○	○	○

【1】適用下地

- 木下地、鉄骨下地、LGS下地に使用できます。
- 落下・脱落・破損等の不具合が起きないように、本資料を参考に、ご採用者様にて施工法や留付け部材、関連部材等を適切に設計・施工してください。
- 各下地の推奨仕様は下表の通りです。

①木下地

(単位:mm)

		本体の張り方	
		横張り ※1	縦張り
下地材 (柱・間柱・縦枠)	間隔	500以下	
胴縁	サイズ	—	一般部：18×45以上 目地部：18×90以上
	間隔	—	500以下
	取付方向	—	横方向
	材質	—	よく乾燥して平坦 (ねじれ、反りのない) な木材

※1 留付け部材は下地に固定するため、縦目地位置に合わせて適切な幅の下地を設けてください。(17ページ参照)

②鉄骨下地

(単位:mm)

			本体の張り方	
			横張り	縦張り
下地材 (C形鋼)	下地方向		縦方向	横方向
	一般部	サイズ	C形鋼 C-75×45×15以上	
		厚さ	1.6~2.3	
		間隔	606以下	
	目地部	サイズ	C形鋼 C-75×45×15以上ダブル または角形鋼□-100×100	C形鋼 C-75×45×15以上・3本
		厚さ	1.6~2.3	
木胴縁 ※2	取付方向		縦方向	横方向
	サイズ		一般部：30×45以上 目地部：30×90以上	
	間隔		500以下	

※2 下地材(C形鋼)に木胴縁を取付ける場合の胴縁仕様です。
下地材(C形鋼)は木胴縁と直交する形で施工してください。(横張りの場合：横方向、縦張りの場合：縦方向)
その場合の下地材(C形鋼)のサイズは、一般部のサイズ(C-75×45×15以上)となります。

③LGS下地

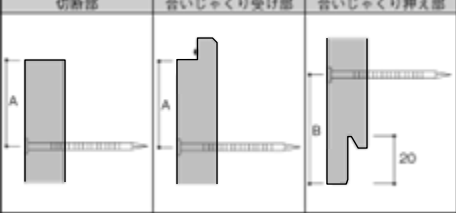
(単位:mm)

		本体の張り方	
		横張り	縦張り
下地材 (LGS)	サイズ	一般部：65形以上 目地部：65形以上ダブル	65形以上
	間隔	606以下	金具位置に合わせる
	厚さ	一般材(約0.5~0.6)以上	

3. 金具工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	○	○	○

【2】標準施工仕様

使用金具	留め金具	留め金具（5mm）平板用、留め金具（2mm）平板用（横張り・木下地のみ）、通気留め金具（15mm）平板用	
	スターター	スターター、ロングスターター	
	留付け間隔	木下地 : 500mm以下 LGS下地、鉄骨下地 : 606mm以下	
直留め部	端打ち寸法	木下地 : ステンレスリング釘 A=20~30mm B=40~50mm LGS・鉄骨下地 : ステンレスビス A=30~40mm B=50~60mm 	
本体加工	最小加工幅	凹型加工：板幅の1/2以上 L型加工：100mm以上  ※上記規定寸法未滿となる場合は、分離して突付け ※切断時は塗膜面を傷つけないよう配慮し、裏面を上側にして切断してください。	
付帯物		下地に固定すること ※本体または保持力のない下地面材への固定は不可	
各部納まり	目地部	横目地	合いじゃくり接合
		横張り	突付け ※横揺れによる本体木口面の欠け防止のため、10m毎に合計15mm以上のクリアランスをとること
		縦目地	縦張り用留め金具(5mm) ロングスターター 4mm程度の隙間
		縦張り	縦張り用留め金具(5mm) ロングスターター 4mm程度の隙間
	出隅部	横目地	純正品出隅部材納め（5. 木製部材の施工 参照） ※突付け納めも可能ですが、横張りでは右図のように勝ち側の木口に合いじゃくり部が露出しますのでご了承ください。 （補修する場合：6. 参考資料 参照）
		縦目地	純正品出隅部材納め（5. 木製部材の施工 参照） ※突付け納めも可能ですが、横張りでは右図のように勝ち側の木口に合いじゃくり部が露出しますのでご了承ください。 （補修する場合：6. 参考資料 参照）
	床取合い部	横目地	純正品巾木納め（5. 木製部材の施工 参照） ※純正品巾木の場合は、本体を巾木に突付けての施工が可能です。 ※市販品巾木の場合は、本体下端の欠け防止のため、巾木上端から1~2mm程度のすき間をあけてください。 ※巾木なしの場合は、本体下端の欠け防止および本体施工時に床の不陸の影響を受けないよう床面より1~2mm程度のすき間をあけてください。 （縦張りの場合は、スターター受け部の厚み（4mm程度）分、更にすき間があります。）
		縦目地	純正品巾木納め（5. 木製部材の施工 参照） ※純正品巾木の場合は、本体を巾木に突付けての施工が可能です。 ※市販品巾木の場合は、本体下端の欠け防止のため、巾木上端から1~2mm程度のすき間をあけてください。 ※巾木なしの場合は、本体下端の欠け防止および本体施工時に床の不陸の影響を受けないよう床面より1~2mm程度のすき間をあけてください。 （縦張りの場合は、スターター受け部の厚み（4mm程度）分、更にすき間があります。）
	天井等 他部材取合い部		純正品見切り部材納め（5. 木製部材の施工 参照）
	補修・仕上げ		※本品は、1枚毎に色味が異なる商品のため、現場仕上げ塗料（補修塗料）は設定していません。補修・仕上げが必要な場合は、市販の補修剤（6. 参考資料 参照）をご検討ください。

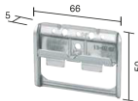
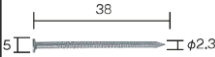
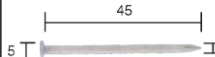
3. 金具工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	○	×	×

【3】使用部材

< 1 > 木下地

● 留め金具（5mm）の場合

品名		品番	形状・寸法	材質	入数 (出荷単位)
金具	留め金具（5mm）平板用 (縦張り・横張り共通)	B1005	 t=0.8mm	溶融亜鉛Al-Mg 合金めっき鋼板	70個/袋
	ロングスターター (横張り用)	B101052	 t=0.8mm L=3030mm	溶融亜鉛Al-Mg 合金めっき鋼板	4本/箱
	ロングスターター (縦張り用)	B10057	 t=0.8mm L=3030mm	溶融亜鉛Al-Mg 合金めっき鋼板	5本/箱 (専用ビス付)
専用釘・ビス ※1	留め金具用	リング釘38（留め金具用） ※横張り用	RM89S0 	ステンレス	150本/箱
		留め金具用ビス25 (木下地用)	RY8830 	ステンレス	500本/箱
		留め金具用ビス35 (木下地用)	B881135 	ステンレス	500本/箱
	直留め用 ※2 ※3	リング釘45（直留め用）	B8745R400  shirasu近似色	ステンレス	40本/袋
		リング釘65（直留め用）	B8765R400  shirasu近似色	ステンレス	40本/袋
		リング釘75（直留め用）	B8775W1559  coffee近似色	ステンレス	36本/袋
スペーサー	スペーサー5	RY82S05	 22個/本 片面粘着層付き L=1000mm	ポリプロピレン	20本/箱

※1 面材を施工する場合は、次の長さの釘またはビスを上表または現場調達品より選定してください。

留め金具用釘（ビス）：面材厚み+38（15）mm以上

直留め用釘：面材厚み+45mm以上

※2 釘頭の補修・仕上げが必要な場合は、市販の補修剤（6. 参考資料 参照）をご検討ください。

※3 クラックや割れが発生しないように先孔（Φ2mm程度）をあけてください。

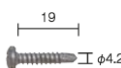
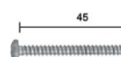
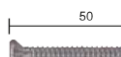
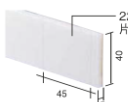
3. 金具工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	×	○	×

【3】使用部材

< 2 > 鉄骨下地

● 留め金具（5mm）の場合

品名			品番	形状・寸法	材質	入数 (出荷単位)
金具	留め金具（5mm）平板用 （縦張り・横張り共通）		B1005	 t=0.8mm	溶融亜鉛AI-Mg 合金めっき鋼板	70個/袋
	ロングスターター （横張り用）		B101052	 t=0.8mm L=3030mm	溶融亜鉛AI-Mg 合金めっき鋼板	4本/箱
	ロングスターター （縦張り用）		B10057	 t=0.8mm L=3030mm	溶融亜鉛AI-Mg 合金めっき鋼板	5本/箱 ※1
専用ビス ※2	留め金具用 または ロングスターター用	留め金具用ビス19 （鉄骨下地用）	RY8840	 19 φ4.2	ステンレス	500本/箱
		留め金具用ビス45 （鉄骨下地用）	B8845S	 45 φ4.2	ステンレス	500本/箱
	直留め用	直留め用ビス50 （鉄骨下地用） ※3	B88501	 50 φ4.2	ステンレス	200本/袋
		直留め用ビス60 （鉄骨下地用） ※3	B8860	 60 φ5.0	ステンレス	200本/袋
		直留め用ビス80 （鉄骨下地用） ※3	B8880	 80 φ5.0	ステンレス	200本/袋
	スペーサー	スペーサー-5		RY82S05	 22個/本 片面粘着層付き L=1000mm	ポリプロピレン

※1 ロングスターター（縦張り用）に付属している専用ビスは木下地用のため使用できません。

上表のロングスターター用ビスを使用してください。

※2 面材を施工する場合は、次の長さビスを上表または現場調達品より選定してください。

留め金具用またはロングスターター用：面材厚み+20mm以上

直留め用：面材厚み+35mm以上

※3 近似色ではありません。ビス頭の補修・仕上げが必要な場合は、市販の補修剤（6. 参考資料 参照）をご検討ください。

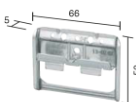
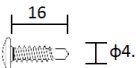
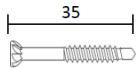
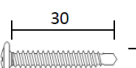
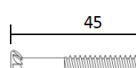
3. 金具工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	×	×	○

【3】使用部材

< 3 > LGS下地

●留め金具（5mm）の場合

品名			品番	形状・寸法	材質	入数 (出荷単位)		
金具	留め金具（5mm）平板用 （縦張り・横張り共通）		B1005	 t=0.8mm	溶融亜鉛AI-Mg 合金めっき鋼板	70個/袋		
	ロングスターター （横張り用）		B101052	 t=0.8mm L=3030mm	溶融亜鉛AI-Mg 合金めっき鋼板	4本/箱		
	ロングスターター （縦張り用）		B10057	 t=0.8mm L=3030mm	溶融亜鉛AI-Mg 合金めっき鋼板	5本/箱 ※1		
専用ビス	面材なし	留め金具用 または ロングスターター用	留め金具用ビス16 （薄鉄骨下地用）	B885116	 16 φ4.5	ステンレス	500本/箱	
		直留め用	直留め用ビス35 （薄鉄骨下地用） ※2	B885235 ▼ B8852135 ※4	 35 φ4.5 上図：B885235	ステンレス	300本/袋	
	面材あり	留め金具用 または ロングスターター用	留め金具用ビス30 （薄鉄骨下地用） ※3	B885130	 30 φ4.5	ステンレス	500本/袋	
		直留め用	面材厚さ 10mm以下	直留め用ビス45 （薄鉄骨下地用） ※2	B885245	 45 φ4.5	ステンレス	300本/箱
			面材厚さ 10mm超 15mm以下	直留め用ビス60 （薄鉄骨下地用） ※2	B885260	 60 φ4.5	ステンレス	200本/箱
	スペーサー	スペーサー5		RY82S05	 22個/本 片面粘着層付き 45 5 L=1000mm	ポリプロピレン	20本/箱	

※1 ロングスターター（縦張り用）に付属している専用ビスは木下地用のため使用できません。

上表のロングスターター用ビスを使用してください。

※2 近似色ではありません。ビス頭の補修・仕上げが必要な場合は、市販の補修剤（6. 参考資料 参照）をご検討ください。

※3 面材厚さの上限は15mm以下です。

※4 在庫なくなり次第、B885235からB8852135の品番に切り替えます。

3. 金具工法

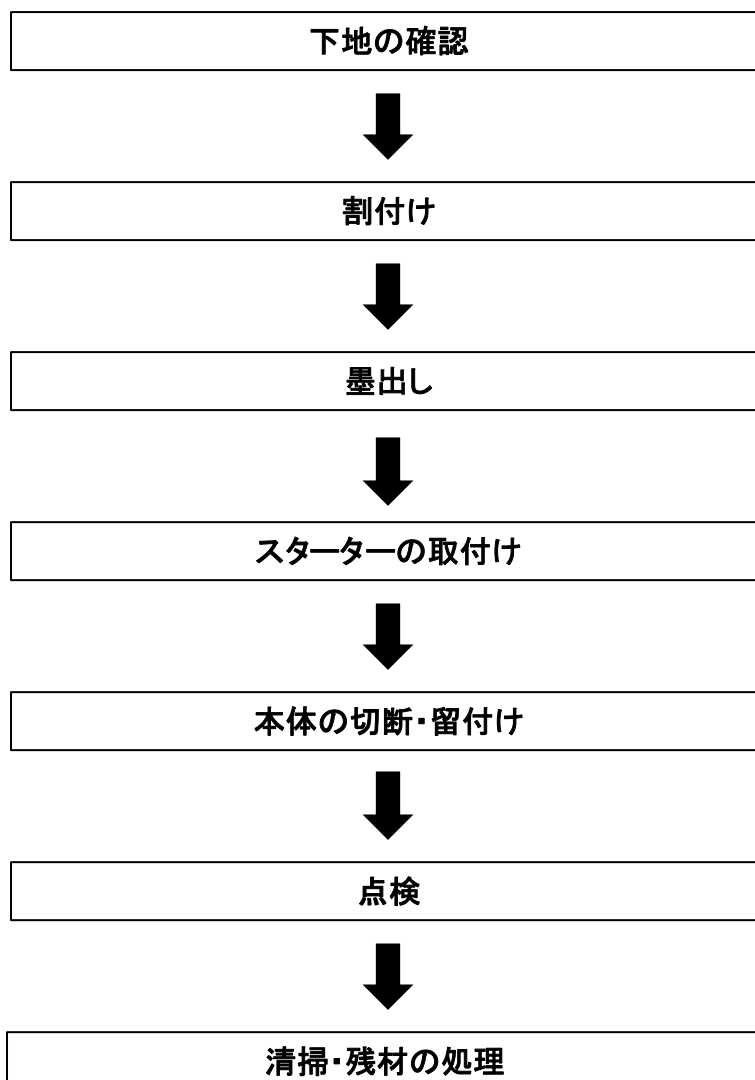
該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	○	○	○

【4】推奨切断刃

品名	品番	形状・寸法	材質	入数 (出荷単位)
ダイヤモンド ^{テン} 10(φ100)	B491	 外径: 100mm 内径: 20mm 刃厚: 1.5mm 刃数: 10	ダイヤモンドチップ	1枚
ダイヤモンド ^{テン} 10(φ125)	B492	 外径: 125mm 内径: 20mm 刃厚: 1.5mm 刃数: 10	ダイヤモンドチップ	1枚

- 切断の際に粉じんがでますので、工具連動集じん機をセットした防じんカッターの使用、防じんマスク・メガネの着用等の対策をお願いします。
- 切断方法等に関しては、ケイミューの「外壁材設計施工マニュアル」の最新版をご確認ください。

【5】施工手順



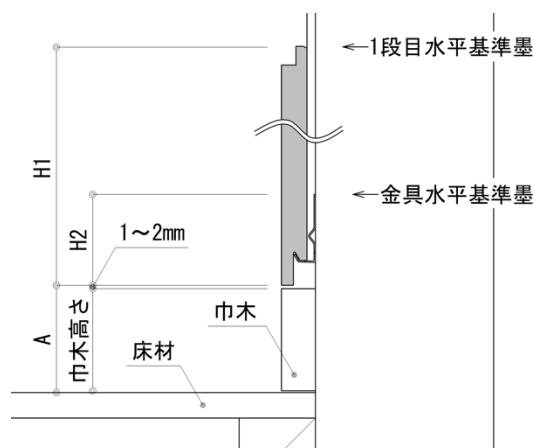
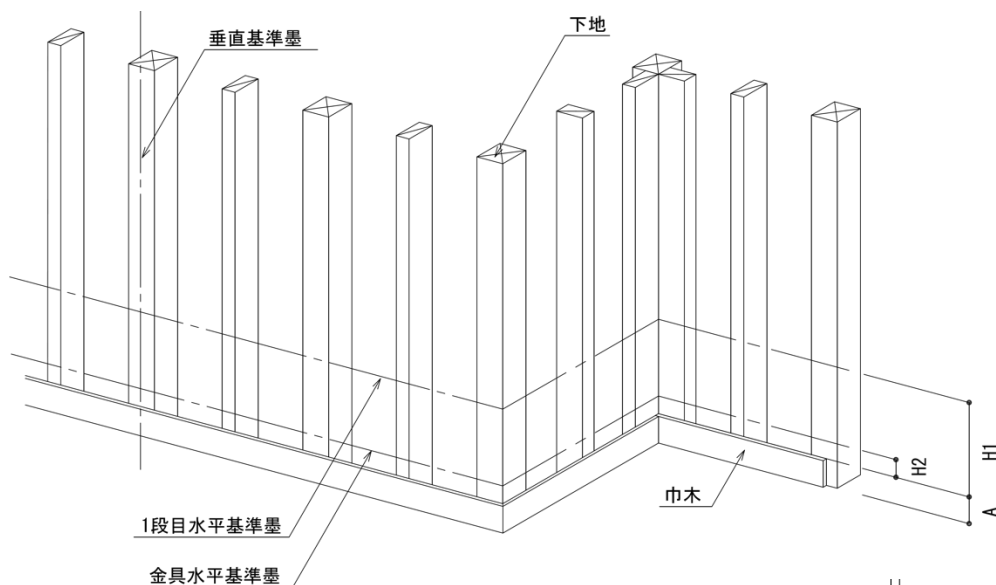
3. 金具工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	○	○	○

【6】横張り施工のポイント

<1>墨出し

- 役物、本体の水平基準を出すため、本体1段目の水平基準墨と金具用水平基準墨をうちます。
- 最下端部に巾木を使用する場合（純正品または市販品）または巾木を使用しない場合によって下図Aの値が異なります。
 - ・純正品巾木の場合：本体は巾木に突付けて施工することが可能です。
 - ・市販品巾木の場合：本体は巾木上端から1～2mm程度のすき間をあけて施工をしてください。（本体下端の欠け防止のため）
 - ・巾木なしの場合：本体は床から1～2mm程度のすき間をあけて施工をしてください。
（本体下端の欠け防止のためおよび床の不陸の影響を受けないようにするため）
- 本体1段目の墨出し位置H1、留め金具上端の墨出し位置H2は、下表の通りです。（金具の種類によりH2寸法は異なります。）
- 施工面各面に1カ所以上、縦目地部の位置に垂直基準墨をうちます。



※図は市販品 巾木を使用した場合

	A
純正品巾木	巾木高さ（60mmまたは15mm）
市販品巾木	巾木高さ＋1～2mm程度
巾木なし	1～2mm程度

	1段目水平基準墨 H1	金具水平基準墨位置 H2
スターターなし（純正品巾木を使用する場合）		—
留め金具（5mm）	スターター	44mm
	ロングスターター	54mm
通気留め金具（15mm）	スターター	47mm
	ロングスターター	44mm
留め金具（2mm）（木下地専用）	スターター	45mm
	ロングスターター	54mm

3. 金具工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	○	○	○

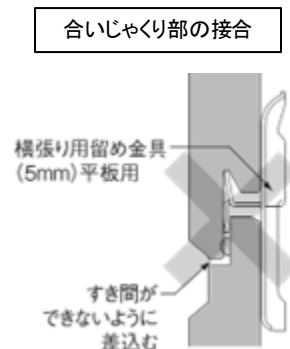
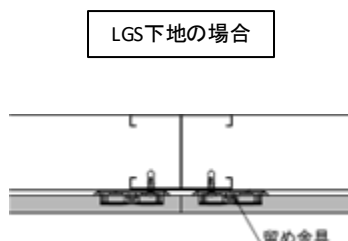
【6】横張り施工のポイント

<2>張り方のポイント（5mm金具留め施工の場合）

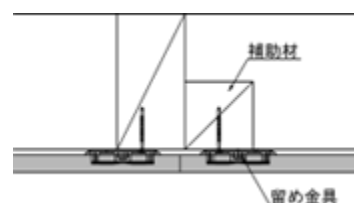
- 本体は留め金具を使用して施工します。

	留め金具・スターター			ロングスターター		
	留付け仕様	留付け間隔	使用部位	留付け仕様	留付け間隔	使用部位
木下地	専用釘または専用ビス・1本留め	500以下（下地毎）	留め金具：一般部 スターター：張出し部	専用釘または専用ビス	500以下（下地毎）	張出し部
鉄骨下地	専用ビス・1本留め	606以下（下地毎）		専用ビス	606以下（下地毎）	
LGS下地	専用ビス・1本留め	606以下（下地毎）		専用ビス	606以下（下地毎）	

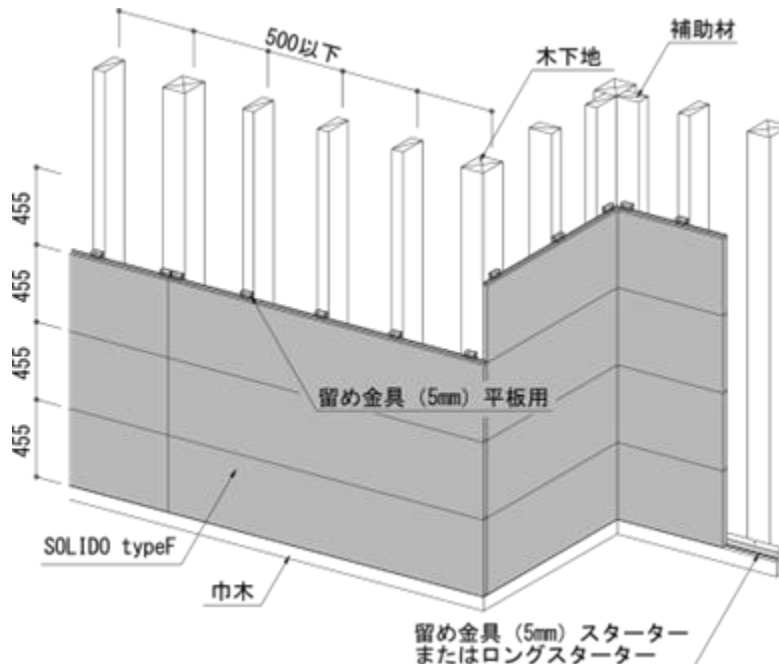
- 天井取合い部や開口部上下等、合いじゃくり部分が切断され留め金具が施工できない箇所は、スペーサー5を入れ、端打ち寸法（11ページ参照）を確保し、先孔（釘：φ2mm程度、ビス：φ4mm程度）をあけてから直留め用の専用釘または専用ビスで下地に固定します。（鉄骨下地の専用ビス（直留め用ビス50等）を使用する場合は先孔不要）
 - 留め金具には、複数の釘穴やビス穴があいています。部位に合わせて穴を選び、必要本数を留付けます。
 - 合いじゃくり部の接合は、すき間ができないように差込みます。
 - 留め金具は本体をまたいで使用せず、それぞれの本体端部に留め金具を1つずつ使用して施工します。
- ※縦目地部には縦目地部左右の金具の留付けができるように必ず下地を設けてください。
 本体の端部付近に留め金具を留付けしないと、本体の反りや変形の原因となります。



- 木造で縦目地部が間柱位置にくる場合、金具を留付けできるように補助材を入れてください。（入隅等で、柱等の下地に金具の留付けができない場合も同様）



木下地の場合



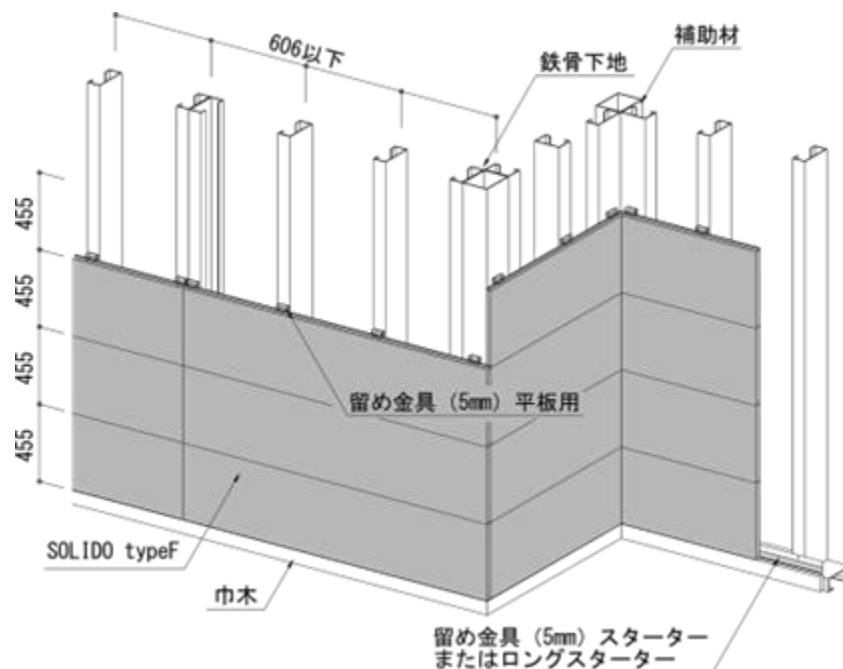
3. 金具工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	×	○	○

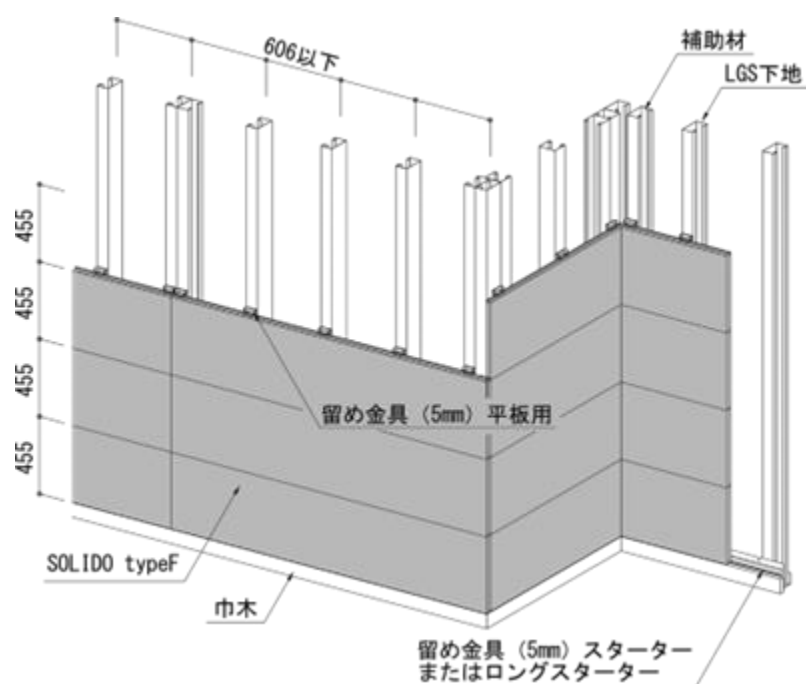
【6】横張り施工のポイント

＜2＞張り方のポイント（5mm金具留め施工の場合）

鉄骨下地の場合



LGS下地の場合



3. 金具工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	○	×	×

【6】横張り施工のポイント

<3>木下地（5mm金具留め施工の場合）参考納まり図

※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと
接着剤(MPX-7)を併用して留付け

一般部（縦断面）	縦目地部
床取合い部	天井取合い部
出隅部	入隅部

3. 金具工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	×	○	×

【6】横張り施工のポイント

< 4 > 鉄骨下地（5mm金具留め施工の場合）参考納まり図

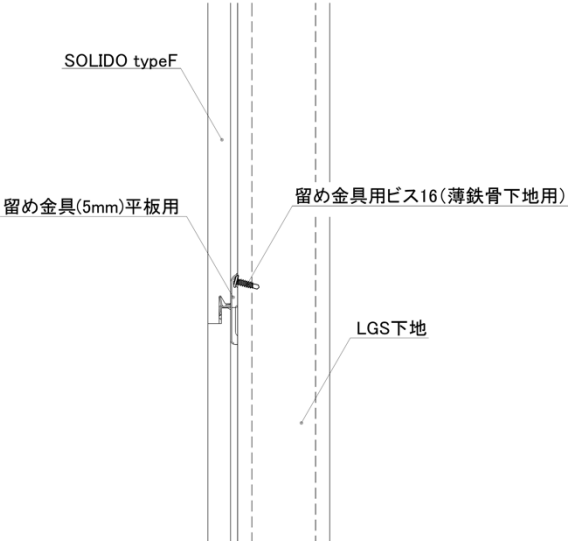
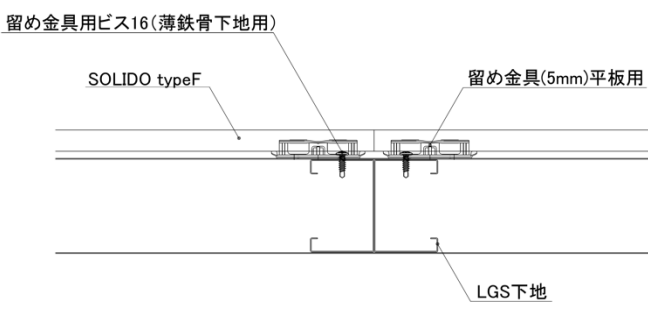
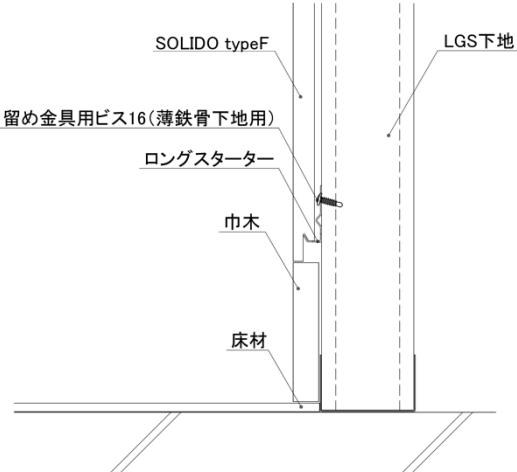
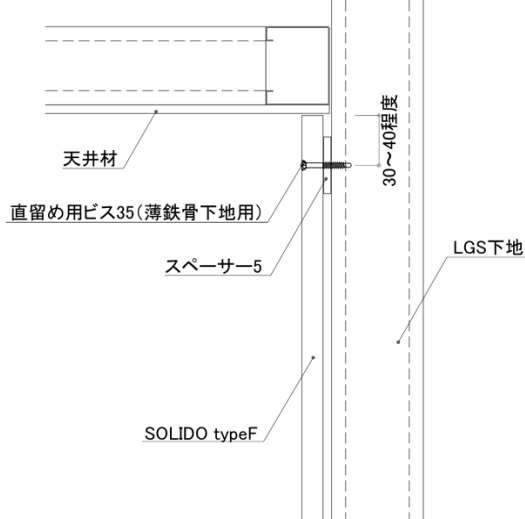
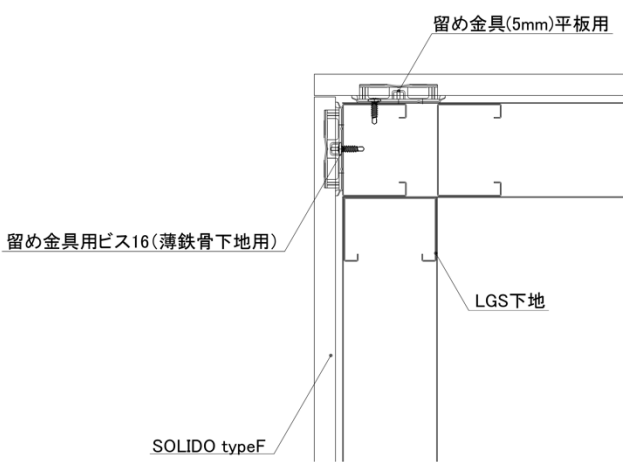
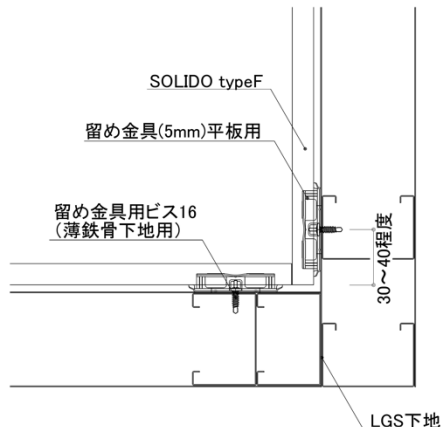
一般部（縦断面）	縦目地部
SOLIDO typeF 留め金具(5mm)平板用 専用ビス 鉄骨下地	SOLIDO typeF 専用ビス 留め金具(5mm)平板用 鉄骨下地
床取合い部	天井取合い部
SOLIDO typeF 専用ビス ロングスターター 巾木 床材 鉄骨下地	天井材 直留め用ビス スペーサー5 SOLIDO typeF 鉄骨下地 30~40程度
出隅部	入隅部
留め金具(5mm)平板用 専用ビス SOLIDO typeF 鉄骨下地	SOLIDO typeF 留め金具(5mm)平板用 専用ビス 鉄骨下地

3. 金具工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	×	×	○

【6】横張り施工のポイント

< 5 > LGS下地（5mm金具留め施工の場合）参考納まり図

一般部（縦断面）	縦目地部
 SOLIDO typeF 留め金具(5mm)平板用 留め金具用ビス16(薄鉄骨下地用) LGS下地	 留め金具用ビス16(薄鉄骨下地用) SOLIDO typeF 留め金具(5mm)平板用 LGS下地
床取合い部	天井取合い部
 SOLIDO typeF 留め金具用ビス16(薄鉄骨下地用) ロングスターター 巾木 床材 LGS下地	 天井材 直留め用ビス35(薄鉄骨下地用) スペーサー5 SOLIDO typeF LGS下地 30~40程度
出隅部	入隅部
 留め金具(5mm)平板用 留め金具用ビス16(薄鉄骨下地用) LGS下地 SOLIDO typeF	 SOLIDO typeF 留め金具(5mm)平板用 留め金具用ビス16(薄鉄骨下地用) LGS下地 30~40程度

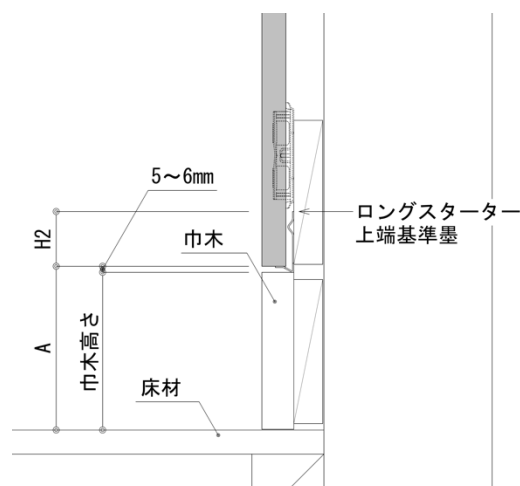
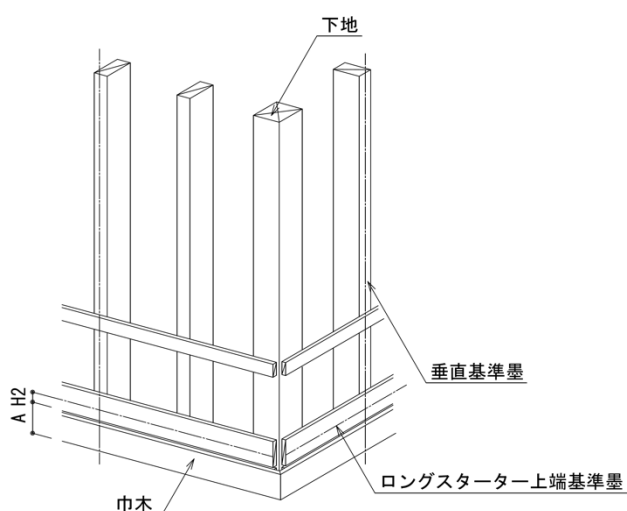
3. 金具工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	○	○	○

【7】縦張り施工のポイント

<1>墨出し

- 本体施工用の垂直基準墨をうちます。
- 施工面各面に1カ所以上、本体上端取付け用水平基準墨をうちます。
- 最下端部に巾木を使用する場合（純正品または市販品）または巾木を使用しない場合によって下図Aの値が異なります。
 - ・純正品巾木の場合：本体は巾木に突付けて施工することが可能です。**ロングスターターは不要です。**
 - ・市販品巾木の場合：ロングスターターは巾木上端から1～2mm程度のすき間をあけて施工をしてください。
(市販品巾木の破損防止のため)
 - ・巾木なしの場合：ロングスターターは床から1～2mm程度のすき間をあけて施工をしてください。
(床の不陸の影響を受けないようにするため)
- ロングスターター上端の墨出し位置H2は下表の通りです。



※図は市販品巾木を使用した場合

	A
純正品巾木	巾木高さ（60mmまたは15mm）
市販品巾木	巾木高さ＋5～6mm程度 （ロングスターター受け部の厚み4mm＋1～2mm程度）
巾木なし	5～6mm程度 （ロングスターター受け部の厚み4mm＋1～2mm程度）

	ロングスターター上端の墨出し位置 H2
ロングスターターなし （純正品巾木を使用する場合）	—
留め金具（5mm）	35mm
通気留め金具（15mm）	32mm

3. 金具工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	○	○	○

【7】縦張り施工のポイント

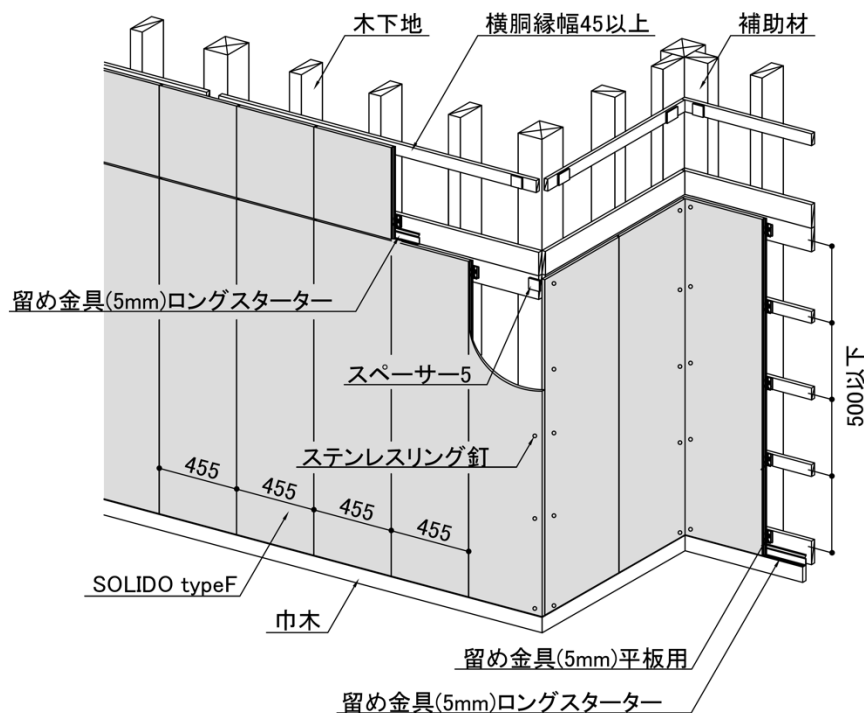
<2>張り方のポイント（5mm金具留め施工の場合）

- 本体は留め金具を使用して施工します。

	留め金具			ロングスターター		
	留付け仕様	留付け間隔	使用部位	留付け仕様	留付け間隔	使用部位
木下地	専用ビス・1本留め	500以下（下地毎）	一般部	専用ビス（同梱）	500以下（下地毎）	張出し部
鉄骨下地	専用ビス・1本留め	606以下（下地毎）		専用ビス （留め金具用ビス19）	606以下（下地毎）	
LGS下地	専用ビス・1本留め	606以下（下地毎）		専用ビス （留め金具用ビス16・30）	606以下（下地毎）	

- 入隅部や開口部左右等、合いじゃくり部分が切断され留め金具が施工できない箇所は、スペーサー5を入れ、端打ち寸法（11ページ参照）を確保し、先孔（釘：φ2mm程度、ビス：φ4mm程度）をあけてから直留め用の専用ビスで下地に固定します。
（鉄骨下地の専用ビス（直留め用ビス50等）を使用する場合は先孔不要）
- 留め金具には、複数のビス穴があいています。部位に合わせて穴を選び、必要本数を留付けます。
- 張出し部1つ目の留め金具は、本体脱落防止のため、必ずロングスターターのすぐ上に取付けてください。
純正品巾木を使用し、ロングスターターを取付けない場合でも、張出し部1つ目の留め金具はなるべく下端部の方に取付けてください。
- 合いじゃくりの部分の接合は、すき間ができないように差込みます。
- 2段目以降の張り出し部にもロングスターターを使用します。
- LGS下地の場合：本体の割付けに合わせて金具の留付けができるようにLGS下地を設ける必要があります。本体を施工する前に、下地の設置位置の確認をしてください。
- 木下地・鉄骨下地の場合：横目地部や張出し部には、下段最上部の留め金具、上段最下部または張出し部のロングスターターおよび留め金具の留付けができるように下地を設けてください。

木下地の場合



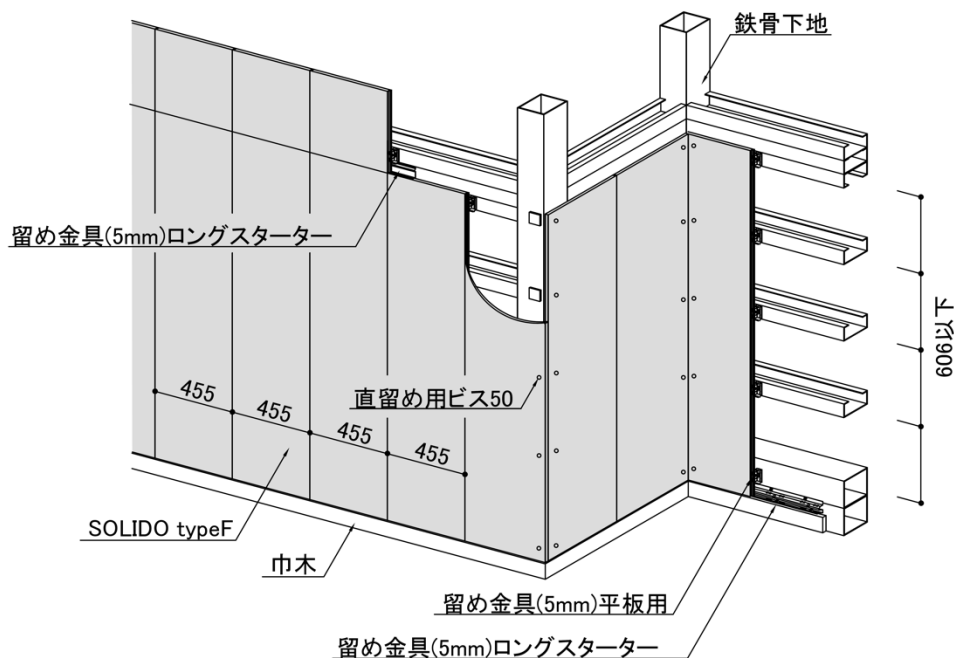
3. 金具工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	×	○	○

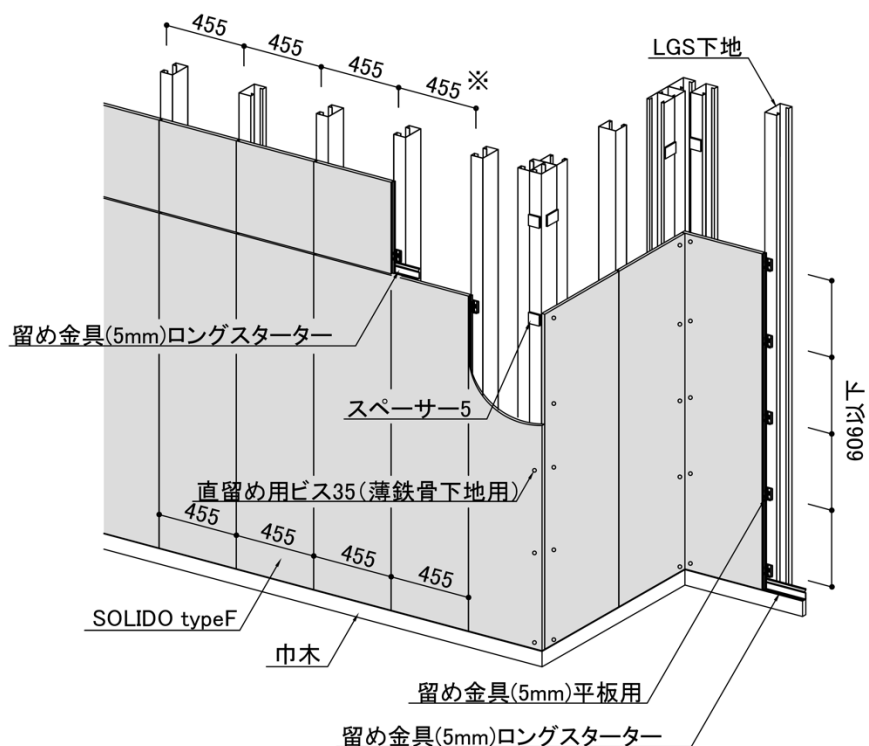
【7】縦張り施工のポイント

<2>張り方のポイント（5mm金具留め施工の場合）

鉄骨下地の場合



LGS下地の場合



※本体の割付けに合わせて金具の留付けができるようにLGS下地を設ける必要があります。

3. 金具工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	○	×	×

【7】縦張り施工のポイント

<3>木下地（5mm金具留め施工の場合）参考納まり図

※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと
接着剤(MPX-7)を併用して留付け

一般部（横断面）	横目地部
留め金具(5mm)平板用 SOLIDO typeF 横胴縁 専用釘又は専用ビス 木造下地	SOLIDO typeF 横胴縁 縦張り用留め金具(5mm)ロングスターター 専用ビス (ロングスターター同梱品) 1/8 x 8 留め金具(5mm)平板用 専用釘又は専用ビス 木造下地
床取合い部	天井取合い部
木下地 SOLIDO typeF 横胴縁 スペーサー5 金具施工用スペーサー ※ 柿渋塗りセンダン巾木(15mm) ※ 床材 リング釘45 20~30程度	天井材 柿渋塗りセンダン見切り (金具工法用) ※ 留め金具(5mm)平板用 横胴縁 SOLIDO typeF 木下地 専用釘又は専用ビス
出隅部	入隅部
柿渋塗りセンダン出隅 ※ 金具施工用スペーサー ※ スペーサー5 20~30程度 リング釘45 横胴縁 SOLIDO typeF 木下地	SOLIDO typeF 横胴縁 スペーサー5 柿渋塗りセンダン見切り (金具工法用) ※ リング釘45 20~30程度 木下地

3. 金具工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	×	○	×

【7】縦張り施工のポイント

＜3＞鉄骨下地（5mm金具留め施工の場合）参考納まり図

一般部（横断面）	横目地部
床取合い部	天井取合い部
出隅部	入隅部

3. 金具工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	×	×	○

【7】縦張り施工のポイント

< 4 > LGS下地（5mm金具留め施工の場合）参考納まり図

一般部（横断面）	横目地部
床取合い部	天井取合い部
出隅部	入隅部

4. 接着工法

【1】下地仕様	29
【2】施工仕様	30
【3】使用部材	31
【4】推奨切断刃	34
【5】施工手順	34
【6】横張り施工のポイント(施工高さ3.2m以下の場合)	35
【7】横張り施工のポイント(施工高さ3.2m超6.2m以下の場合)	48
【8】縦張り施工のポイント(施工高さ3.2m以下の場合)	57
【9】縦張り施工のポイント(施工高さ3.2m超6.2m以下の場合)	70

本推奨施工法では、各ページがどの下地について説明しているか分かるよう、以下の通り、ページ右上に該当下地の○×表を付けています。

例) 木下地について説明している場合

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	○	×	×

4. 接着工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	○	○	○

【1】下地仕様

- 木下地、鉄骨下地、LGS下地に使用できます。
- 落下・脱落・破損等の不具合が起きないように、ご採用者様にて、本資料を参考に施工法や留付け部材、関連部材等を適切に設計・施工してください。
- 各下地の推奨仕様については下表の通りです。

<面材なしの場合>

(単位:mm)

下地種類			木下地	鉄骨下地	LGS下地
下地 (躯体)	寸法	幅	一般部：45以上 目地部：90以上	一般部：C-75×45×15以上 目地部：C-75×45×15以上 ダブル または □-100×100以上	一般部：45以上 目地部：45以上ダブル または幅90以上
		厚さ	米桐15厚、杉材18厚等と 同等の保持力を確保 できる寸法	1.6~2.3	一般材：約0.5~0.6 JIS材：0.8
	横張り	下地方向	縦		
		間隔	500以下 ※1		
	縦張り	下地方向	横		縦 ※2
		間隔	500以下 ※1		幅方向2本(両端) ※2
	固定方法		本体の荷重を十分に受けることができ、かつ割れや著しい反り、不陸等、経年において 本体固定に影響を及ぼす劣化のない固定方法であること (LGS下地の場合のみ：スタッドがランナーにビス等で固定されており、水平方向へ 移動しないこと)		
	不陸		2以下		

※1 施工高さが3.2m超6.2m以下の場合、固定材は下地に留付けるため、本体の目地位置や留付け材の留付け位置に合わせて下地を設ける必要があります。

※2 本体の割付けに合わせてLGS下地を設ける必要があります。

<面材ありの場合>

(単位:mm)

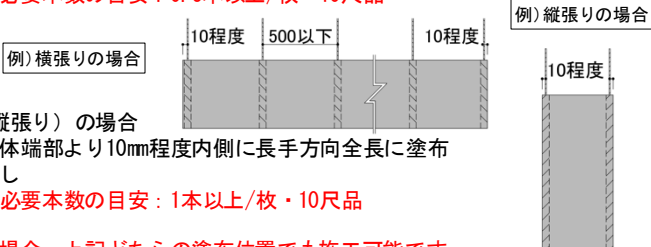
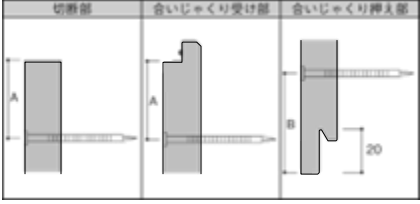
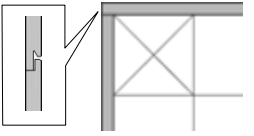
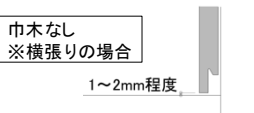
下地種類			木下地	鉄骨下地	LGS下地
下地(躯体)			面材が保持できるサイズ・間隔とすること ※3		
面材	種類・厚さ		下記のいずれかとする ・せっこうボード(GB-R、GB-F、GB-S) 厚9.5以上 ・構造用合板(1類以上) 厚9.0以上 ・けい酸カルシウム板 厚6.0以上		
	固定方法		下地(躯体)に固定されており、割れや著しい反り、不陸等、経年で本体固定に影響を 及ぼす劣化のない固定方法であること		
	不陸		2以下		

※3 施工高さが3.2m超6.2m以下の場合、固定材は下地に留付けるため、本体の目地位置や留付け材の留付け位置に合わせて下地を設ける必要があります。

4. 接着工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	○	○	○

【2】施工仕様

本体加工	最小加工幅	凹型加工：板幅の1/2以上  L型加工：100mm以上  ※上記規定未滿となる場合は分離して突付け ※切断時は塗膜面を傷つけないよう配慮し、裏面を上側にして切断してください。
接着剤	接着剤	MPX-7（品番：KL TMB） ※乾燥硬化型（エマルジョンタイプ、溶剤タイプ）は使用不可。
	塗布面	本体裏面、下地（躯体）表面、面材表面のいずれか
	塗布方法	Φ8mmのビード状にて塗布
	塗布位置	■木下地（縦・横張り）、鉄骨下地（縦・横張り）、LGS下地（横張り）の場合 ・両端：本体端部より10mm程度内側に幅方向全長に塗布 ・中央：長手方向500mm以下の間隔（下地毎）で幅方向全長に塗布 ・接着剤の必要本数の目安：0.5本以上/枚・10尺品  ■LGS下地（縦張り）の場合 ・両端：本体端部より10mm程度内側に長手方向全長に塗布 ・中央：なし ・接着剤の必要本数の目安：1本以上/枚・10尺品 ※面材ありの場合、上記どちらの塗布位置でも施工可能です。
	必要塗布量	本体1枚あたりの必要本数は、【6】～【9】の各張り方の施工のポイント参照
	養生・施工環境条件	接着可能温度：5～35℃、張付け可能時間：15分以内/23℃ （推奨接着剤を使用する場合は、各々の規定に従うこと）
留付け	留付け材・留付け間隔	施工高さ、下地仕様、面材の有無で異なります。32、33ページでご確認ください。
	端打ち寸法	フィニッシュネイル（木・LGS下地（一般材）） A=15～25mm B=30～40mm ステンレスリング釘（木下地） A=20～30mm B=40～50mm ステンレスビス・直留め用ビス（鉄骨下地） A=30～40mm B=50～60mm 軽天タッピングビス（LGS下地（JIS材）） A=30～40mm B=50～60mm 
付帯物		下地に固定すること ※本体または保持力のない下地面材への固定は不可
各部納まり	目地部	合いじゃくり接合 または 突付け ※横張りの縦目地部では、横揺れによる本体木口面の欠け防止のため、10m毎に合計15mm以上のクリアランスをとってください。 
	出隅部	純正品出隅部材納め（5. 木製部材の施工 参照） ※突付け納めも可能ですが、横張りでは右図のように勝ち側の木口に合いじゃくり部が露出しますのでご了承ください。 （補修する場合：6. 参考資料 参照） 
	床取合い部	純正品巾木納め（5. 木製部材の施工 参照） ※巾木なしの場合は、本体下端の欠け防止および本体施工時に床の不陸の影響を受けないよう床面より1～2mm程度のすき間をあけてください。 
	天井等 他部材取合い部	純正品見切り部材納め（5. 木製部材の施工 参照）
補修・仕上げ		※本品は、1枚毎に色味が異なる商品のため、現場仕上げ塗料（補修塗料）は設定していません。補修・仕上げが必要な場合は、市販の補修剤（6. 参考資料参照）をご検討ください。

4. 接着工法

該当地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	○	○	○

【3】使用部材

< 1 > 接着剤

- 接着剤は下記のMPX-7（JIS A 5538適合）をご使用ください。
- MPX-7はコニシ株式会社の商品として通常販売されている商品です。コニシ株式会社設定品番はケイミュー設定品番とは異なります。ご注意ください。

品名（品番）	形状	主成分	シックハウス対応	容量
MPX-7 品番：KL TMB		一液型変成シリコーン樹脂系 接着剤	F☆☆☆☆ JA1A 4VOC基準適合	333ml/本 20本/箱
本体1枚あたりの必要本数は、【6】～【9】の各張り方の施工のポイントをご参照ください				

- 「MPX-7」以外の接着剤をご使用される場合は、内壁用の1液常温硬化型変成シリコーン樹脂系弾力性接着剤でかつ、JIS A 5538適合品をご使用ください。
ただし、本製品との接着性やシックハウス対応等の仕様について確認してからご使用ください。
※乾燥硬化型（エマルジョンタイプ、溶剤タイプ）の接着剤は、本製品の反りや接着不良となる恐れがあるため、使用しないでください。

4. 接着工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	○	○	○

【3】使用部材

< 2 > 留付け材（仮留め材・固定材）適用表

① 施工高さ3.2m以下

- 仮留め材は下表の釘またはビスを使用します。
- フィニッシュネイルを施工する時は**高圧フィニッシュネイラー**を使用してください。
- ビス頭の補修・仕上がりが必要な場合は、市販の補修剤（6. 参考資料 参照）をご検討ください。
- 面材の仕様は29ページを参照してください。

（1）木下地

（単位：mm）

面材	留付け材（仮留め材）		固定間隔	
	種類	サイズ	幅方向	長手方向
なし	フィニッシュネイル	25（長さ）	3本（両端、中央）以上	@500以下
あり	フィニッシュネイル	25（長さ）	3本（両端、中央）以上	@500以下
			2本（両端）以上	@300以下

（2）鉄骨下地

（単位：mm）

面材	留付け材（仮留め材）			固定間隔	
	種類	サイズ	入数	幅方向	長手方向
なし	直留め用ビス50 （鉄骨下地用） 品番：B88501	φ4.2×50	200本/箱	2本（両端）以上	3本（両端、中央）以上 ※1
あり	フィニッシュネイル ※2	25（長さ）	—	3本（両端、中央）以上	@500以下
				2本（両端）以上	@300以下

※1 本体長さが1500以下の場合は2本（両端）以上とします。

※2 面材の厚みが9mm未満の場合、フィニッシュネイルは鉄骨下地に当たらない位置に留付けてください。
鉄骨下地に当たる場合は、「面材なし」の場合の留付け材・固定間隔としてください。

（3）LGS下地（一般材：t=0.5～0.6）

（単位：mm）

面材	留付け材（仮留め材）			固定間隔	
	種類・入数	サイズ	入数	幅方向	長手方向
なし	フィニッシュネイル	25（長さ）	—	横張り：3本（両端、中央）以上	@500以下
				縦張り：2本（両端）以上	@300以下
	直留め用ビス35 （薄鉄骨下地用）※3 品番：B8852135	φ4.5×35以上	—	2本（両端）以上	3本（両端、中央）以上 ※4
あり	フィニッシュネイル	25（長さ）	—	3本（両端、中央）以上	@500以下
				2本（両端）以上	@300以下

※3 直留めビス35 品番：B885235は使用不可です。

※4 本体長さが1500以下の場合は2本（両端）以上とします。

（4）LGS下地（JIS材：t=0.8）

（単位：mm）

面材	留付け材（仮留め材）			固定間隔	
	種類	サイズ	入数	幅方向	長手方向
なし	直留め用ビス35 （薄鉄骨下地用）※5 品番：B8852135	φ4.5×35以上	—	2本（両端）以上	3本（両端、中央）以上 ※6
あり	フィニッシュネイル ※7	25（長さ）	—	3本（両端、中央）以上	@500以下
				2本（両端）以上	@300以下

※5 直留めビス35 品番：B885235は使用不可です。

※6 本体長さが1500以下の場合は2本（両端）以上とします。

※7 面材の厚みが9mm未満の場合、フィニッシュネイルはLGS下地に当たらない位置に留付けてください。
LGS下地に当たる場合は「直留め用ビス45（薄鉄骨下地用）/B885245」を使用し、「面材なし」の場合の固定間隔としてください。

4. 接着工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	○	○	○

【3】使用部材

< 2 > 留付け材（仮留め材・固定材）適用表

②施工高さ3.2m超 6.2m以下

●固定材は下表の釘またはビスを使用します。

※釘は近似色ですがビスは近似色ではありません。

●釘（ビス）頭の補修・仕上げが必要な場合は、市販の補修剤（6. 参考資料 参照）をご検討ください。

●面材の仕様は29ページを参照してください。

（1）木下地

（単位：mm）

面材			留付け材（固定材）			固定間隔	
			種類	サイズ	入数	幅方向	長手方向
なし	coffee		リング釘40 品番：B8740W1559	φ2.3×40	36本/袋	2本（両端）以上	本体長さ1500mm超え： 3本（両端、中央）以上 本体長さ1500mm以下： 2本（両端）以上
	shirasu		リング釘45（直留め用） 品番：B8745R400	φ2.4×45	40本/袋		
あり ※1	coffee	面材厚さ 40mm以下	リング釘75（直留め用） 品番：B8775W1559	φ3.0×75	36本/袋		
	shirasu	面材厚さ 30mm以下	リング釘65（直留め用） 品番：B8765R400	φ3.0×65	40本/袋		

※1 現場調達品の場合は、径2.3mm以上 長さ＝面材厚さ+35mm以上のステンレスリング釘としてください。

（2）鉄骨下地

（単位：mm）

面材			留付け材（固定材）			固定間隔	
			種類	サイズ	入数	幅方向	長手方向
なし			直留め用ビス50 （鉄骨下地用） 品番：B88501	φ4.2×50	200本/箱	2本（両端）以上	本体長さ1500mm超え： 3本（両端、中央）以上 本体長さ1500mm以下： 2本（両端）以上
あり ※2	面材厚さ 20mm以下		直留め用ビス50 （鉄骨下地用） 品番：B88501	φ4.2×50	200本/箱		
	面材厚さ 20mm超～30mm		直留め用ビス60 （鉄骨下地用） 品番：B8860	φ5.0×60	200本/箱		
	面材厚さ 30mm超～50mm		直留め用ビス80 （鉄骨下地用） 品番：B8880	φ5.0×80	200本/箱		

※2 現場調達品の場合は、径3.5mm以上 長さ＝面材厚さ+30mm以上のステンレスビスとしてください。

（3）LGS下地（一般材・JIS材共通）

（単位：mm）

面材			留付け材（固定材）			固定間隔	
			種類	サイズ	入数	幅方向	長手方向
なし			直留め用ビス35 （薄鉄骨下地用）※3 品番：B8852135	φ4.5×35以上	300本/箱	2本（両端）以上	本体長さ1500mm超え： 3本（両端、中央）以上 本体長さ1500mm以下： 2本（両端）以上
あり ※4	面材厚さ 10mm以下		直留め用ビス45 （薄鉄骨下地用） 品番：B885245	φ4.5×45	300本/箱		
	面材厚さ 10mm超～30mm		直留め用ビス60 （薄鉄骨下地用） 品番：B885260	φ4.5×60	200本/箱		

※3 直留めビス35 品番：B885235は使用不可です。

※4 面材厚さが30mmを超える場合は現地調達品としてください。

4. 接着工法

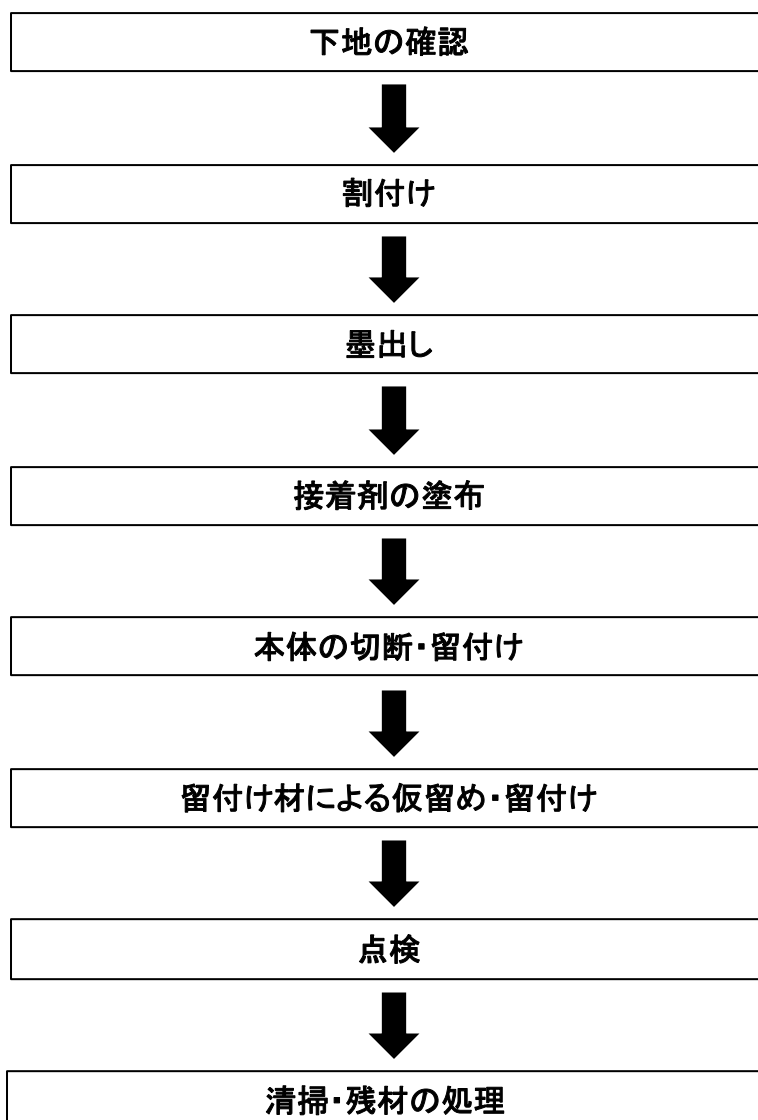
該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	○	○	○

【4】推奨切断刃

品名	品番	形状・寸法	材質	入数 (出荷単位)
ダイヤモンド ^{テン} 10(φ100)	B491	 外径: 100mm 内径: 20mm 刃厚: 1.5mm 刃数: 10	ダイヤモンドチップ	1枚
ダイヤモンド ^{テン} 10(φ125)	B492	 外径: 125mm 内径: 20mm 刃厚: 1.5mm 刃数: 10	ダイヤモンドチップ	1枚

- 切断の際に粉じんがでますので、工具連動集じん機をセットした防じんカッターの使用、防じんマスク・メガネの着用等の対策をお願いします。
- 切断方法等に関しては、ケイミューの「外壁材設計施工マニュアル」の最新版をご確認ください。

【5】施工手順



4. 接着工法

該当下地

木下地

鉄骨下地

LGS下地

○

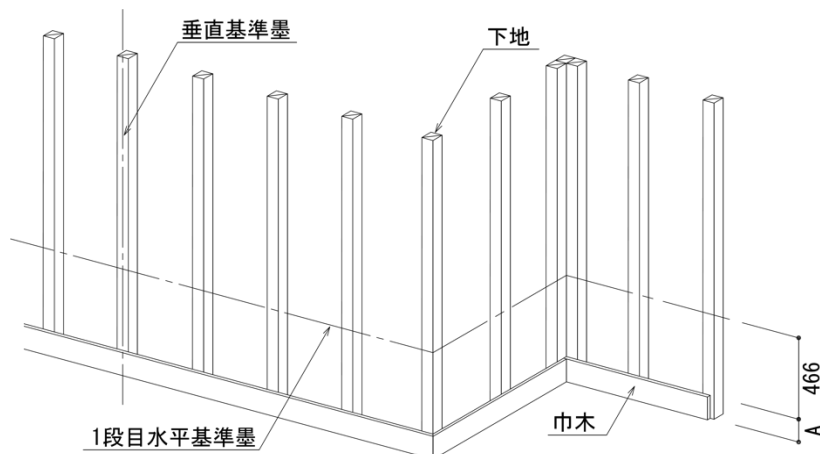
○

○

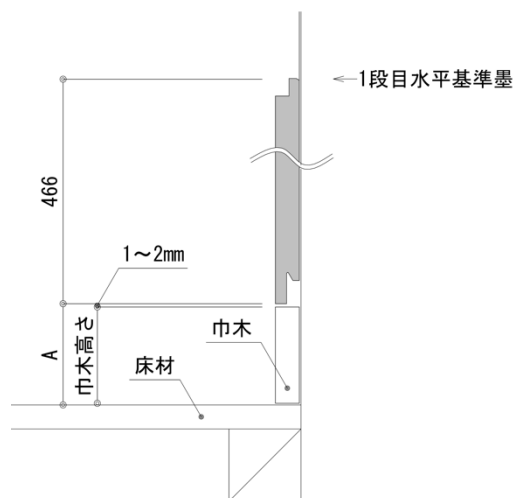
【6】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

<1> 墨出し

- 本体の水平基準を出すため、本体1段目の水平基準墨をうちます。
- 施工面各面に1カ所以上、縦目地部の位置に垂直基準墨をうちます。
- 最下端部に巾木を使用する場合（純正品または市販品）または巾木を使用しない場合によって下図Aの値が異なります。
 - ・ 純正品巾木の場合：本体は巾木に突付けて施工することが可能です。
 - ・ 市販品巾木の場合：本体は巾木上端から1～2mm程度のすき間をあけて施工をしてください。（本体下端の欠け防止のため）
 - ・ 巾木なしの場合：本体は床から1～2mm程度のすき間をあけて施工をしてください。
（本体下端の欠け防止のためおよび床の不陸の影響を受けないようにするため）



	A
純正品巾木	巾木高さ（60mmまたは15mm）
市販品巾木	巾木高さ+1～2mm程度
巾木なし	1～2mm程度



※図は市販品巾木を使用した場合

4. 接着工法

該当下地

木下地

鉄骨下地

LGS下地

○

○

○

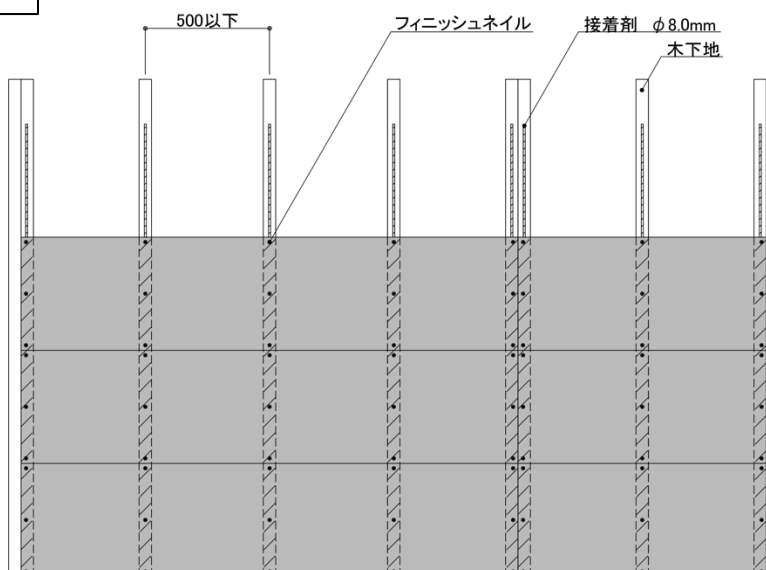
【6】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

＜2＞張り方のポイント

- 本仕様は、施工高さが3.2m以下の場合にのみ使用可能です。施工高さが3.2m超6.2m以下の場合は、接着剤と固定材を併用した剥落防止処置が必要です。（48～56ページ参照）
- 本体は、接着剤（MPX-7）または推奨接着剤と、仮留め材（フィニッシュネイル、ビス）を併用して施工します。
- 接着剤（MPX-7）は、Φ8mmのビード状で塗布します。（本体1枚当たりの必要本数は、36～39ページ参照）
- 仮留め材は下地（躯体）または面材に仮留め固定してください。
- 留付けは端打ち寸法（30ページ参照）を確保してください。（接着剤塗布位置と仮留め位置をそろえる必要はありません。）
- LGS下地で専用ビスを使用する場合は、先孔（Φ4mm程度）をあけてから固定してください。

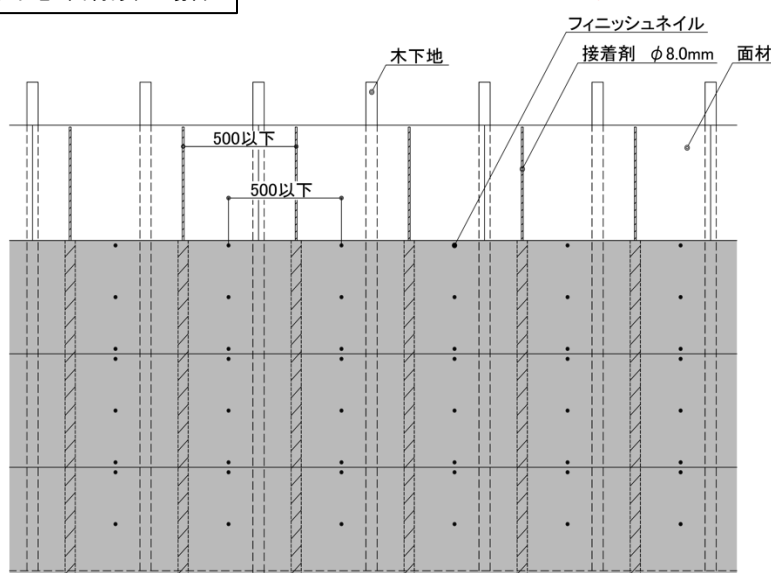
木下地 面材なしの場合

接着剤の必要本数の目安: 0.5本以上/枚・10尺品



木下地 面材ありの場合

接着剤の必要本数の目安: 0.5本以上/枚・10尺品



※左図は下記の施工方法の場合

＜接着剤＞

- ・両端: 幅方向全長
- ・中央: 長さ方向@500mm以下で幅方向全長

＜仮留め材＞

- ・幅方向: 3本(両端、中央)以上
- ・長さ方向: @500mm以下

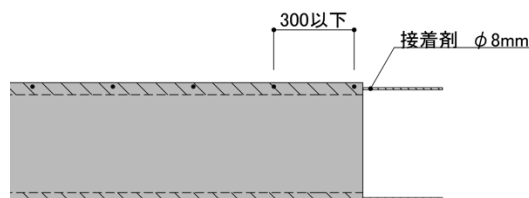
※面材ありの場合、下図の接着剤、仮留め材の施工方法でもそれぞれ施工可能です。接着剤の必要本数の目安: 1本以上/枚・10尺品

＜接着剤＞

- ・両端: 長手方向全長
- ・中央: なし

＜仮留め材＞

- ・幅方向: 2本(両端)以上
- ・長さ方向: @300mm以下



※上図の接着剤、仮留め材の施工方法とそれぞれ組合せても可

4. 接着工法

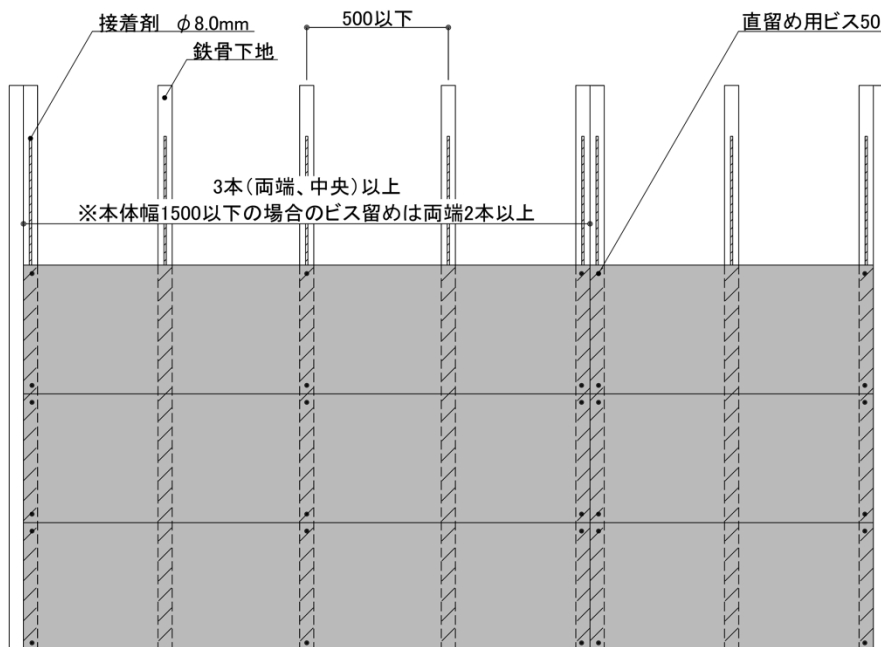
該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	×	○	×

【6】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

<2>張り方のポイント

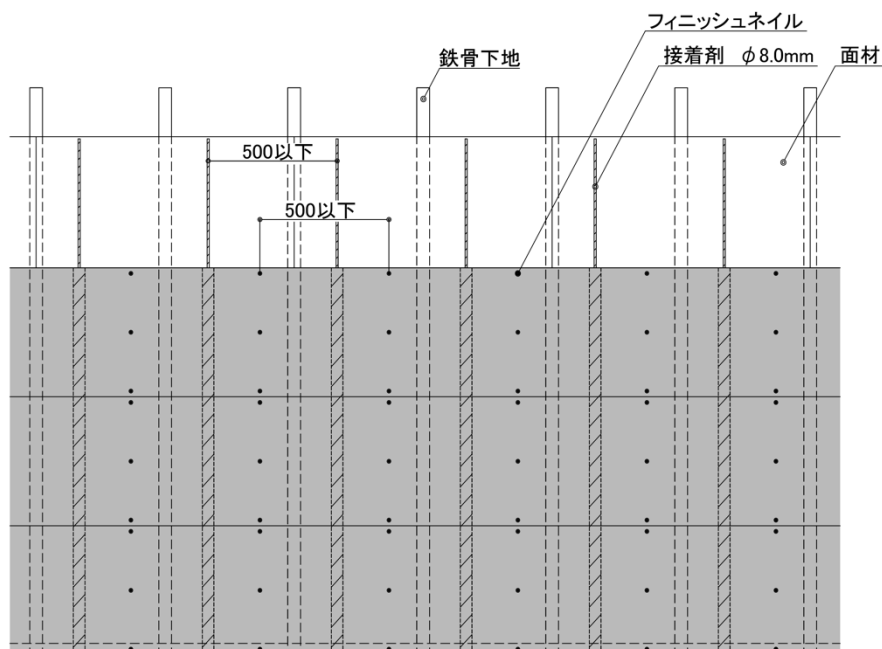
鉄骨下地 面材なしの場合

接着剤の必要本数の目安: 0.5本以上/枚・10尺品



鉄骨下地 面材ありの場合

接着剤の必要本数の目安: 0.5本以上/枚・10尺品



※左図は下記の施工方法の場合

<接着剤>

- ・両端: 幅方向全長
- ・中央: 長さ方向@500mm以下で幅方向全長

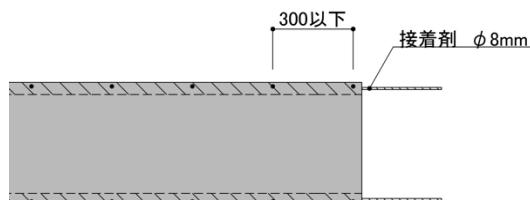
<仮留め材>

- ・幅方向: 3本(両端、中央)以上
- ・長さ方向: @500mm以下

※面材ありの場合、下図の接着剤、仮留め材の施工方法でもそれぞれ施工可能です。接着剤の必要本数の目安: 1本以上/枚・10尺品

- <接着剤>
- ・両端: 長さ方向全長
 - ・中央: なし

- <仮留め材>
- ・幅方向: 2本(両端)以上
 - ・長さ方向: @300mm以下



※上図の接着剤、仮留め材の施工方法とそれぞれ組合せても可

4. 接着工法

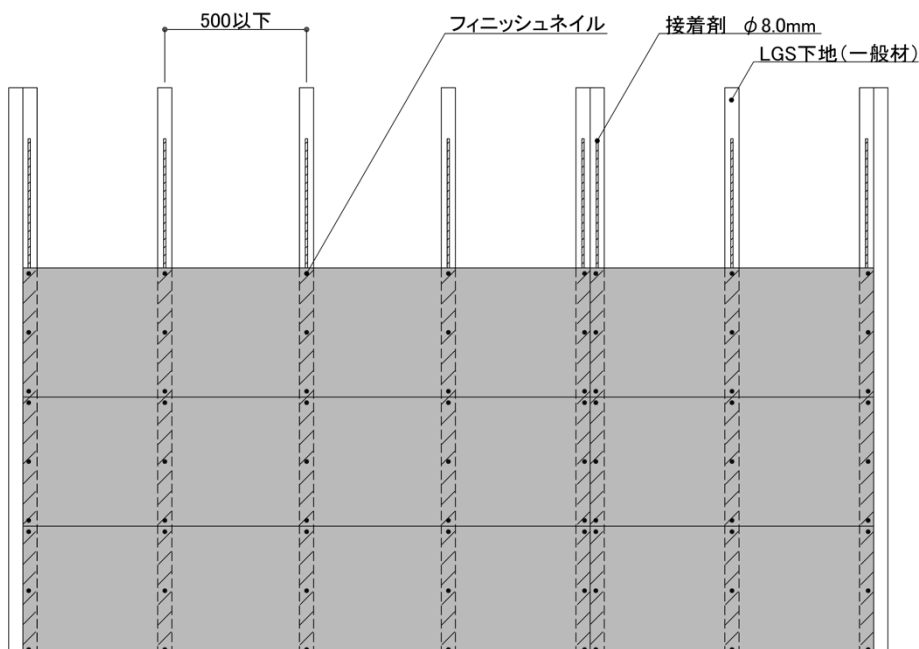
該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	×	×	○

【6】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

<2>張り方のポイント

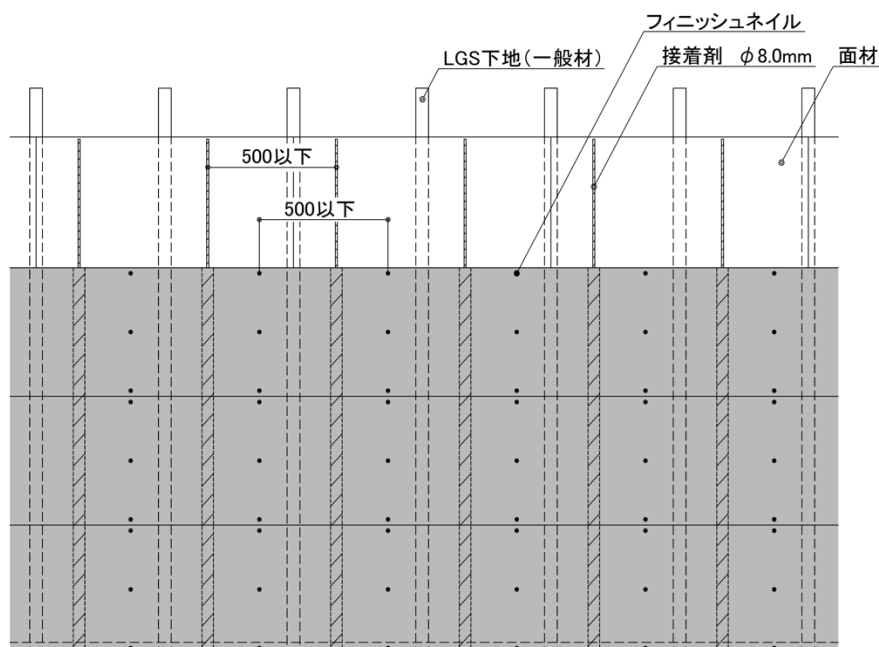
LGS下地（一般材） 面材なしの場合

接着剤の必要本数の目安: 0.5本以上/枚・10尺品



LGS下地（一般材） 面材ありの場合

接着剤の必要本数の目安: 0.5本以上/枚・10尺品



※左図は下記の施工方法の場合

<接着剤>

- ・両端: 幅方向全長
- ・中央: 長さ方向@500mm以下で幅方向全長

<仮留め材>

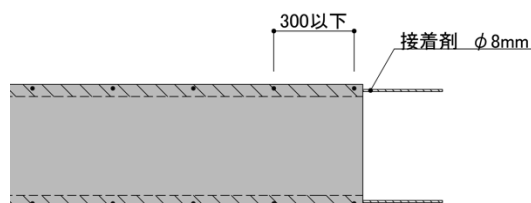
- ・幅方向: 3本(両端、中央)以上
- ・長さ方向: @500mm以下

※面材ありの場合、下図の接着剤、仮留め材の施工方法でもそれぞれ施工可能です。接着剤の必要本数の目安: 1本以上/枚・10尺品

- <接着剤>
- ・両端: 長さ方向全長
 - ・中央: なし

<仮留め材>

- ・幅方向: 2本(両端)以上
- ・長さ方向: @300mm以下



※上図の接着剤、仮留め材の施工方法とそれぞれ組合せても可

4. 接着工法

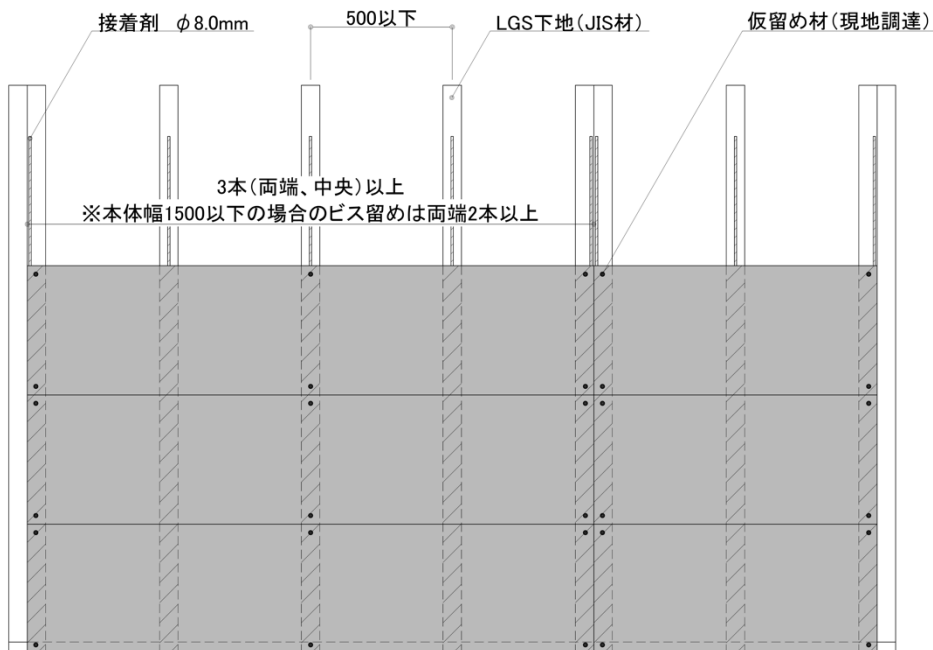
該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	×	×	○

【6】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

<2>張り方のポイント

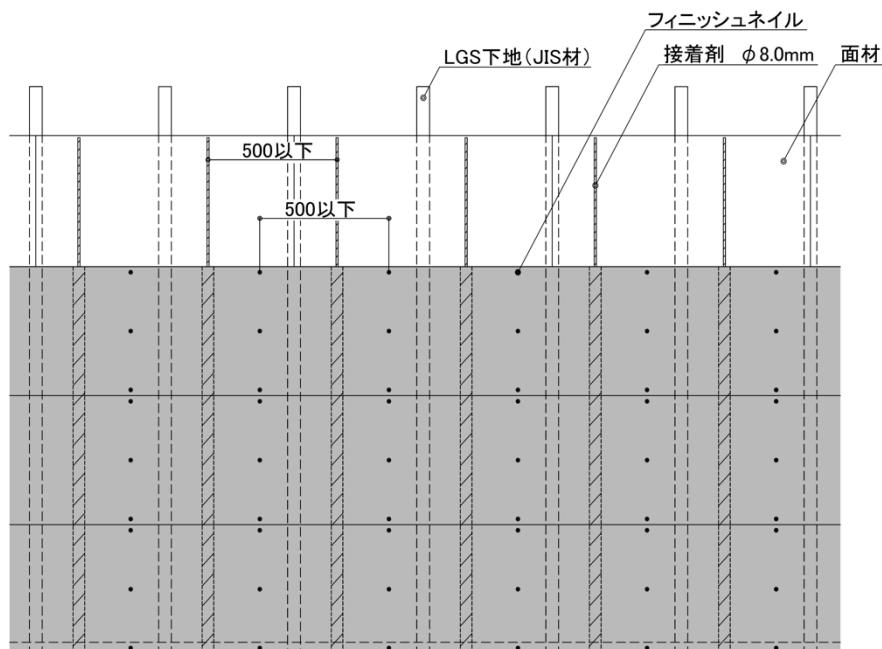
LGS下地(JIS材) 面材なしの場合

接着剤の必要本数の目安: 0.5本以上/枚・10尺品



LGS下地(JIS材) 面材ありの場合

接着剤の必要本数の目安: 0.5本以上/枚・10尺品



※左図は下記の施工方法の場合

<接着剤>

- ・両端: 幅方向全長
- ・中央: 長さ方向@500mm以下で幅方向全長

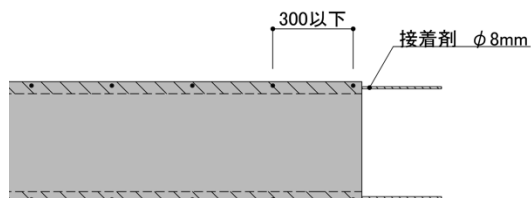
<仮留め材>

- ・幅方向: 3本(両端、中央)以上
- ・長さ方向: @500mm以下

※面材ありの場合、下図の接着剤、仮留め材の施工方法でもそれぞれ施工可能です。接着剤の必要本数の目安: 1本以上/枚・10尺品

- <接着剤>
- ・両端: 長さ方向全長
 - ・中央: なし

- <仮留め材>
- ・幅方向: 2本(両端)以上
 - ・長さ方向: @300mm以下



※上図の接着剤、仮留め材の施工方法とそれぞれ組合せても可

4. 接着工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	○	×	×

【6】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

＜3＞木下地：面材なし 参考納まり図

※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと
接着剤（MPX-7）を併用して留付け

一般部（縦断面）	縦目地部
床取合い部	天井取合い部
出隅部	入隅部

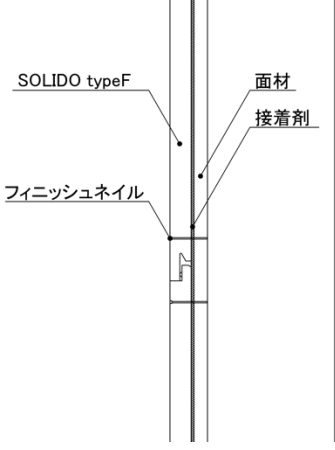
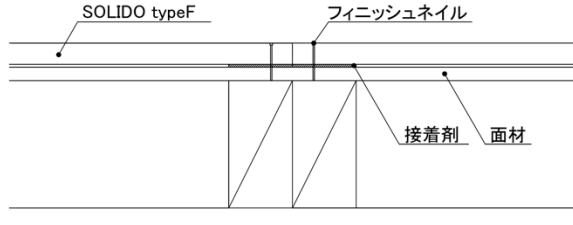
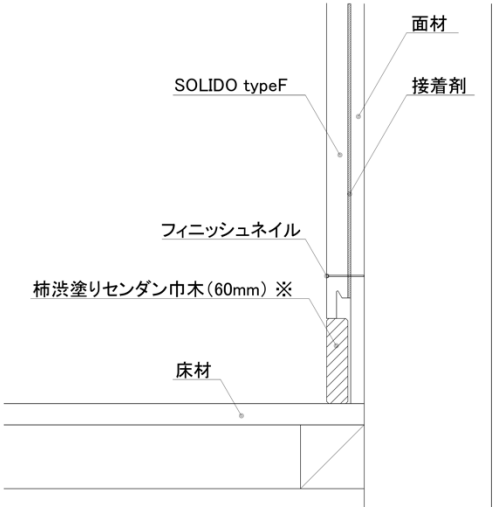
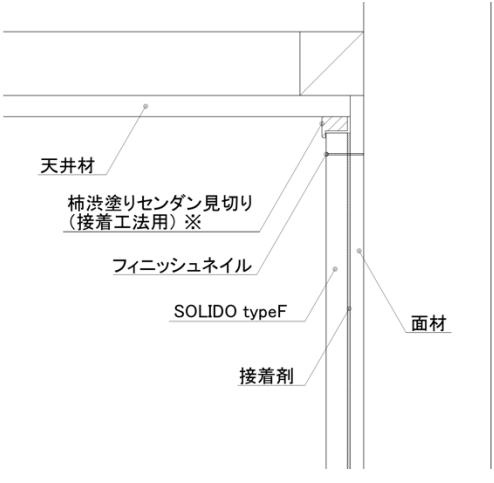
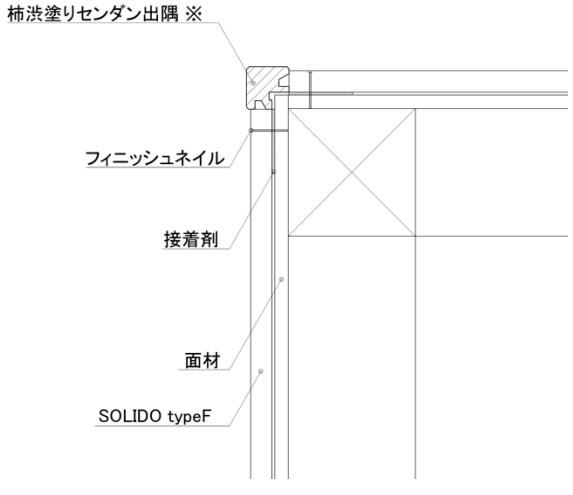
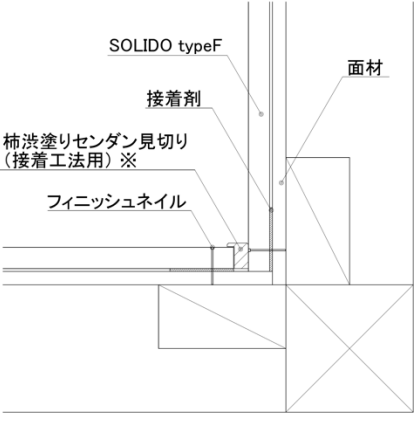
4. 接着工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	○	×	×

【6】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

＜4＞木下地：面材あり 参考納まり図

※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと
接着剤(MPX-7)を併用して留付け

一般部（縦断面）	縦目地部
	
床取合い部	天井取合い部
	
出隅部	入隅部
	

4. 接着工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	×	○	×

【6】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

<5>鉄骨下地：面材なし 参考納まり図

一般部（縦断面）	縦目地部
SOLIDO typeF 直留め用ビス50 接着剤	SOLIDO typeF 直留め用ビス50 接着剤
床取合い部	天井取合い部
SOLIDO typeF 直留め用ビス50 接着剤 巾木 床材	天井材 直留め用ビス50 SOLIDO typeF 接着剤
出隅部	入隅部
直留め用ビス50 接着剤 SOLIDO typeF	SOLIDO typeF 接着剤 直留め用ビス50

4. 接着工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	×	○	×

【6】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

＜6＞鉄骨下地：面材あり 参考納まり図

※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと
接着剤(MPX-7)を併用して留付け

一般部（縦断面）	縦目地部
床取合い部	天井取合い部
出隅部	入隅部

4. 接着工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	×	×	○

【6】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

<7>LGS下地（一般材）：面材なし 参考納まり図

一般部（縦断面）	縦目地部
床取合い部	天井取合い部
出隅部	入隅部

4. 接着工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	×	×	○

【6】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

< 8 > LGS下地（一般材）：面材あり 参考納まり図

※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと
接着剤(MPX-7)を併用して留付け

一般部（縦断面）	縦目地部
床取合い部	天井取合い部
出隅部	入隅部

4. 接着工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	×	×	○

【6】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

<9>LGS下地（JIS材）：面材なし 参考納まり図ー

一般部（縦断面）	縦目地部
床取合い部	天井取合い部
出隅部	入隅部

4. 接着工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	×	×	○

【6】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

< 10 > LGS下地（JIS材）：面材あり 参考納まり図

※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと
接着剤（MPX-7）を併用して留付け

一般部（縦断面）	縦目地部
床取合い部	天井取合い部
出隅部	入隅部

4. 接着工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	○	○	○

【7】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m超 6.2m以下の場合）

※施工高さ3.2mを超える部分では、固定材（釘・ビス）による剥落防止処置が必要です。
仮留め材（フィニッシュネイル等）による留付けや面材への固定は不可ですので、ご注意ください。

<1> 墨出し

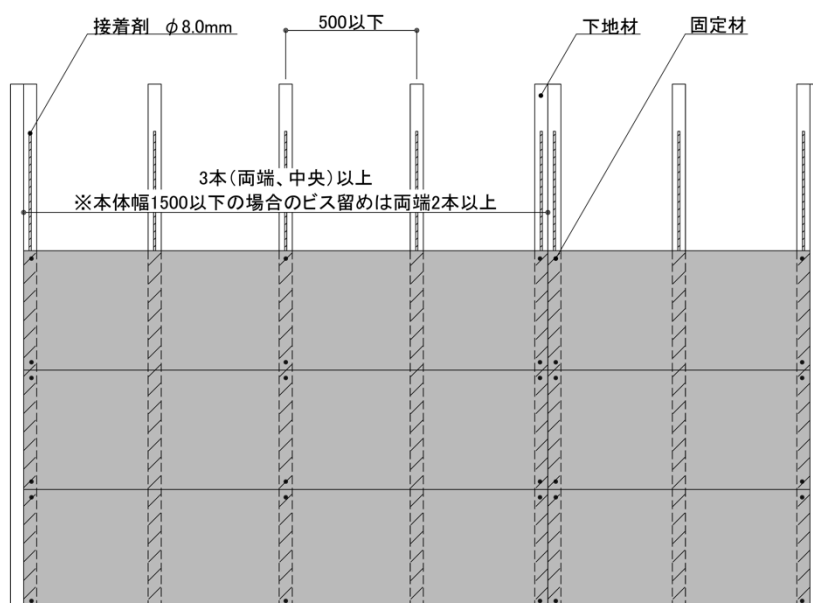
- 「【6】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）」と同様です。

<2> 張り方のポイント

- 本体は、接着剤（MPX-7）または推奨接着剤と、固定材（釘、ビス）を併用して施工します。
- 接着剤（MPX-7）は、 $\phi 8\text{mm}$ のビード状で塗布します。（本体1枚当たりの必要本数は、下図 参照）
- 固定材は下地（躯体）に固定してください。
- 留付けは端打ち寸法（30ページ参照）を確保してください。（接着剤塗布位置と仮留め位置をそろえる必要はありません。）
- 先孔（釘： $\phi 2\text{mm}$ 程度、ビス： $\phi 4\text{mm}$ 程度）をあけてから固定してください。（鉄骨下地でリーマ付ビス（直留め用ビス50等）を使用する場合は先孔不要）
- 本体の割付けや固定材の留付け位置に合わせて下地を設ける必要があります。本体を施工する前に、下地位置の確認をしてください。

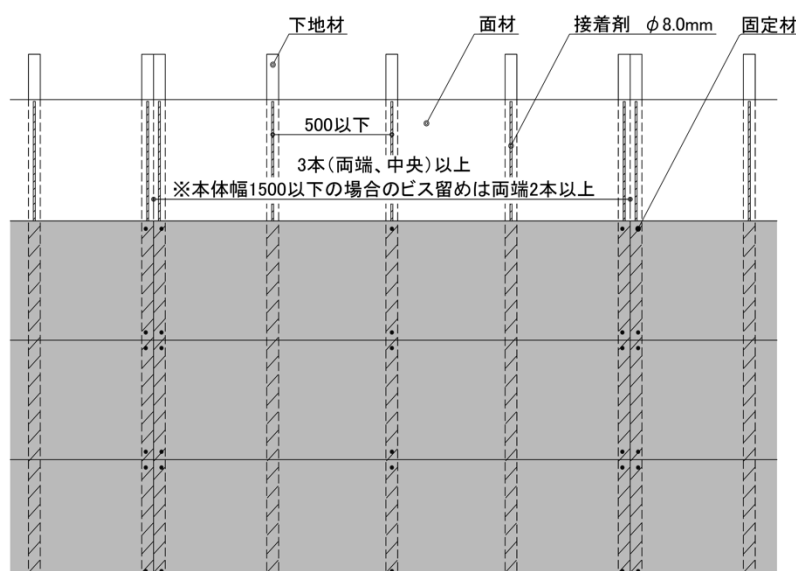
木・鉄骨・LGS下地（一般材、JIS材） 面材なしの場合

接着剤の必要本数の目安: 0.5本以上/枚・10尺品

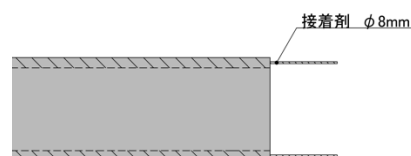


木・鉄骨・LGS下地（一般材、JIS材） 面材ありの場合

接着剤の必要本数の目安: 0.5本以上/枚・10尺品



※下図の接着剤の塗布方法でも施工可能です。
接着剤の必要本数の目安: 1本以上/枚・10尺品



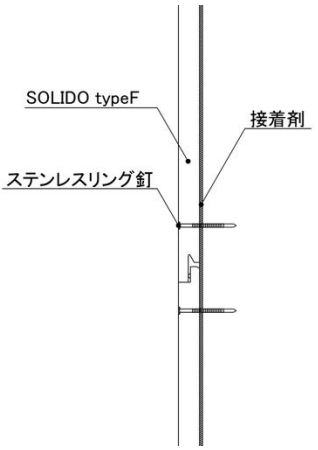
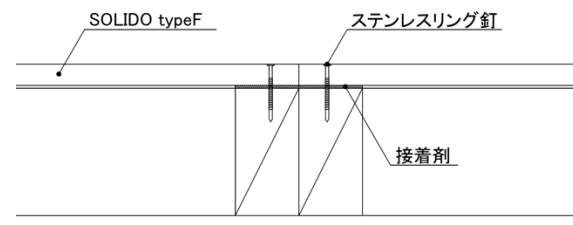
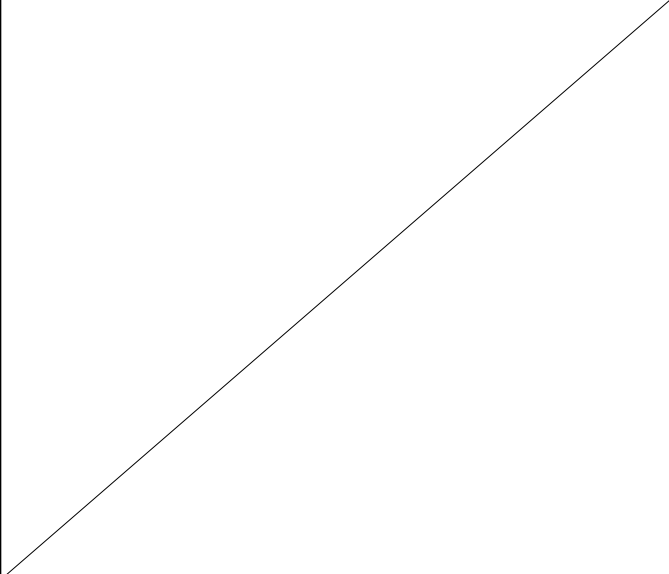
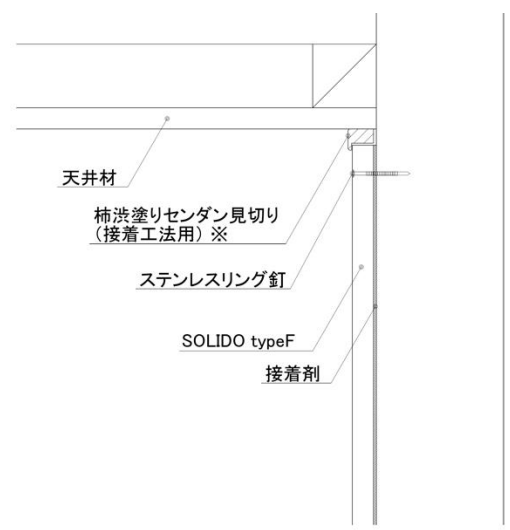
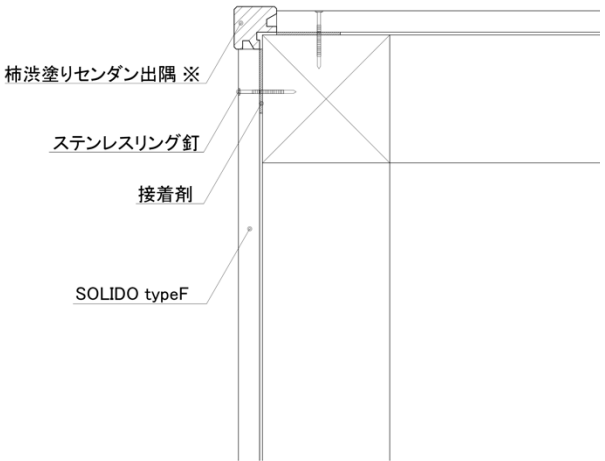
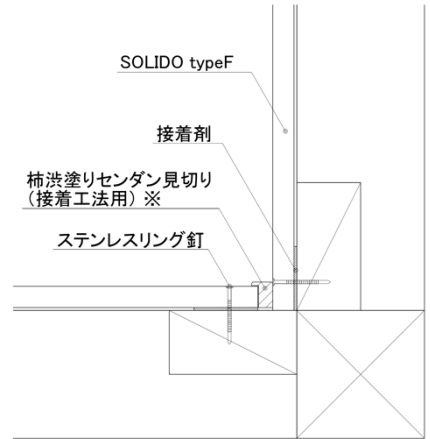
4. 接着工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	○	×	×

【7】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m超 6.2m以下の場合）

＜3＞木下地：面材なし 参考納まり図

※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと
接着剤(MPX-7)を併用して留付け

一般部（縦断面）	縦目地部
 SOLIDO typeF ステンレスリング釘 接着剤	 SOLIDO typeF ステンレスリング釘 接着剤
床取合い部	天井取合い部
	 天井材 柿渋塗りセンダン見切り （接着工法用）※ ステンレスリング釘 SOLIDO typeF 接着剤
出隅部	入隅部
 柿渋塗りセンダン出隅 ※ ステンレスリング釘 接着剤 SOLIDO typeF	 SOLIDO typeF 接着剤 柿渋塗りセンダン見切り （接着工法用）※ ステンレスリング釘

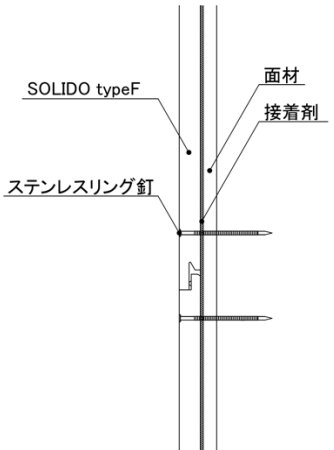
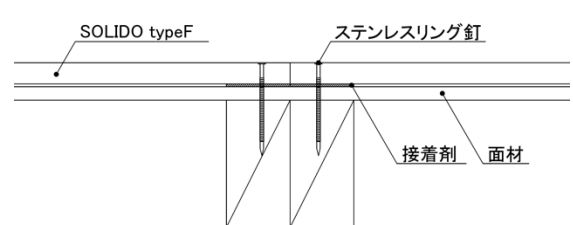
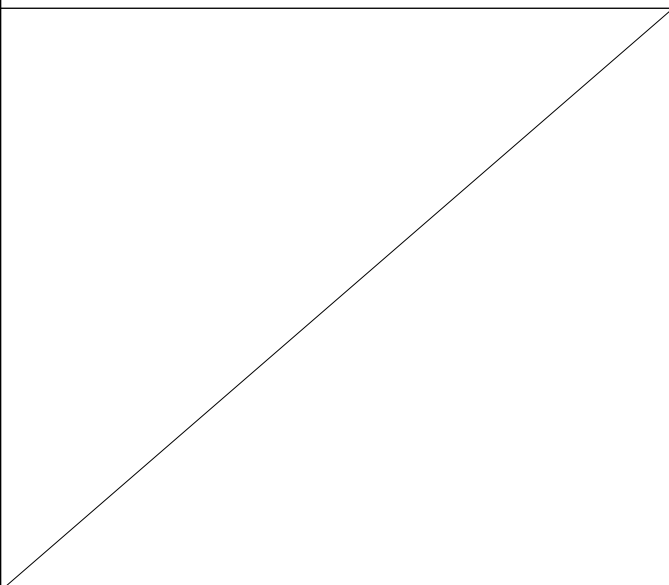
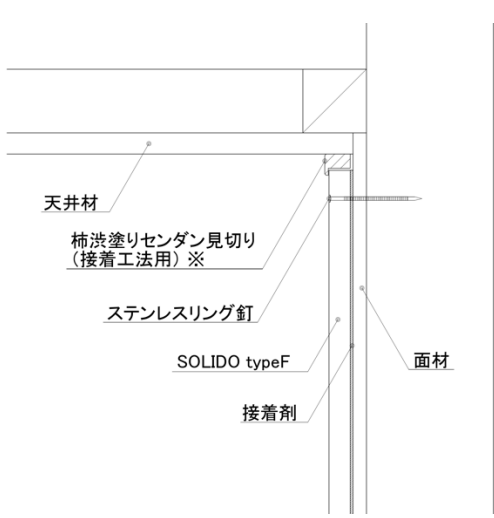
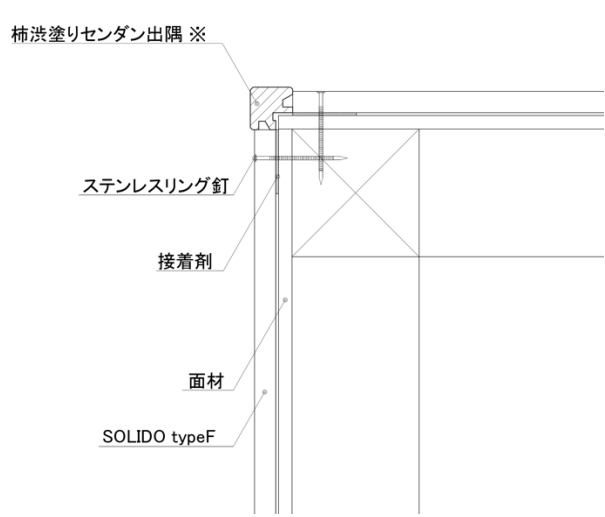
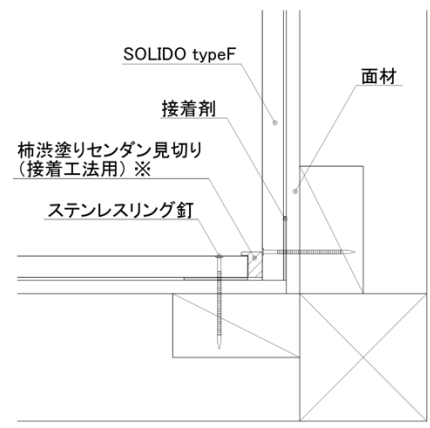
4. 接着工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	○	×	×

【7】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m超 6.2m以下の場合）

＜4＞木下地：面材あり 参考納まり図

※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと
接着剤(MPX-7)を併用して留付け

一般部（縦断面）	縦目地部
	
床取合い部	天井取合い部
	
出隅部	入隅部
	

4. 接着工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	×	○	×

【7】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m超 6.2m以下の場合）

<5>鉄骨下地：面材なし 参考納まり図

一般部（縦断面）	縦目地部
床取合い部	天井取合い部
出隅部	入隅部

4. 接着工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	×	○	×

【7】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m超 6.2m以下の場合）

<6>鉄骨下地：面材あり 参考納まり図

※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと
接着剤(MPX-7)を併用して留付け

一般部（縦断面）	縦目地部
床取合い部	天井取合い部
出隅部	入隅部

4. 接着工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	×	×	○

【7】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m超 6.2m以下の場合）

<7>LGS下地（一般材）：面材なし 参考納まり図

一般部（縦断面）	縦目地部
床取合い部	天井取合い部
出隅部	入隅部

4. 接着工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	×	×	○

【7】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m超 6.2m以下の場合）

< 8 > LGS下地（一般材）：面材あり 参考納まり図

※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと
接着剤(MPX-7)を併用して留付け

一般部（縦断面）	縦目地部
床取合い部	天井取合い部
出隅部	入隅部

4. 接着工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	×	×	○

【7】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m超 6.2m以下の場合）

<9>LGS下地（JIS材）：面材なし 参考納まり図

一般部（縦断面）	縦目地部
床取合い部	天井取合い部
出隅部	入隅部

4. 接着工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	×	×	○

【7】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m超 6.2m以下の場合）

< 10 > LGS下地（JIS材）：面材あり 参考納まり図

※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと
接着剤（MPX-7）を併用して留付け

一般部（縦断面）	縦目地部
床取合い部	天井取合い部
出隅部	入隅部

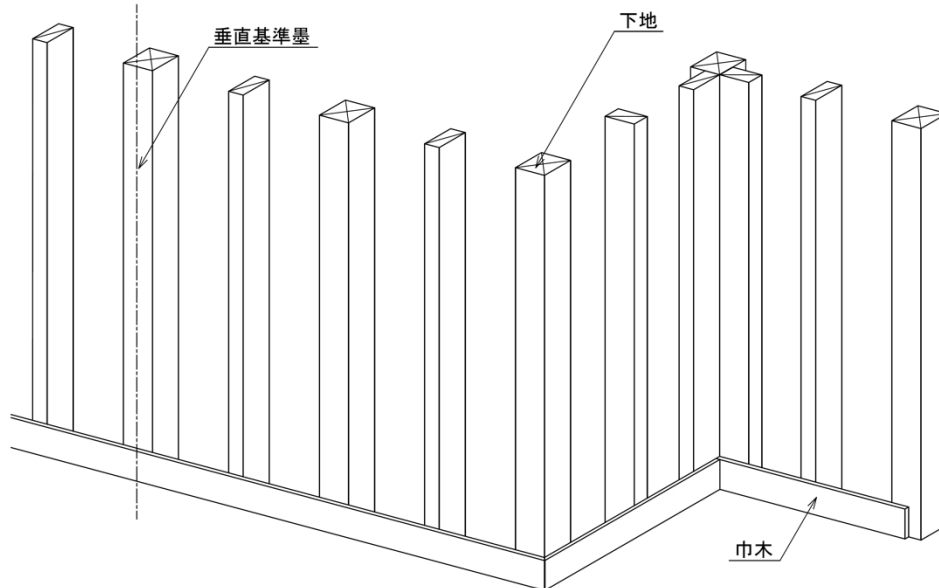
4. 接着工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	○	○	○

【8】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

<1>墨出し

- 施工面各面に1カ所、垂直基準墨をうちます。



4. 接着工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	○	○	○

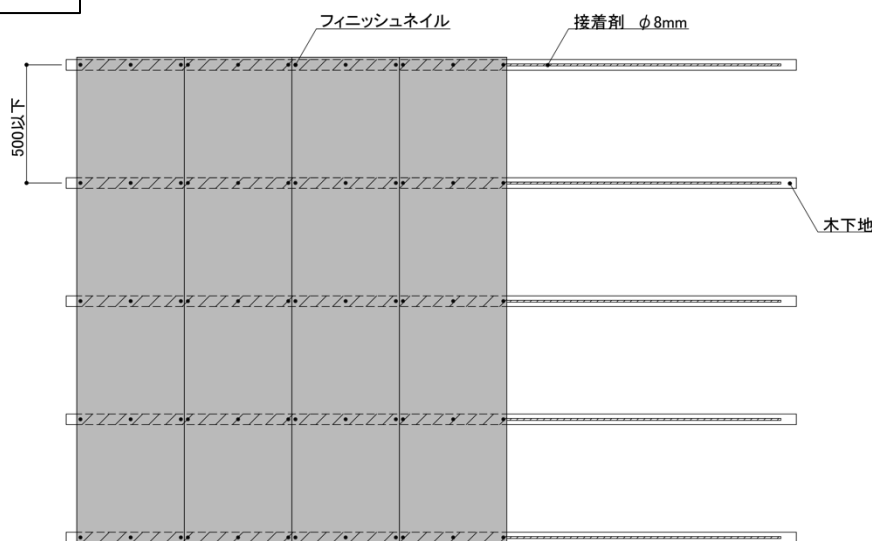
【8】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

＜2＞張り方のポイント

- 本仕様は、施工高さが3.2m以下の場合にのみ使用可能です。施工高さが3.2m超6.2m以下の場合は、接着剤と固定材を併用した剥落防止処置が必要です。（70～78ページ参照）
- 本体は、接着剤（MPX-7）または推奨接着剤と、仮留め材（フィニッシュネイル、ビス）を併用して施工します。
- 接着剤（MPX-7）は、φ8mmのビード状で塗布します。（本体1枚当たりの必要本数は、58～61ページ参照）
- 仮留め材は下地（躯体）または面材に仮留め固定してください。
- 留付けは端打ち寸法（30ページ参照）を確保してください。（接着剤塗布位置と仮留め位置をそろえる必要はありません。）
- LGS下地で専用ビスを使用する場合は、先孔（φ4mm程度）をあけてから固定してください。
- LGS下地（一般材、JIS材）で面材なしの場合、本体の割付けに合わせてLGS下地を設ける必要があります。本体を施工する前に、下地位置の確認をしてください。

木下地 面材なしの場合

接着剤の必要本数の目安: 0.5本以上/枚・10尺品



木下地 面材ありの場合

接着剤の必要本数の目安: 0.5本以上/枚・10尺品

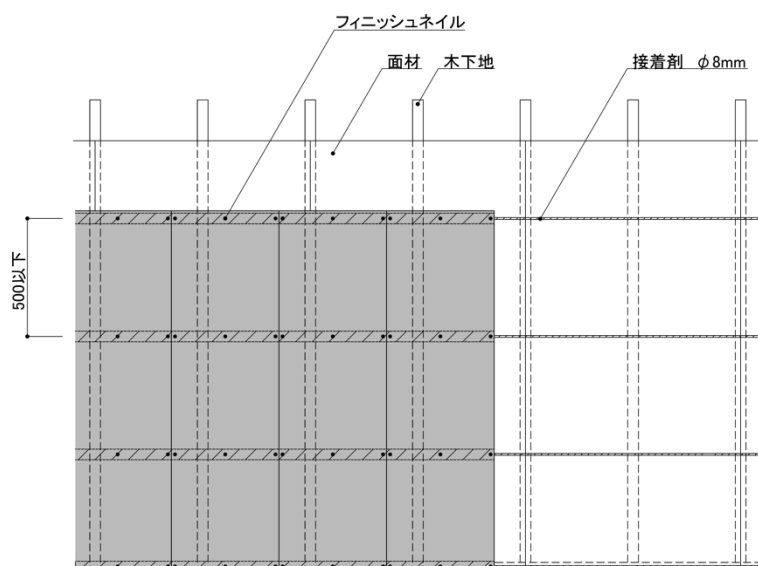
※下図は下記の施工方法の場合

＜接着剤＞

- ・両端: 幅方向全長
- ・中央: 長さ方向@500mm以下で幅方向全長

＜仮留め材＞

- ・幅方向: 3本(両端、中央)以上
- ・長さ方向: @500mm以下



※下図の接着剤、仮留め材の施工方法でもそれぞれ施工可能です。

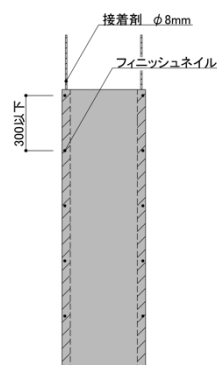
接着剤の必要本数の目安: 1本以上/枚・10尺品

＜接着剤＞

- ・両端: 長さ方向全長
- ・中央: なし

＜仮留め材＞

- ・幅方向: 2本(両端)以上
- ・長さ方向: @300mm以下



※左図の接着剤、仮留め材の施工方法とそれぞれ組合せても可

4. 接着工法

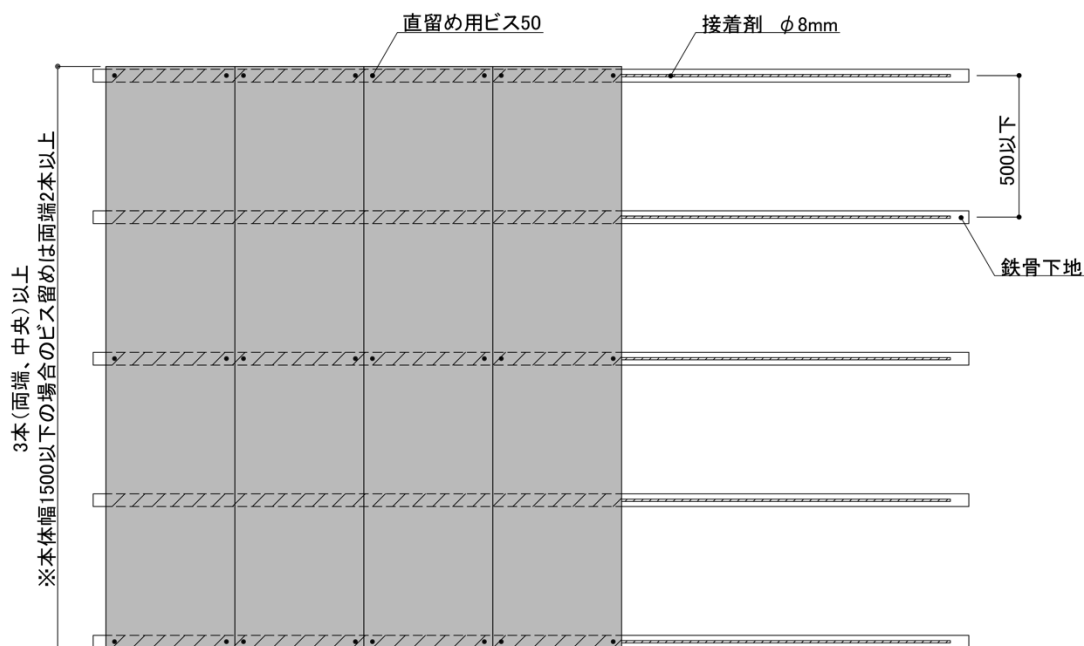
該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	×	○	×

【8】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

<2>張り方のポイント

鉄骨下地 面材なしの場合

接着剤の必要本数の目安: 0.5本以上/枚・10尺品



鉄骨下地 面材ありの場合

接着剤の必要本数の目安: 0.5本以上/枚・10尺品

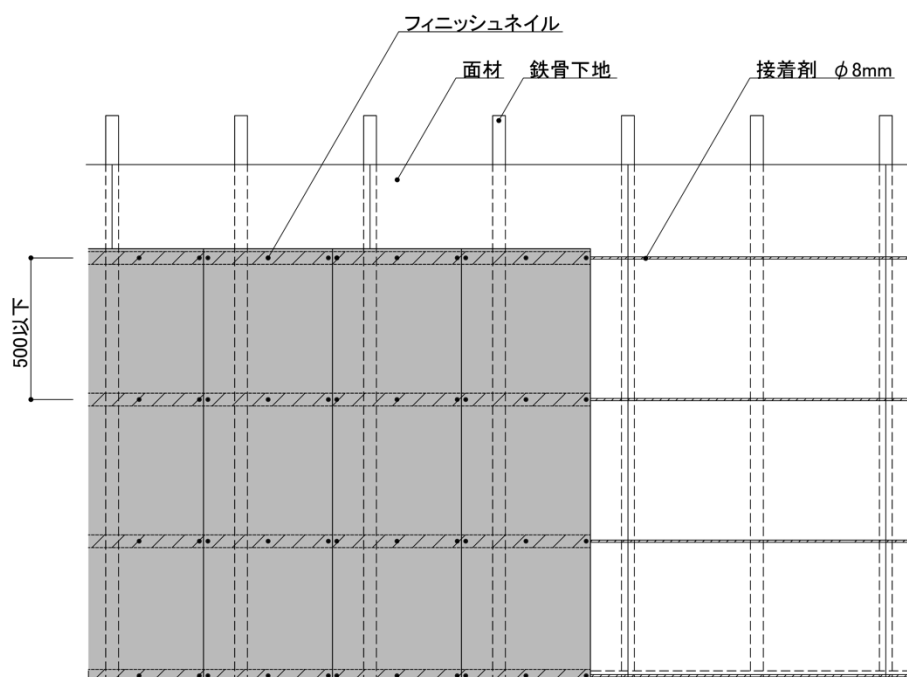
※下図は下記の施工方法の場合

<接着剤>

- ・両端: 幅方向全長
- ・中央: 長さ方向@500mm以下で幅方向全長

<仮留め材>

- ・幅方向: 3本(両端、中央)以上
- ・長さ方向: @500mm以下



※下図の接着剤、仮留め材の施工方法でもそれぞれ施工可能です。

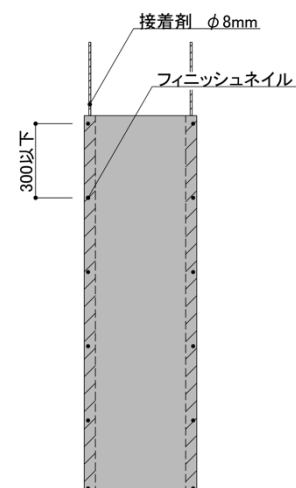
接着剤の必要本数の目安: 1本以上/枚・10尺品

<接着剤>

- ・両端: 長さ方向全長
- ・中央: なし

<仮留め材>

- ・幅方向: 2本(両端)以上
- ・長さ方向: @300mm以下



※左図の接着剤、仮留め材の施工方法とそれぞれ組合せても可

4. 接着工法

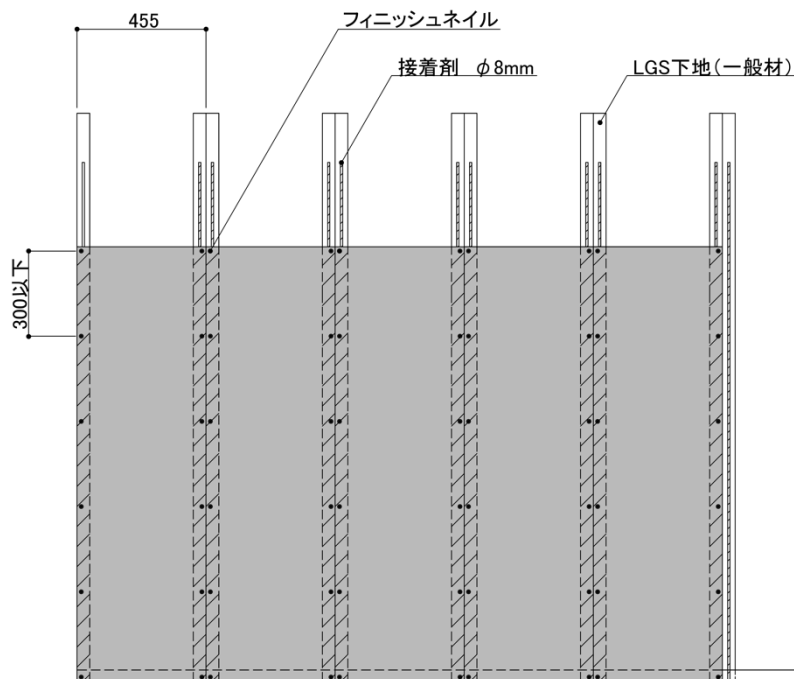
該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	×	×	○

【8】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

<2>張り方のポイント

LGS下地（一般材） 面材なしの場合

接着剤の必要本数の目安：1本以上/枚・10尺品



LGS下地（一般材） 面材ありの場合

接着剤の必要本数の目安：0.5本以上/枚・10尺品

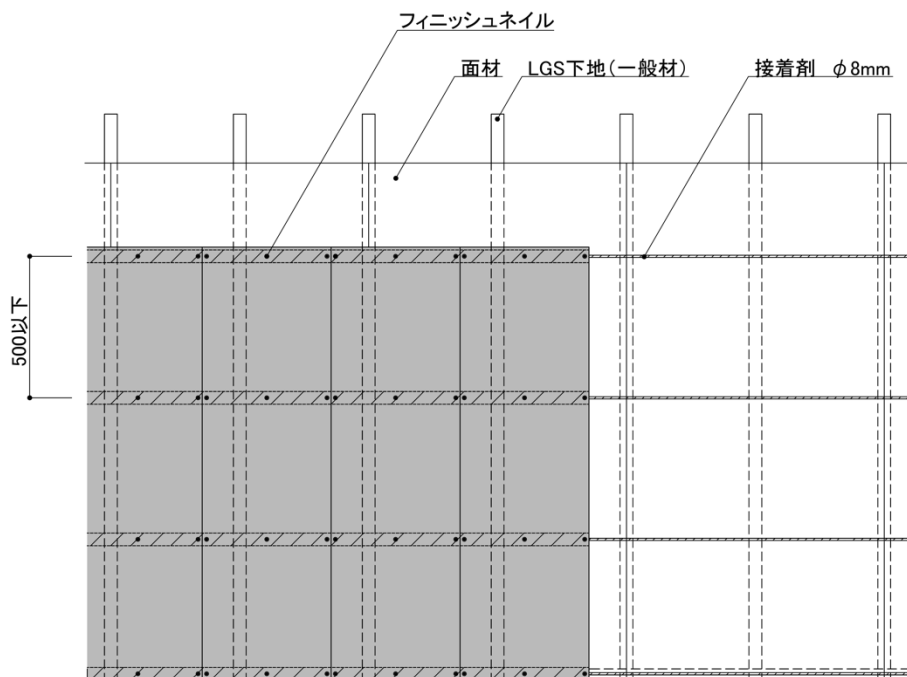
※下図は下記の施工方法の場合

<接着剤>

- ・両端：幅方向全長
- ・中央：長さ方向@500mm以下で幅方向全長

<仮留め材>

- ・幅方向：3本（両端、中央）以上
- ・長さ方向：@500mm以下



※下図の接着剤、仮留め材の施工方法でもそれぞれ施工可能です。

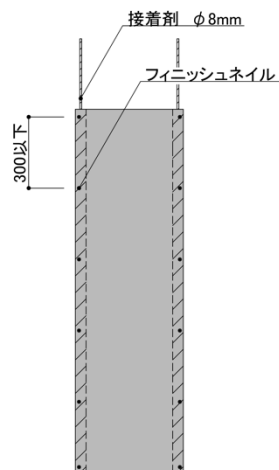
接着剤の必要本数の目安：1本以上/枚・10尺品

<接着剤>

- ・両端：長さ方向全長
- ・中央：なし

<仮留め材>

- ・幅方向：2本（両端）以上
- ・長さ方向：@300mm以下



※左図の接着剤、仮留め材の施工方法とそれぞれ組合せても可

4. 接着工法

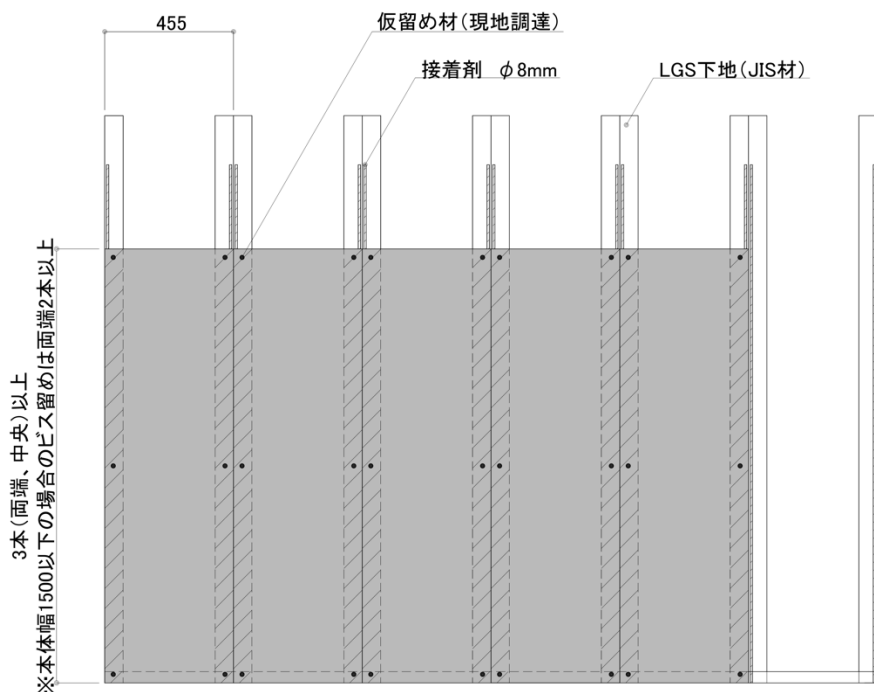
該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	×	×	○

【8】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

<2>張り方のポイント

LGS下地(JIS材) 面材なしの場合

接着剤の必要本数の目安: 1本以上/枚・10尺品



LGS下地(JIS材) 面材ありの場合

接着剤の必要本数の目安: 0.5本以上/枚・10尺品

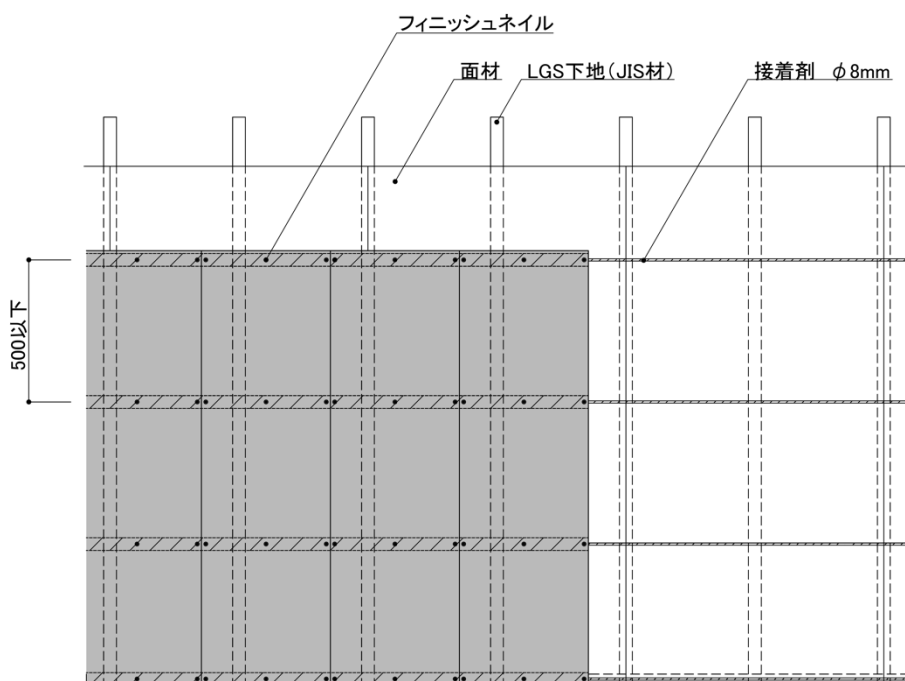
※下図は下記の施工方法の場合

<接着剤>

- ・両端: 幅方向全長
- ・中央: 長さ方向@500mm以下で幅方向全長

<仮留め材>

- ・幅方向: 3本(両端、中央)以上
- ・長さ方向: @500mm以下



※下図の接着剤、仮留め材の施工方法でもそれぞれ施工可能です。

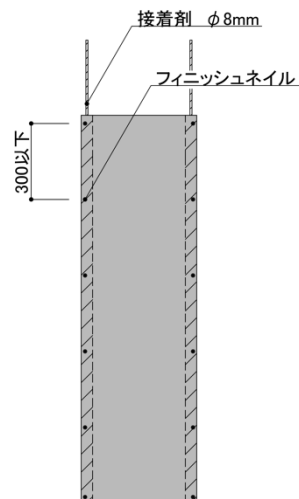
接着剤の必要本数の目安: 1本以上/枚・10尺品

<接着剤>

- ・両端: 長さ方向全長
- ・中央: なし

<仮留め材>

- ・幅方向: 2本(両端)以上
- ・長さ方向: @300mm以下



※左図の接着剤、仮留め材の施工方法とそれぞれ組合せても可

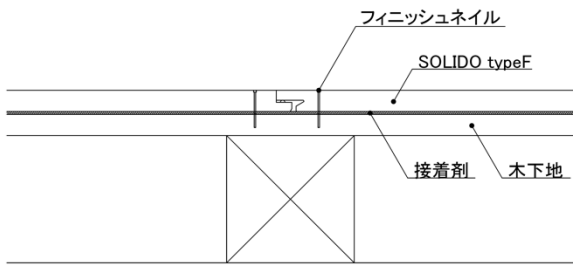
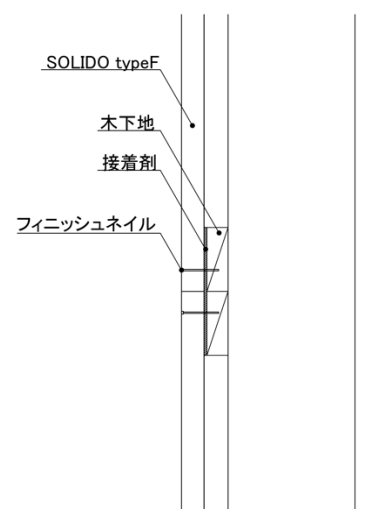
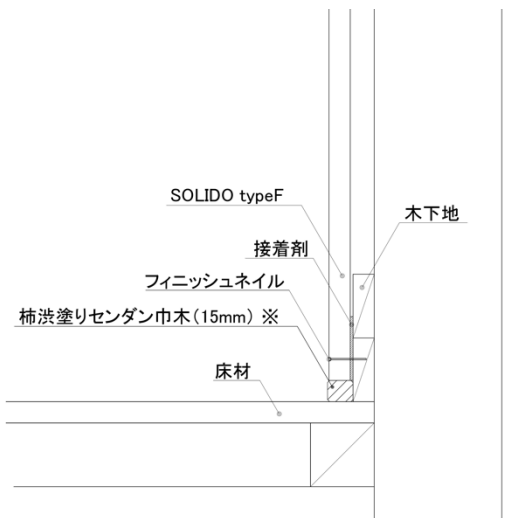
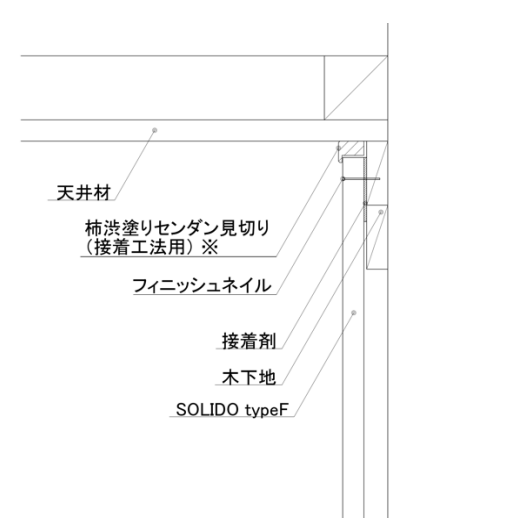
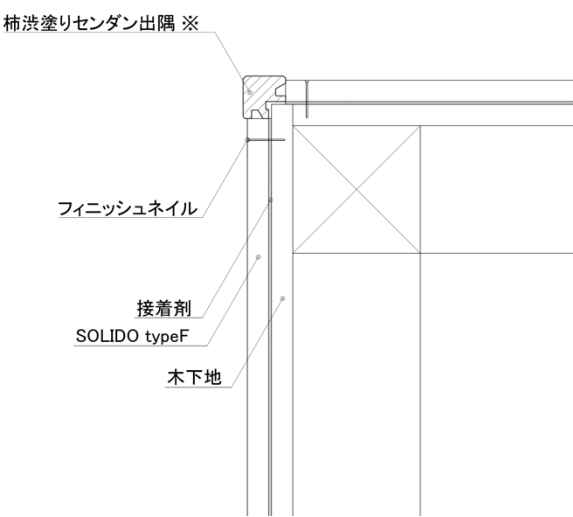
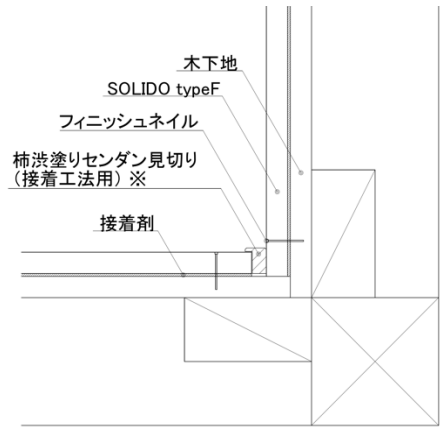
4. 接着工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	○	×	×

【8】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

<3>木下地：面材なし 参考納まり図

※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと
接着剤(MPX-7)を併用して留付け

一般部（横断面）	横目地部
	 注) 施工高さが3.2mを超える部分の施工については72ページ参照
床取合い部	天井取合い部
	
出隅部	入隅部
	

4. 接着工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	○	×	×

【8】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

＜4＞木下地：面材あり 参考納まり図

※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと
接着剤(MPX-7)を併用して留付け

一般部（横断面）	横目地部
フィニッシュネイル SOLIDO typeF 接着剤 面材	SOLIDO typeF 接着剤 フィニッシュネイル 面材 注) 施工高さが3.2mを超える部分の施工については73ページ参照
床取合い部	天井取合い部
面材 SOLIDO typeF 接着剤 フィニッシュネイル 柿渋塗りセンダン巾木(15mm) ※ 床材	天井材 柿渋塗りセンダン見切り(接着工法用) ※ フィニッシュネイル 接着剤 SOLIDO typeF 面材
出隅部	入隅部
柿渋塗りセンダン出隅 ※ フィニッシュネイル 接着剤 面材 SOLIDO typeF	面材 SOLIDO typeF フィニッシュネイル 柿渋塗りセンダン見切り(接着工法用) ※ 接着剤

4. 接着工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	×	○	×

【8】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

<5>鉄骨下地：面材なし 参考納まり図

一般部（横断面）	横目地部
	注) 施工高さが3.2mを超える部分の施工については74ページ参照
床取合い部	天井取合い部
出隅部	入隅部

4. 接着工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	×	○	×

【8】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

<6>鉄骨下地：面材あり 参考納まり図

※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと
接着剤(MPX-7)を併用して留付け

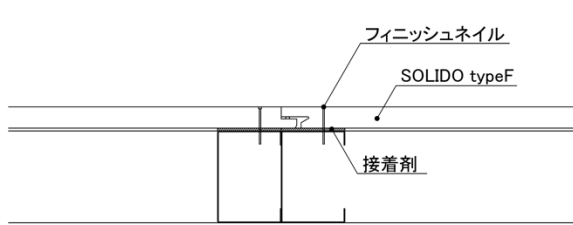
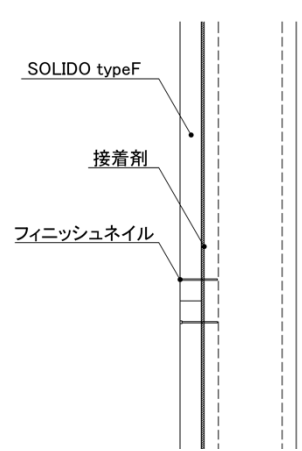
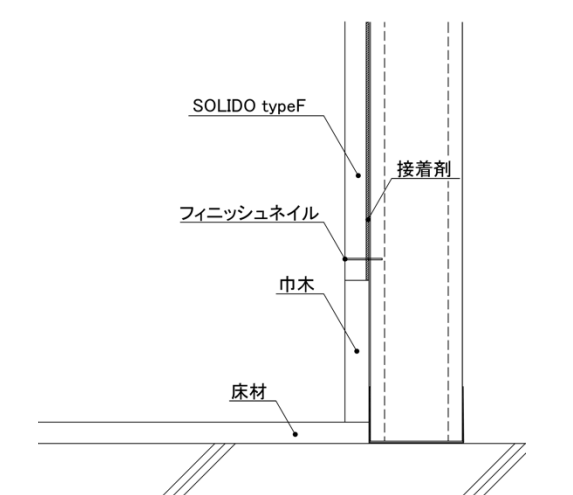
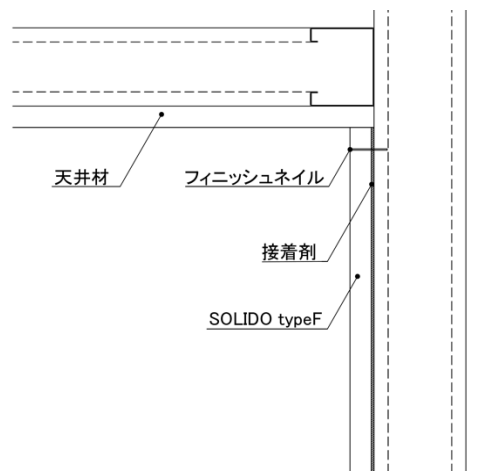
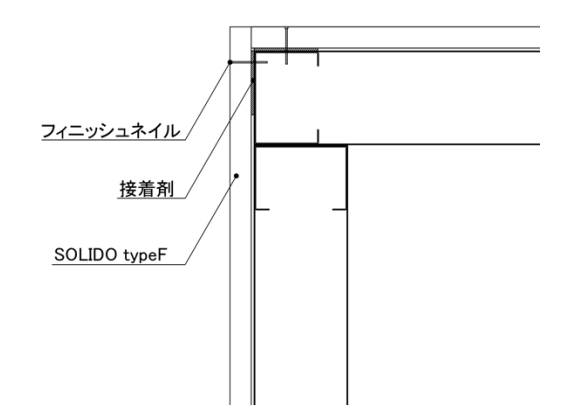
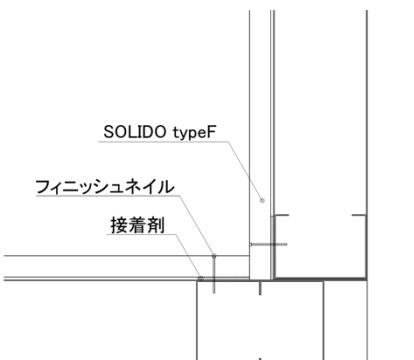
一般部（横断面）	横目地部
	注) 施工高さが3.2mを超える部分の施工については75ページ参照
床取合い部	天井取合い部
出隅部	入隅部

4. 接着工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	×	×	○

【8】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

<7>LGS下地（一般材）：面材なし 参考納まり図

一般部（横断面）	横目地部
 フィニッシュネイル SOLIDO typeF 接着剤	 SOLIDO typeF 接着剤 フィニッシュネイル 注) 施工高さが3.2mを超える部分の施工については76ページ参照
床取合い部	天井取合い部
 SOLIDO typeF 接着剤 フィニッシュネイル 巾木 床材	 天井材 フィニッシュネイル 接着剤 SOLIDO typeF
出隅部	入隅部
 フィニッシュネイル 接着剤 SOLIDO typeF	 SOLIDO typeF フィニッシュネイル 接着剤

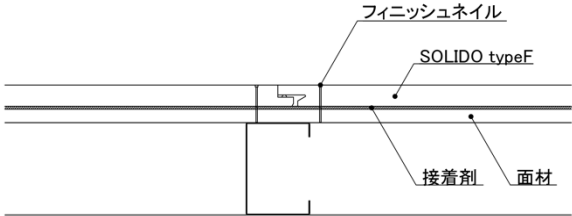
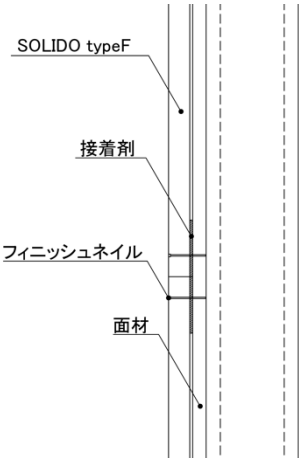
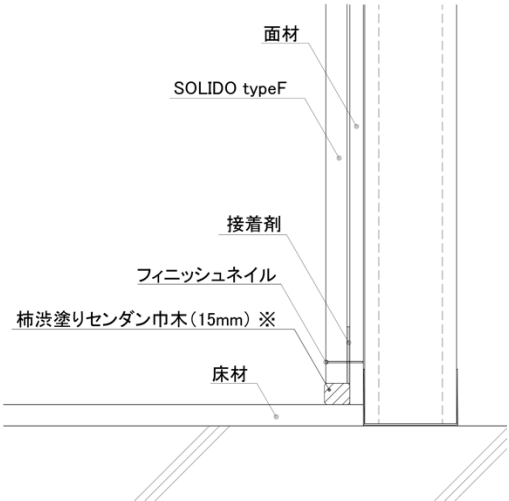
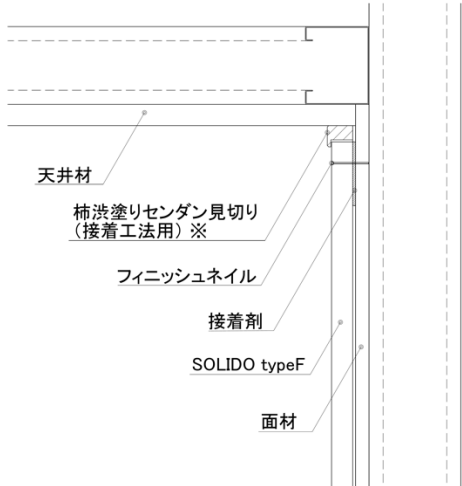
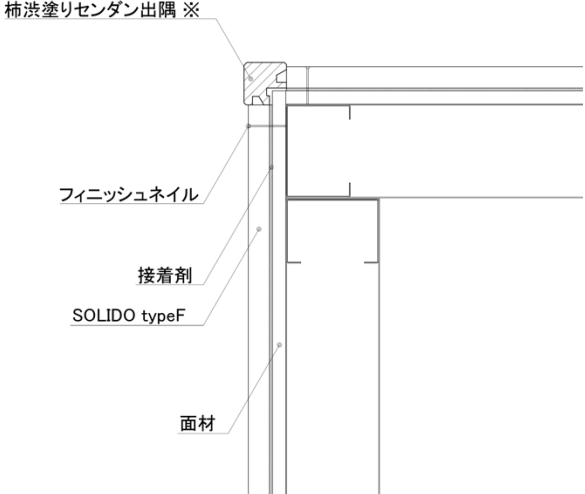
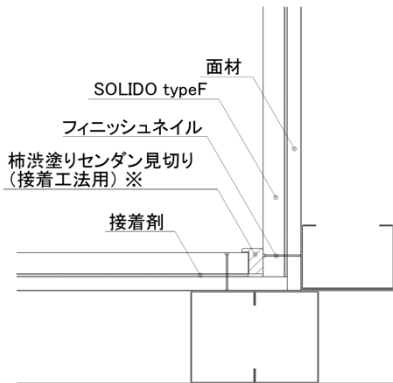
4. 接着工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	×	×	○

【8】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

<8>LGS下地（一般材）：面材あり 参考納まり図

※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと
接着剤(MPX-7)を併用して留付け

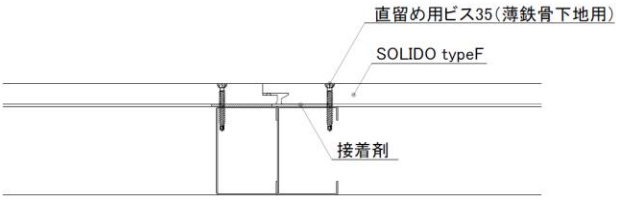
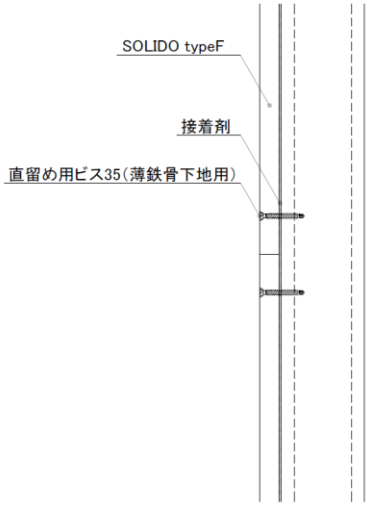
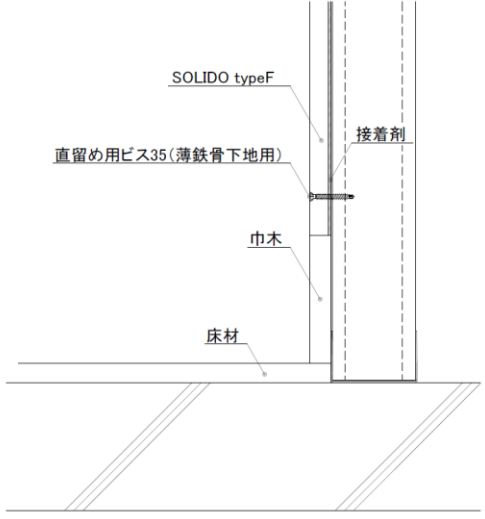
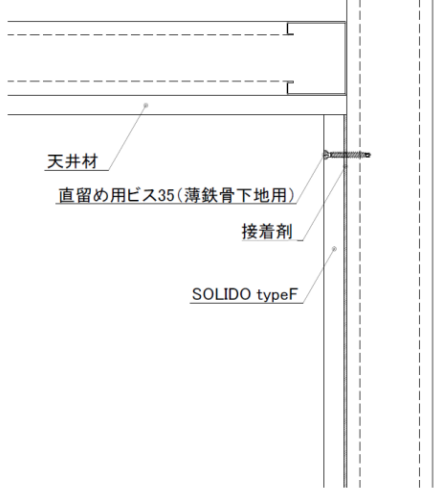
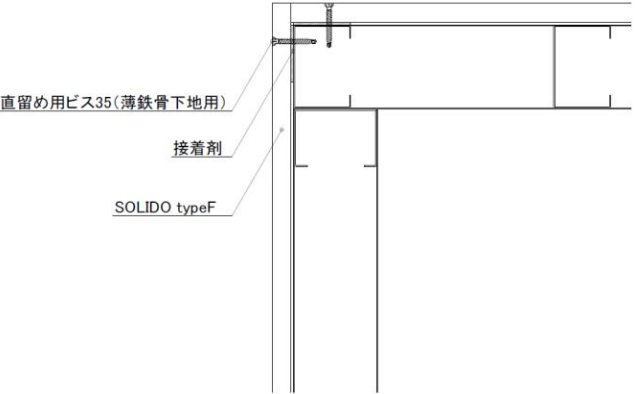
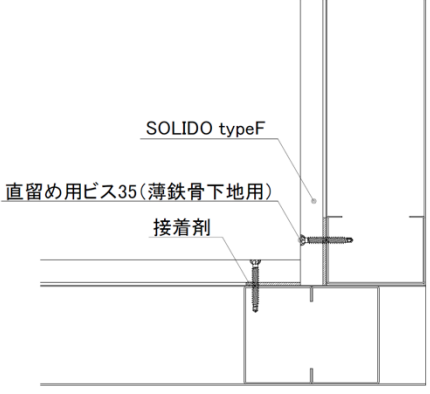
一般部（横断面）	横目地部
	 注) 施工高さが3.2mを超える部分の施工については77ページ参照
床取合い部	天井取合い部
	
出隅部	入隅部
	

4. 接着工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	×	×	○

【8】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

<9>LGS下地（JIS材）：面材なし 参考納まり図

一般部（横断面）	横目地部
	 注) 施工高さが3.2mを超える部分の施工については78ページ参照
床取合い部	天井取合い部
	
出隅部	入隅部
	

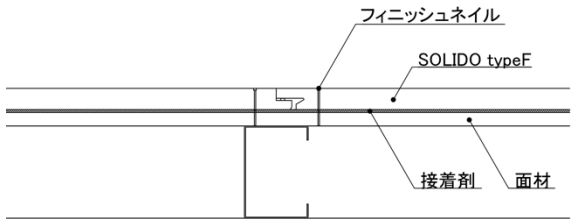
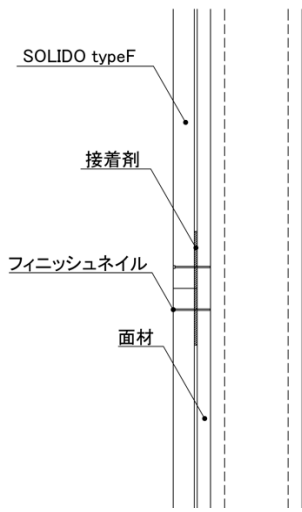
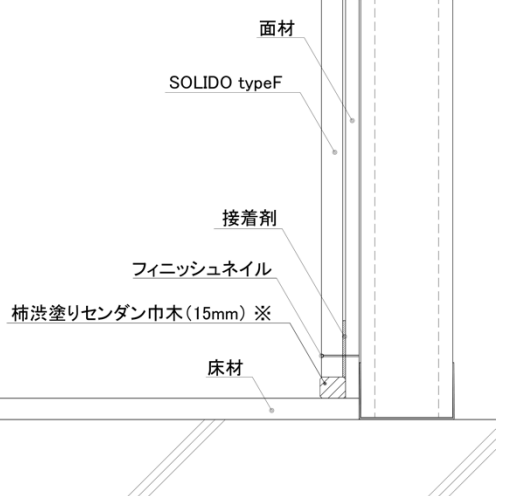
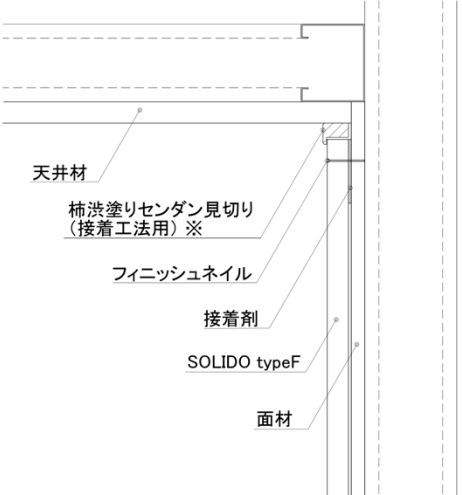
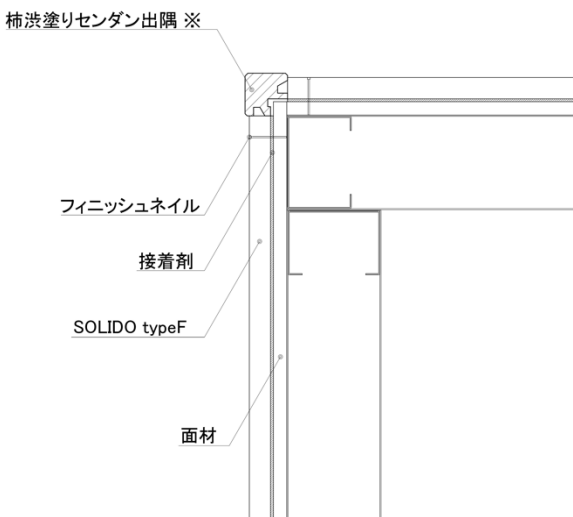
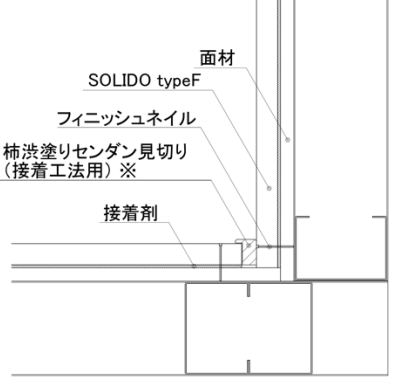
4. 接着工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	×	×	○

【8】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

< 10 > LGS下地（JIS材）：面材あり 参考納まり図

※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと
接着剤（MPX-7）を併用して留付け

一般部（横断面）	横目地部
 フィニッシュネイル SOLIDO typeF 接着剤 面材	 SOLIDO typeF 接着剤 フィニッシュネイル 面材 注) 施工高さが3.2mを超える部分の施工については79ページ参照
床取合い部	天井取合い部
 面材 SOLIDO typeF 接着剤 フィニッシュネイル 柿渋塗りセンダン巾木(15mm) ※ 床材	 天井材 柿渋塗りセンダン見切り (接着工法用) ※ フィニッシュネイル 接着剤 SOLIDO typeF 面材
出隅部	入隅部
 柿渋塗りセンダン出隅 ※ フィニッシュネイル 接着剤 SOLIDO typeF 面材	 面材 SOLIDO typeF フィニッシュネイル 柿渋塗りセンダン見切り (接着工法用) ※ 接着剤

4. 接着工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	○	○	○

【9】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m超 6.2m以下の場合）

※施工高さ3.2mを超える部分では、固定材（釘・ビス）による剥落防止処置が必要です。
仮留め材（フィニッシュネイル等）による留付けや面材への固定は不可なので、ご注意ください。

<1>墨出し

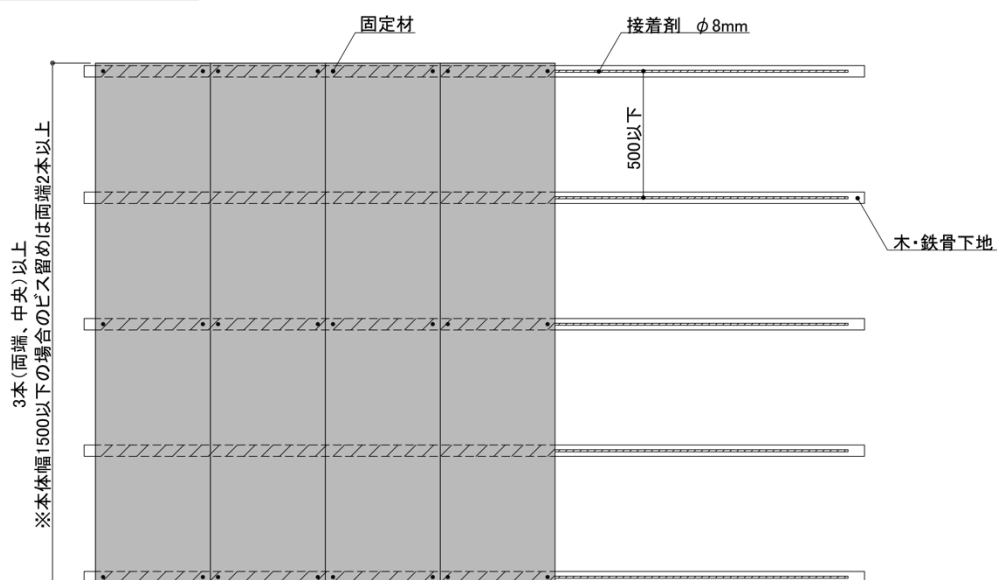
●「【8】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）」と同様です。

<2>張り方のポイント

- 本体は、接着剤（MPX-7）または推奨接着剤と、固定材（釘、ビス）を併用して施工します。
- 接着剤（MPX-7）は、φ8mmのビード状で塗布します。（本体1枚当たりの必要本数は、70～71ページ 参照）
- 固定材は下地（躯体）に固定してください。
- 留付けは端打ち寸法（30ページ参照）を確保してください。（接着剤塗布位置と仮留め位置をそろえる必要はありません。）
- 先孔（釘：φ2mm程度、ビス：φ4mm程度）をあけてから固定してください。（鉄骨下地でリーマ付ビス（直留め用ビス50等）を使用する場合は先孔不要）
- 本体の割付けや固定材の留付け位置に合わせて下地を設ける必要があります。本体を施工する前に、下地位置の確認をしてください。

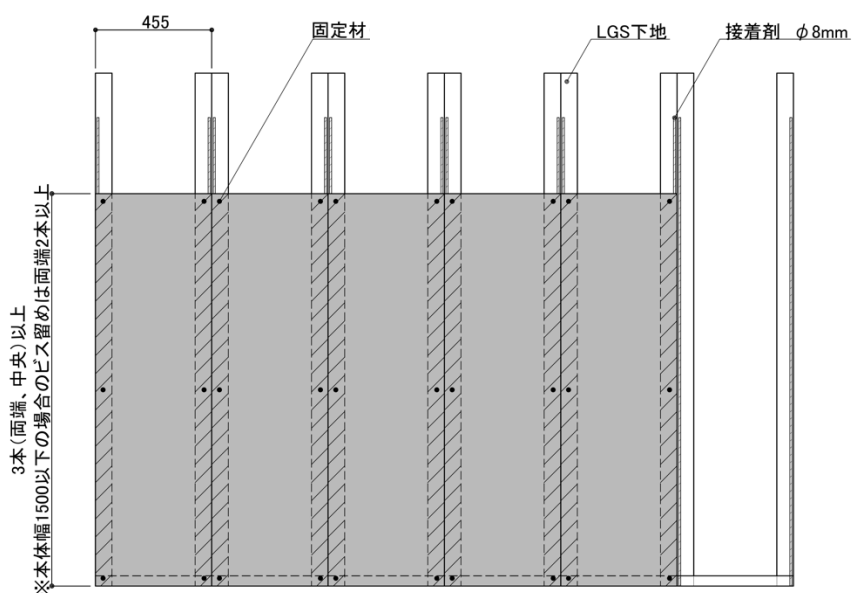
木・鉄骨下地 面材なしの場合

接着剤の必要本数の目安: 0.5本以上/枚・10尺品



LGS下地(一般材、JIS材) 面材なしの場合

接着剤の必要本数の目安: 1本以上/枚・10尺品



4. 接着工法

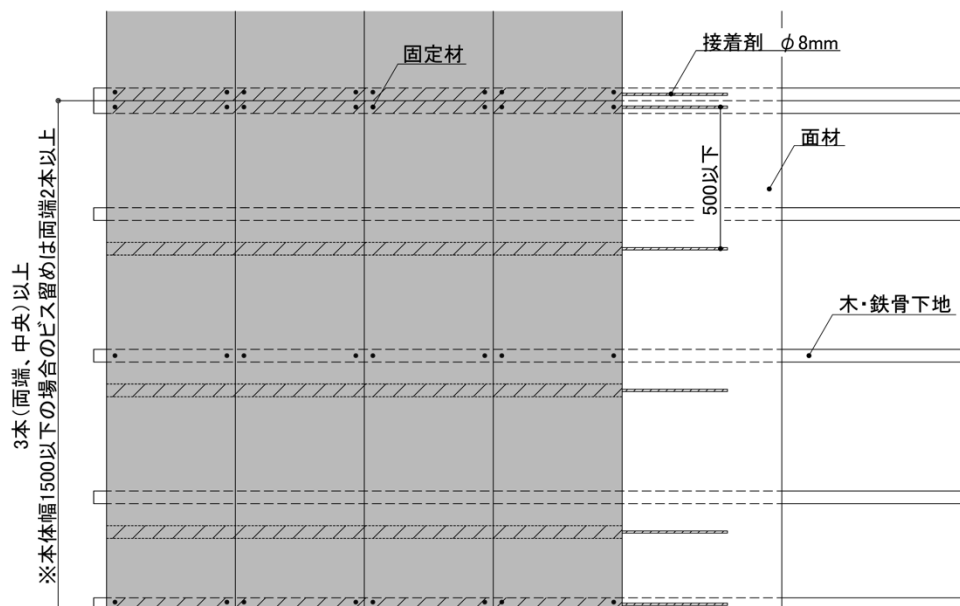
該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	○	○	○

【9】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m超 6.2m以下の場合）

<2>張り方のポイント

木・鉄骨下地 面材ありの場合

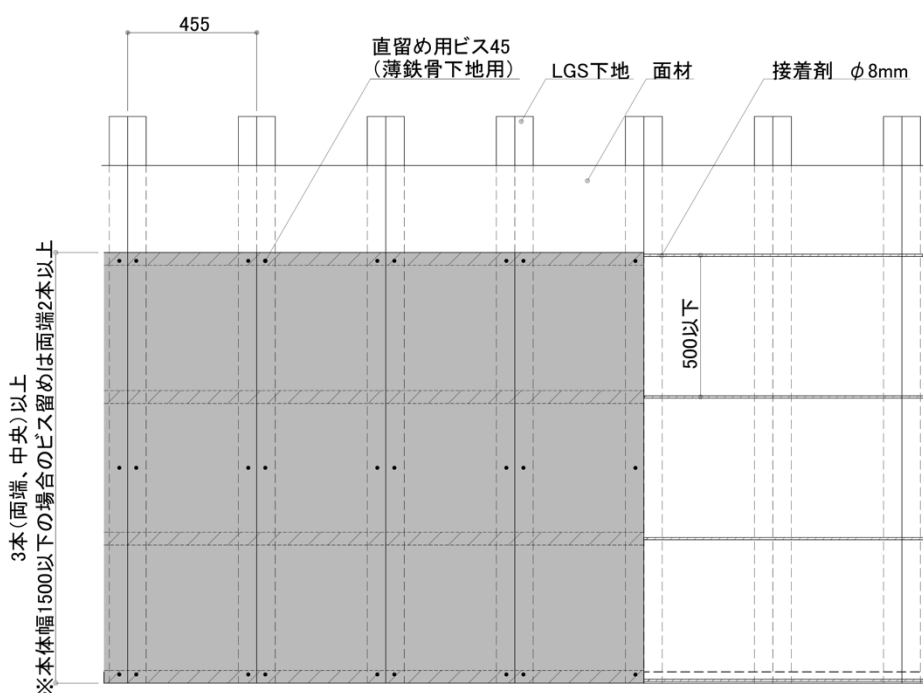
接着剤の必要本数の目安: 0.5本以上/枚・10尺品



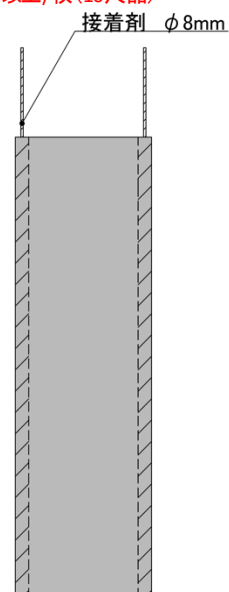
※本体の割付けや固定材の留付け位置に合わせて下地を設ける必要があります。
本体を施工する前に、下地位置の確認をしてください。

LGS下地（一般材、JIS材）面材ありの場合

接着剤の必要本数の目安: 0.5本以上/枚・10尺品



※下図の接着剤の塗布方法でも施工可能です。
接着剤の必要本数の目安:
1本以上/枚 (10尺品)



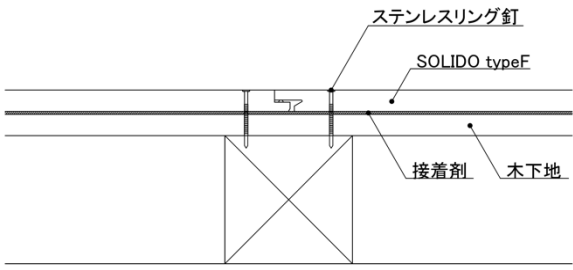
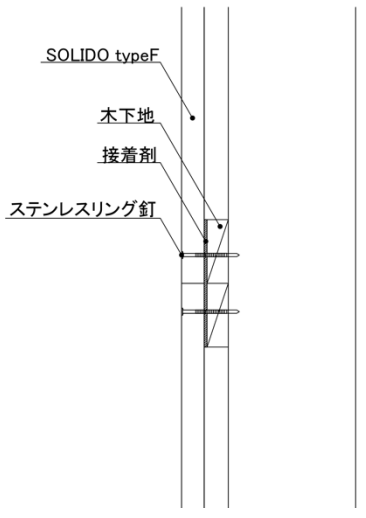
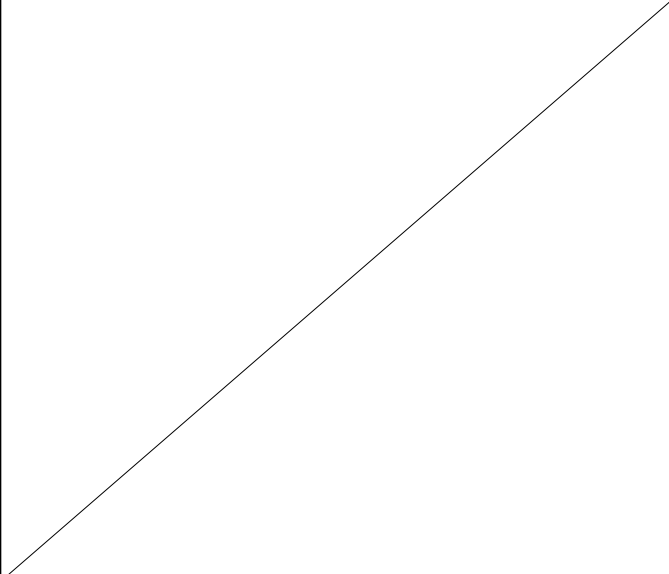
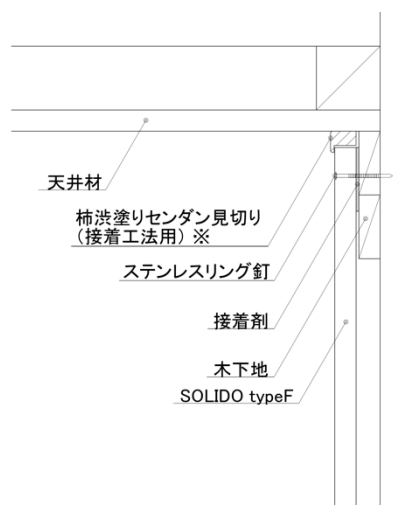
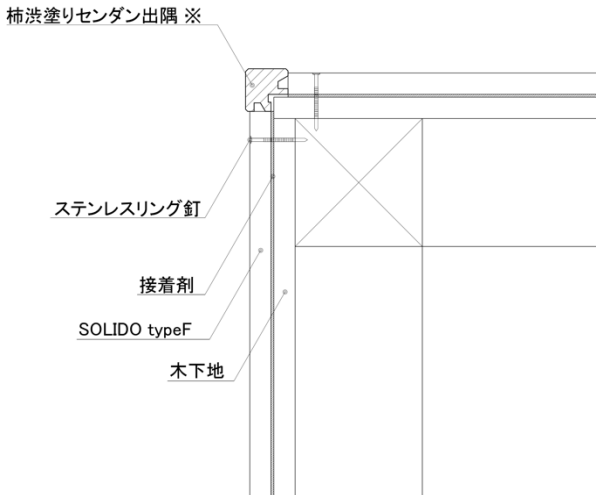
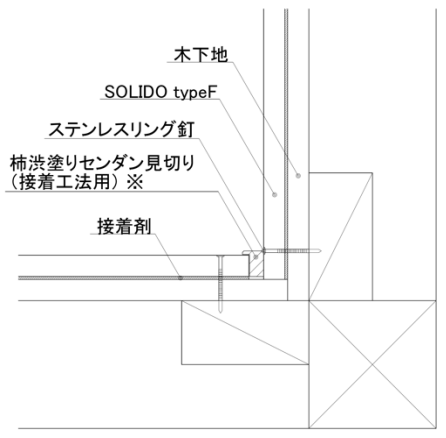
4. 接着工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	○	×	×

【9】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m超 6.2m以下の場合）

<3>木下地：面材なし 参考納まり図

※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと
接着剤(MPX-7)を併用して留付け

一般部（横断面）	横目地部
	 注) 施工高さが6.2mを超える部分は接着工法での施工不可
床取合い部	天井取合い部
	
出隅部	入隅部
	

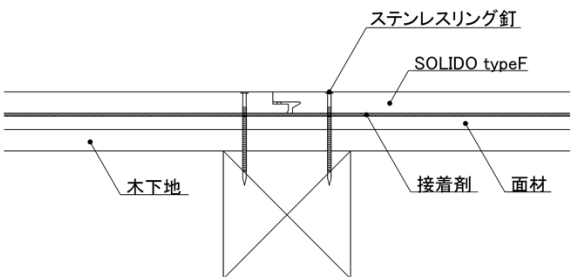
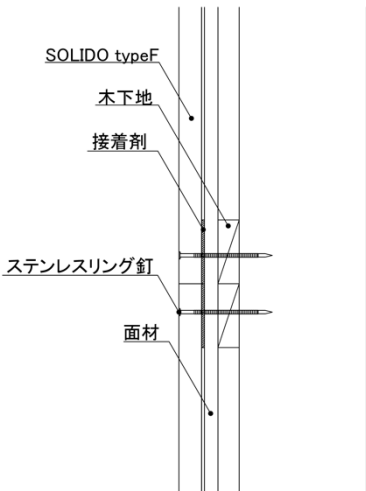
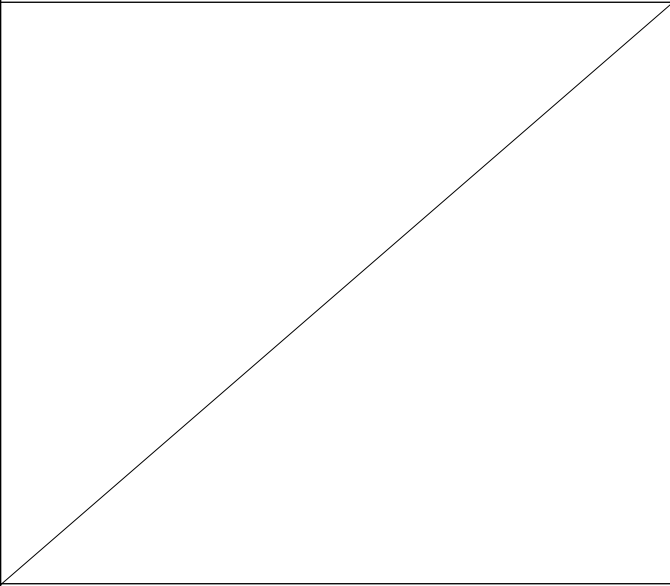
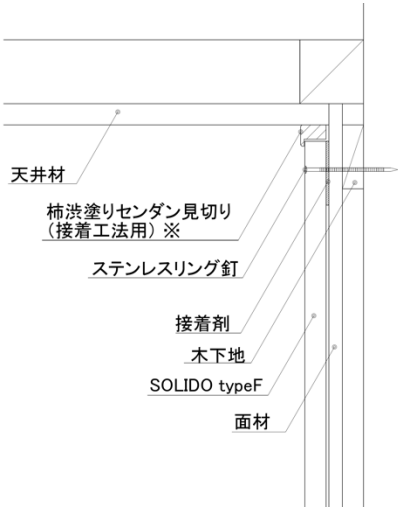
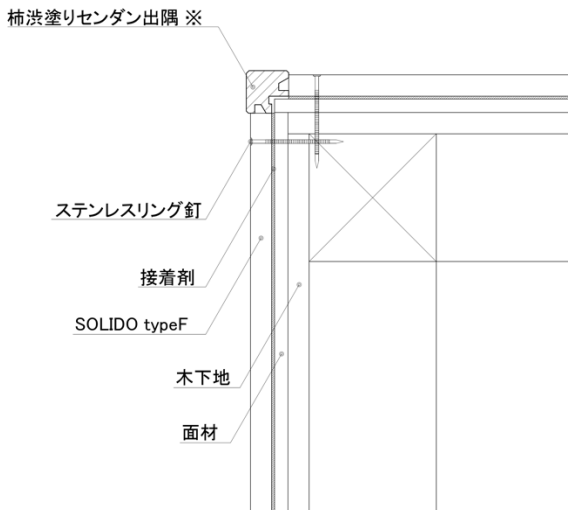
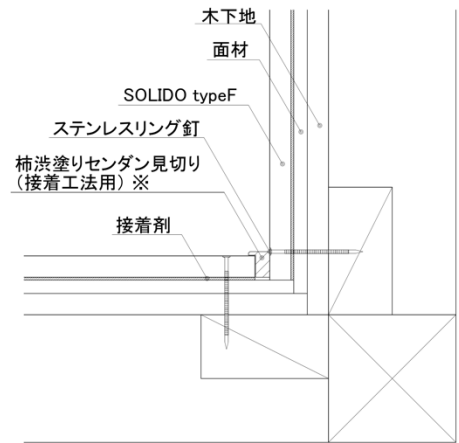
4. 接着工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	○	×	×

【9】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m超 6.2m以下の場合）

＜4＞木下地：面材あり 参考納まり図

※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと
接着剤(MPX-7)を併用して留付け

一般部（横断面）	横目地部
	 注) 施工高さが6.2mを超える部分は接着工法での施工不可
床取合い部	天井取合い部
	
出隅部	入隅部
	

4. 接着工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	×	○	×

【9】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m超 6.2m以下の場合）

＜5＞鉄骨下地：面材なし 参考納まり図

一般部（横断面）	横目地部
	注) 施工高さが6.2mを超える部分は接着工法での施工不可
床取合い部	天井取合い部
出隅部	入隅部

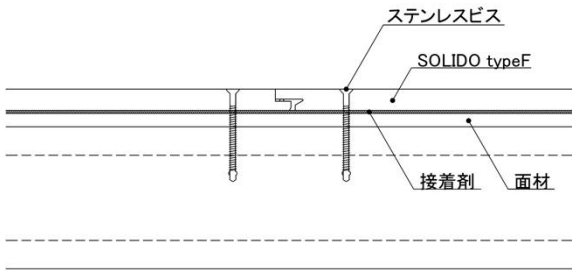
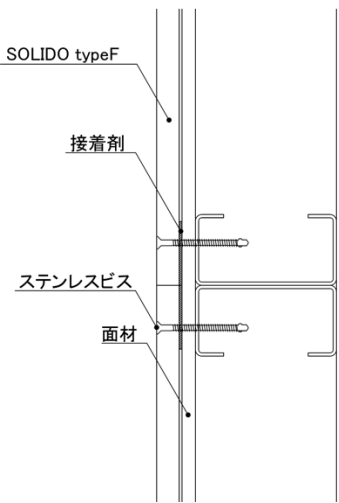
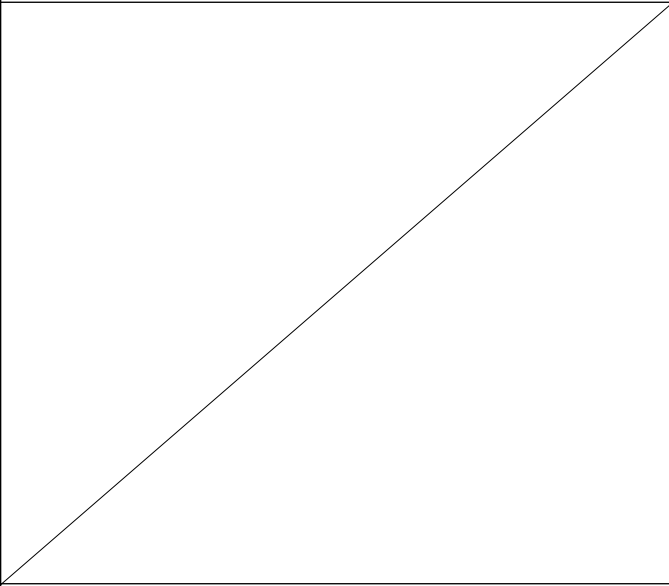
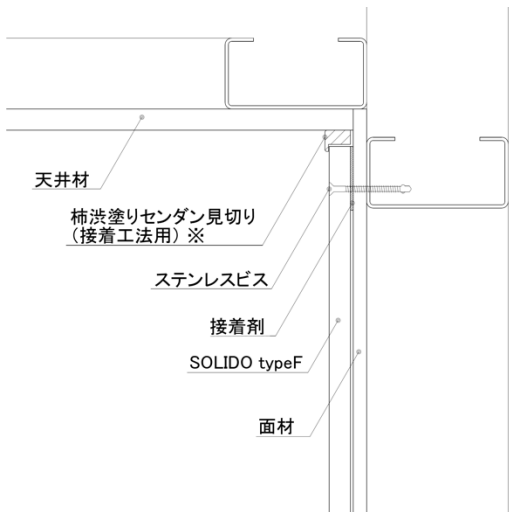
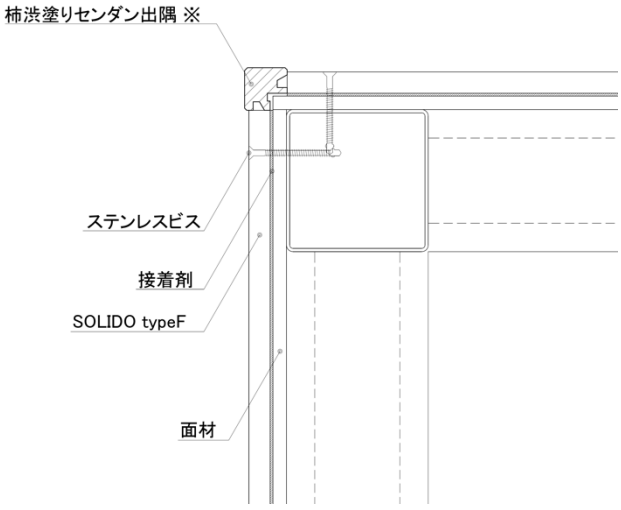
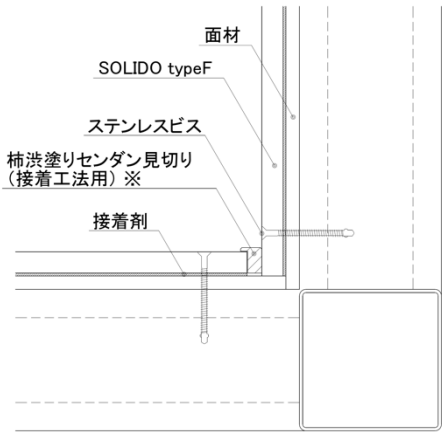
4. 接着工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	×	○	×

【9】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m超 6.2m以下の場合）

<6>鉄骨下地：面材あり 参考納まり図

※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと
接着剤(MPX-7)を併用して留付け

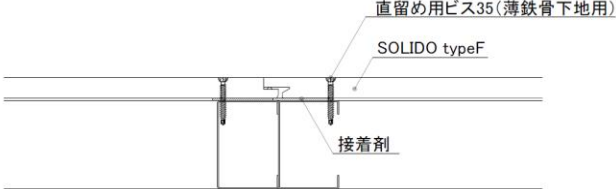
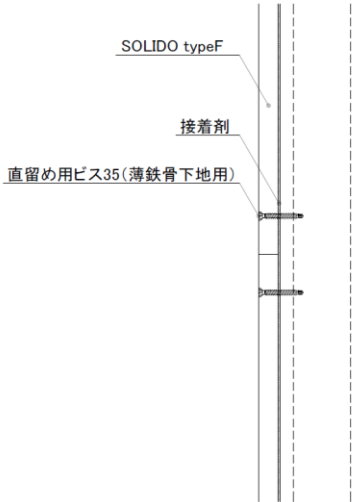
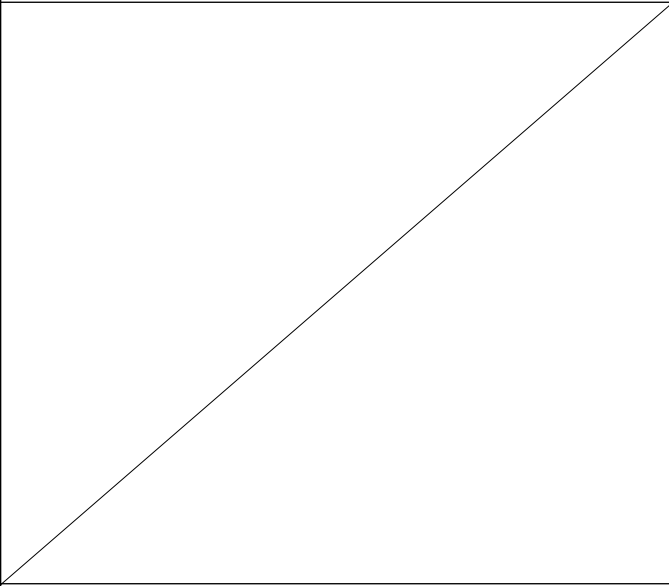
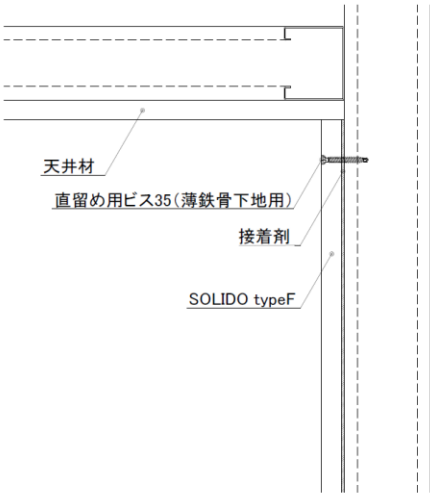
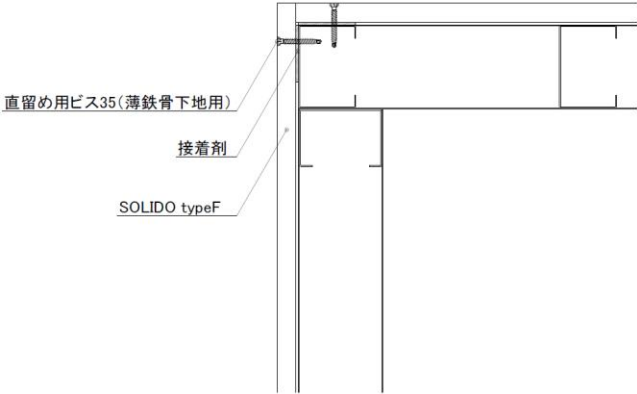
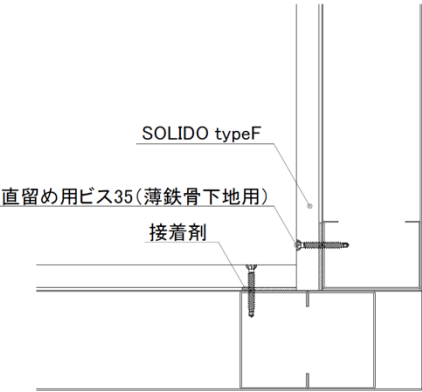
一般部（横断面）	横目地部
	 注) 施工高さが6.2mを超える部分は接着工法での施工不可
床取合い部	天井取合い部
	
出隅部	入隅部
	

4. 接着工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	×	×	○

【9】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m超 6.2m以下の場合）

<7>LGS下地（一般材）：面材なし 参考納まり図

一般部（横断面）	横目地部
	 注) 施工高さが6.2mを超える部分は接着工法での施工不可
床取合い部	天井取合い部
	
出隅部	入隅部
	

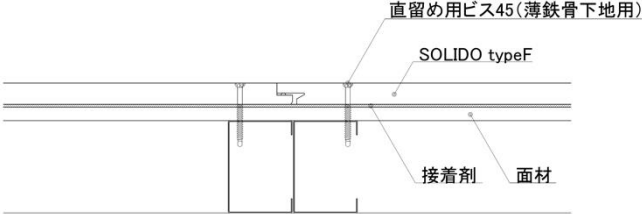
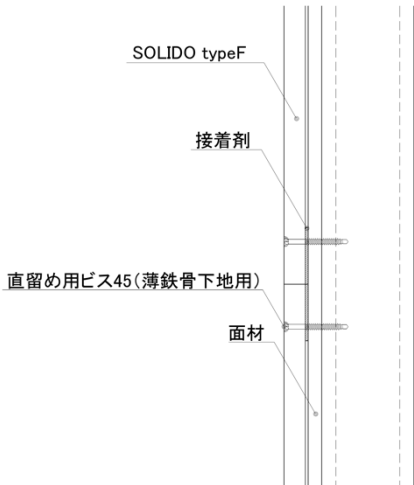
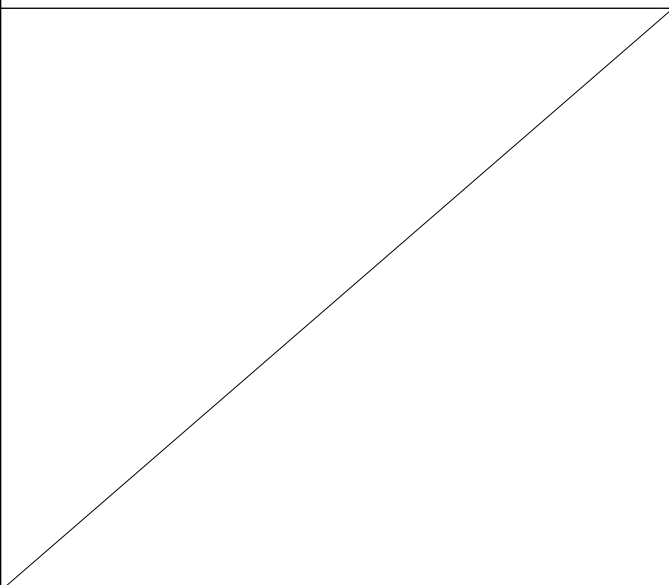
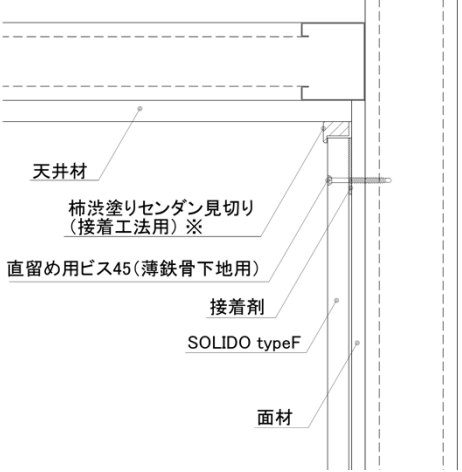
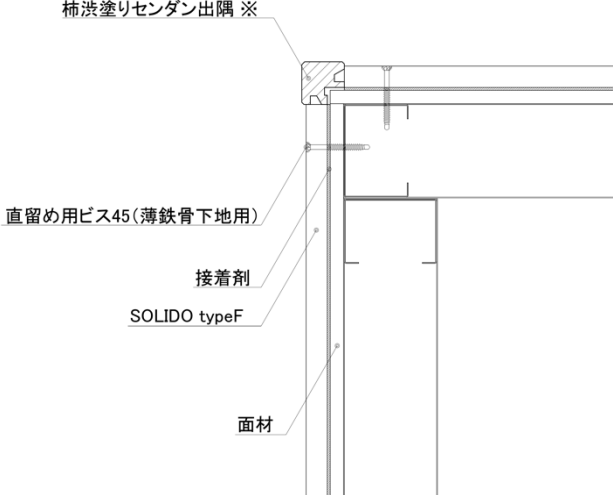
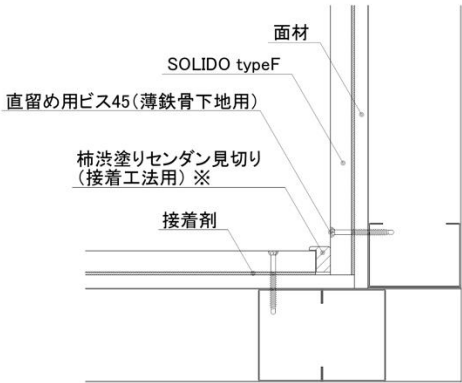
4. 接着工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	×	×	○

【9】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m超 6.2m以下の場合）

< 8 > LGS下地（一般材）：面材あり 参考納まり図

※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと
接着剤(MPX-7)を併用して留付け

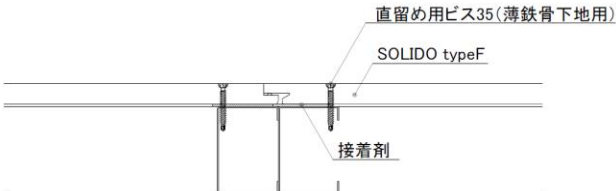
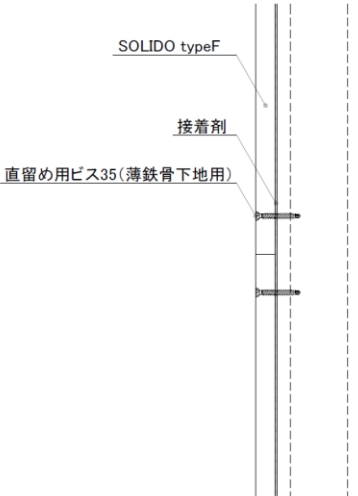
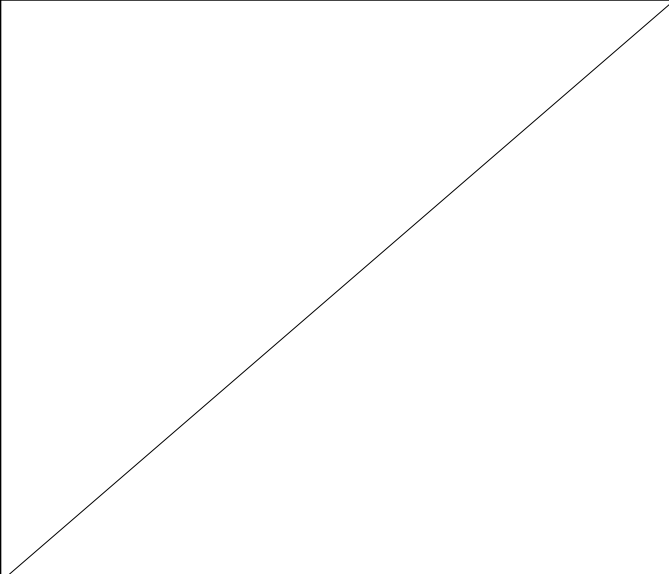
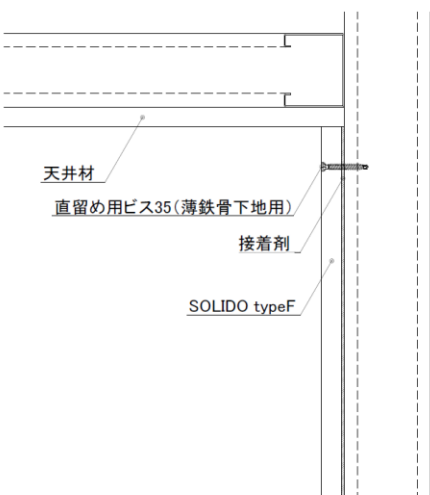
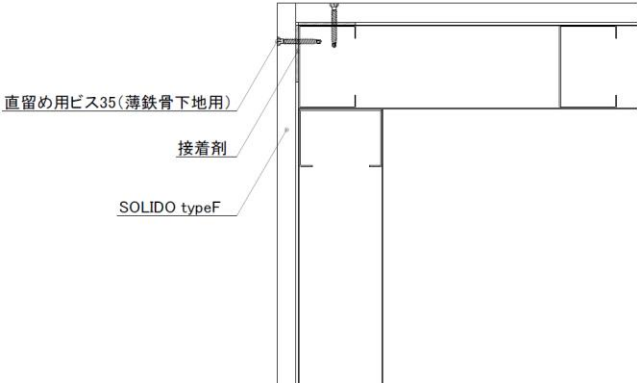
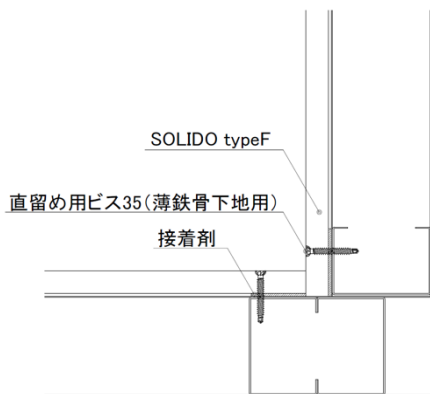
一般部（横断面）	横目地部
	 注) 施工高さが6.2mを超える部分は接着工法での施工不可
床取合い部	天井取合い部
	
出隅部	入隅部
	

4. 接着工法

該当下地	木下地	鉄骨下地	LGS下地
	×	×	○

【9】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m超 6.2m以下の場合）

<9>LGS下地（JIS材）：面材なし 参考納まり図

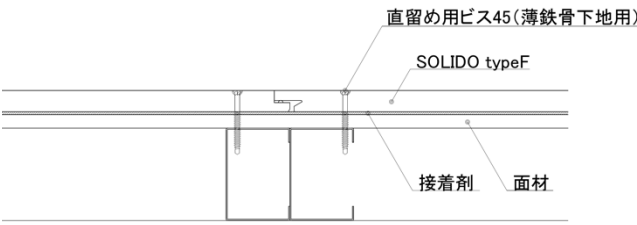
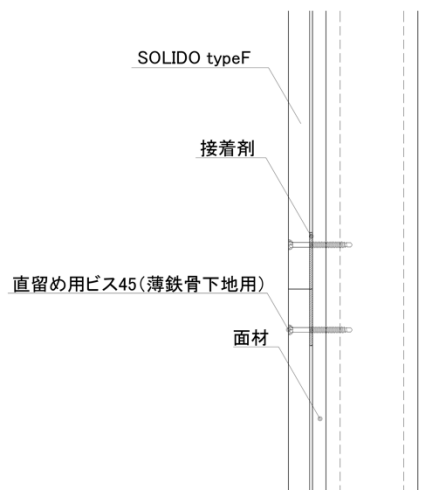
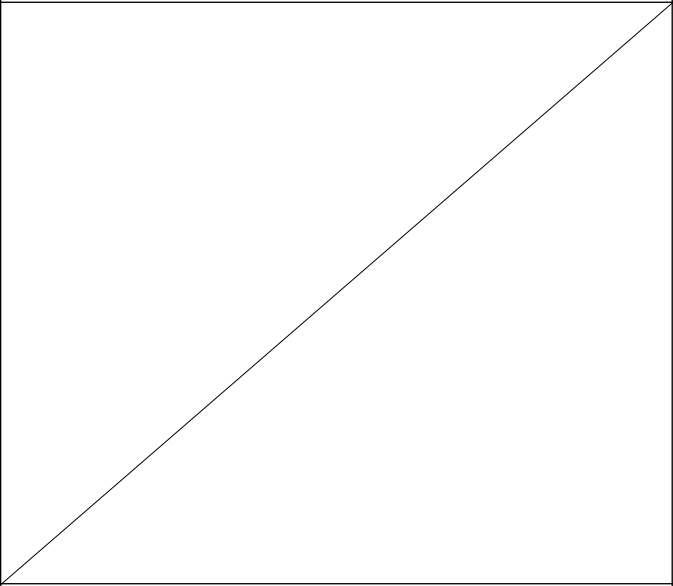
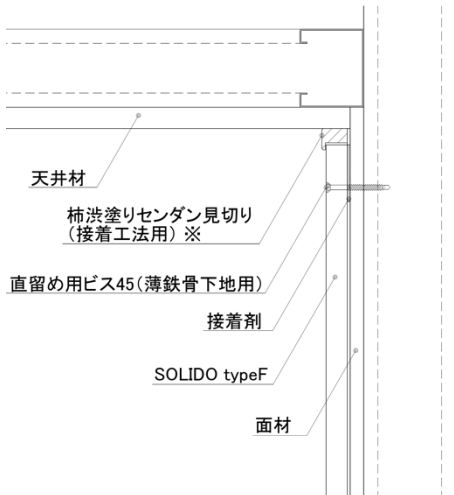
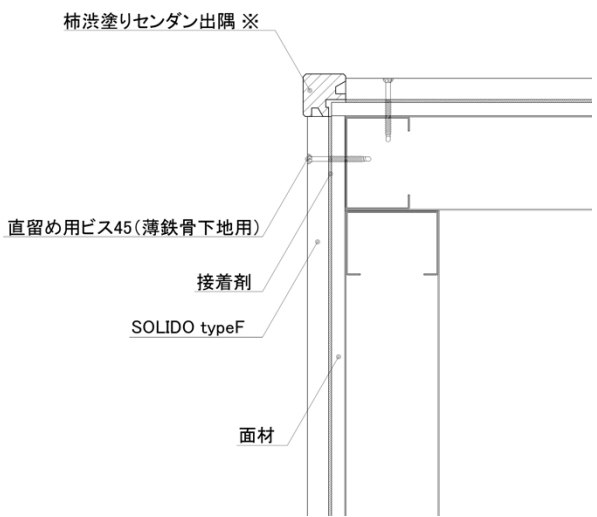
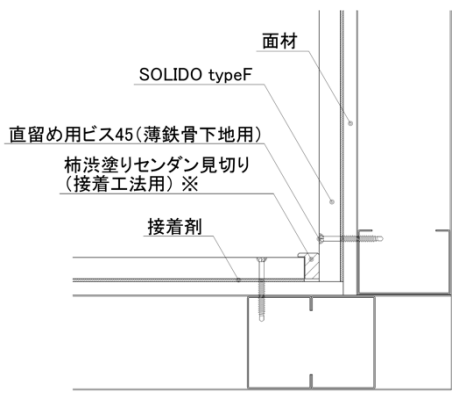
一般部（横断面）	横目地部
	 注) 施工高さが6.2mを超える部分は接着工法での施工不可
床取合い部	天井取合い部
	
出隅部	入隅部
	

4. 接着工法

【9】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m超 6.2m以下の場合）

< 10 > LGS下地（JIS材）：面材あり 参考納まり図

※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと
接着剤（MPX-7）を併用して留付け

一般部（横断面）	横目地部
	 注) 施工高さが6.2mを超える部分は接着工法での施工不可
床取合い部	天井取合い部
	
出隅部	入隅部
	

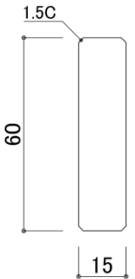
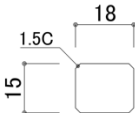
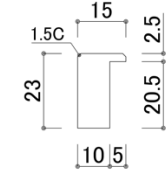
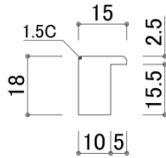
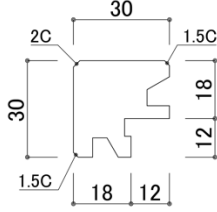
5. 木製部材の施工

【1】部材仕様		81
【2】施工仕様		83

5. 木製部材の施工

【1】部材仕様

< 1 > 部材本体

使用部位	品名	品番	断面形状・寸法			材質		入数 (出荷単位) ※
			本体	金具施工用 スペーサー (同梱品)	長さ※	本体	金具 施工用 スペーサー	
床取合い部	柿渋塗りセンダン 巾木 (60mm)	B5911M1		50×5	2000mm	MDF	MDF	
	柿渋塗りセンダン 巾木 (15mm)	B5912M1	 ※縦横のサイズが異なりますので ご注意ください。 施工時は上図の向きでご使用 ください。 SOLIDO本体よりも部材の方が 出っ張る納まりになります。	13×5				
端部 入隅部 腰壁上部 天井取合い部 等	柿渋塗りセンダン 見切り (金具工法用)	B5913M1		—			—	
	柿渋塗りセンダン 見切り (接着工法用)	B5914M1		—			—	
出隅部	柿渋塗りセンダン 出隅	B5915M1		35×5			MDF	

※ 「本体」、「金具施工用スペーサー」共通の内容です。

- 本製品は「SOLIDO typeF coffee/shirasu」の専用商品です。
- 部材は接着剤とネイル（ピンネイルまたはフィニッシュネイル）で固定します。
- 部材によって使用するネイルのサイズが異なります。（次ページ参照）
- 無垢材のため、多少の反りやねじれのあるものが含まれています。また、日焼けによって色が変わる場合があります。ご了承ください。
- 反りやねじれのある場合は、伸びるように調整しながらネイルで固定してください。
- 無垢材のため、色違い、ムラ等があります。また、節、てかり、入り皮、ヤニスジ等は異常ではなく、素材の個性であり、商品意匠の一部です。
- 施工前に裏表（巾木のみ）や上下の選定、複数本使用の場合は仮並べをして配置の検討をしてから施工することをおすすめします。
- 金具施工用スペーサー（MDF）は、巾木・出隅部材に同梱しています。金具工法の場合にのみ使用し、接着工法では使用しません。

5. 木製部材の施工

【1】部材仕様

<2> 接着剤

- 接着剤は下記のMPX-7（JIS A 5538適合）をご使用ください。
- MPX-7はコニシ株式会社の商品として通常販売されている商品です。コニシ株式会社設定品番はケイミュー設定品番とは異なります。ご注意ください。

品名（品番）	形状	主成分	シックハウス対応	容量
MPX-7 品番：KL TMB		一液型変成シリコン樹脂系 接着剤	F☆☆☆☆ JA1A 4VOC基準適合	333ml/本 20本/箱

※部材固定のために必要な目安量については【2】施工仕様ページ（83～85ページ）参照

<3> 適用下地

■工法別施工可否表

○：施工可 △：条件付きで可 ×：施工不可

施工仕様	工法	金具工法		接着工法	
	面材	なし	あり	なし	あり
下地仕様	木下地	○	○	○	○
	鉄骨下地	×	○	×	○
	LGS下地	一般材(≒0.5～0.6)	○	△ ※	○
		JIS材(≒0.8)	○	×	○

※フィニッシュネイルで固定する場合に限り施工可能です。
ただし出隅部材以外は留付け箇所がピンネイルに比べて目立ちますのでご了承ください。

■部材別施工可否表

○：施工可 ×：施工不可

施工仕様	工法	金具工法	接着工法
部材本体	柿渋塗リセンダン巾木（60mm）	○	○
	柿渋塗リセンダン巾木（15mm）	○	○
	柿渋塗リセンダン見切り（金具工法用）	○	×
	柿渋塗リセンダン見切り（接着工法用）	×	○
	柿渋塗リセンダン出隅	○	○

■面材仕様

種類	下記のいずれかとする ・無し ・せっこうボード(GB-R、GB-F、GB-S) ・構造用合板(1類以上)
厚み	規定なし (9.5mm以下の場合、次項※要確認)

<4> 留付け材（現地調達）

- 部材本体は接着剤と留付け材（ネイル：ピンネイルまたはフィニッシュネイル）で固定します。
- 部材本体の種類によって使用するネイルのサイズが異なりますので、下表をご参照ください。

（単位：mm）

施工仕様	工法	金具工法 (5mm金具の場合)	接着工法	留付け間隔
部材本体 の種類	柿渋塗リセンダン巾木（60mm）	30以上	25以上	300以下
	柿渋塗リセンダン巾木（15mm）	35以上	30以上	
	柿渋塗リセンダン見切り（金具工法用）	35以上	30以上	
	柿渋塗リセンダン見切り（接着工法用）	30以上	30以上	
	柿渋塗リセンダン出隅	15	15	

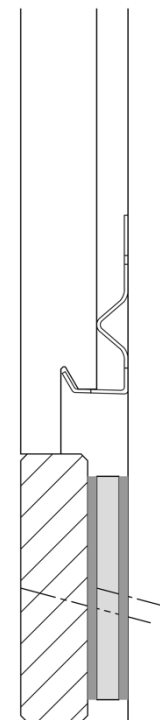
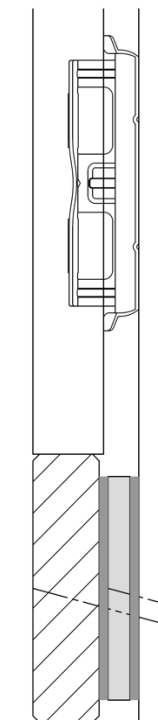
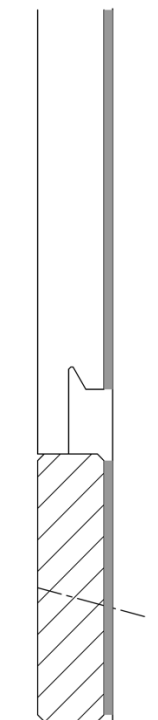
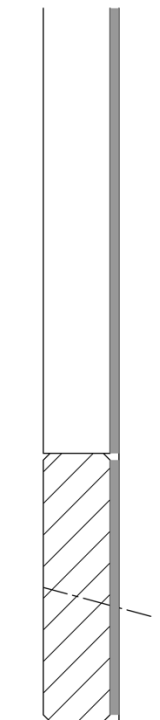
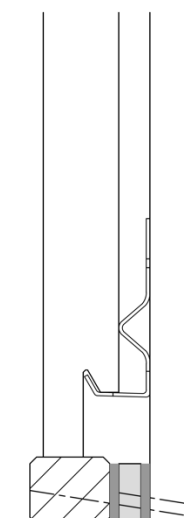
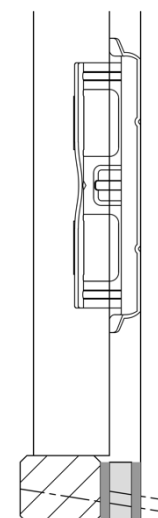
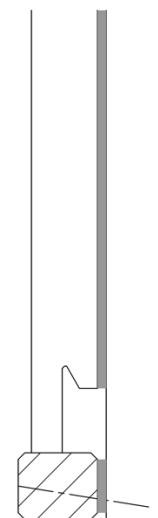
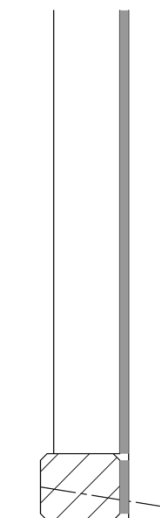
- 金具施工用スペーサーについても接着剤と留付け材で固定しますが、特に留付け材の規定はありません。各下地に留付けが可能で、保持力が確保できる留付け材（例：ビス、ネイル等）で留付けてください。
- LGS下地（一般材）に使用する場合、上表の数字のサイズのフィニッシュネイルを使用することをおすすめします。
長すぎるフィニッシュネイルを使用すると、フィニッシュネイルが途中で折れ曲がって上手く留付けられない可能性があります。
- ※面材厚み9.5mm以下でピンネイルを使用する場合、ネイルは鉄骨下地やLGS下地にあたらない位置に留付けてください。
同様の面材条件で、フィニッシュネイルを使用し鉄骨下地に施工する場合も同様です。ネイルが下地に当たって施工できません。

5. 木製部材の施工

【2】施工仕様

< 1 > 巾木

図中凡例:  接着剤  金具施工用
スペーサー  ネイル

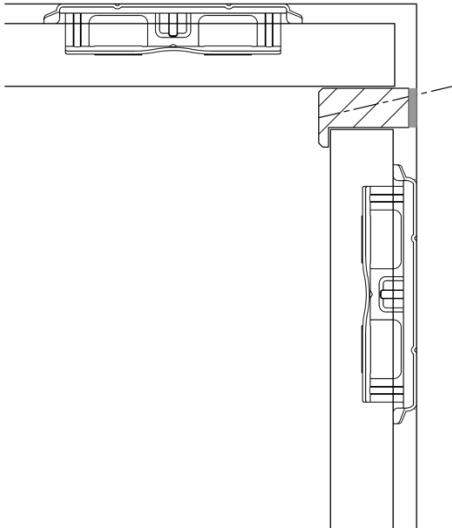
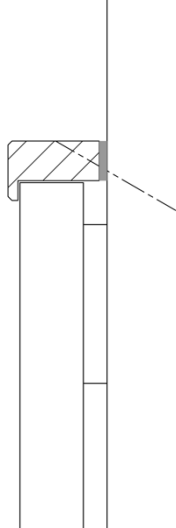
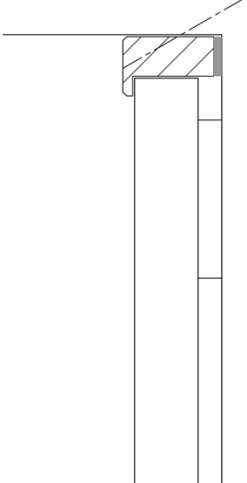
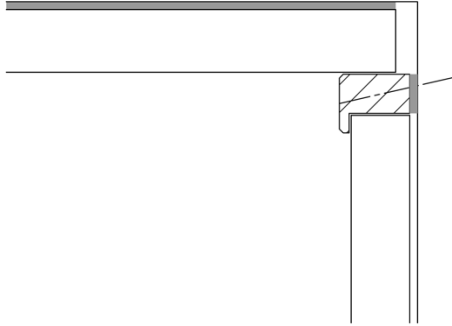
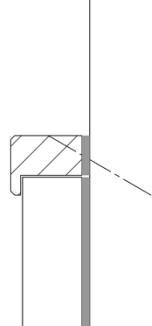
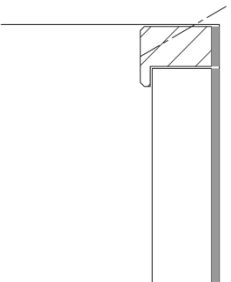
部材名	施工仕様			
	金具工法 横張り	金具工法 縦張り	接着工法 横張り	接着工法 縦張り
柿渋塗り センダン 巾木 (60mm)				
部材固定に 必要な 接着剤の 目安本数	0.07本/m (MDF固定分含む)		0.035本/m	
	※Φ3mm程度でそれぞれビード状に波型に塗布			
柿渋塗り センダン 巾木 (15mm)				
部材固定に 必要な 接着剤の 目安本数	0.021本/m (MDF固定分含む)		0.01本/m	
	※Φ2mm程度でビード状に塗布			

5. 木製部材の施工

【2】施工仕様

<2>見切り

図中凡例:  接着剤  ネイル

部材名	施工箇所		
	入隅	壁見切り	天井見切り
柿渋塗り センダン 見切り (金具工法用)			
柿渋塗り センダン 見切り (接着工法用)			
部材固定に 必要な 接着剤の 目安本数	0.01本/m ※Φ2mm程度でビード状に塗布		

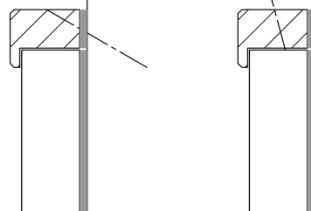
注意

例) 接着工法: 壁見切り

ネイルを施工する際は、SOLIDO本体にかからないようにしてください。
基材が固いためにネイルが刺さらず、
表面に飛び出すため危険です。



※基材に刺さらず、
ネイルが飛び出す

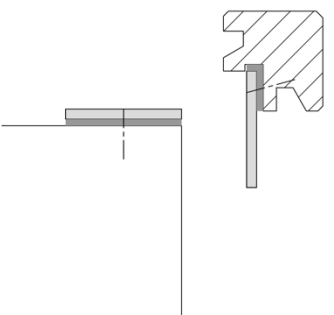
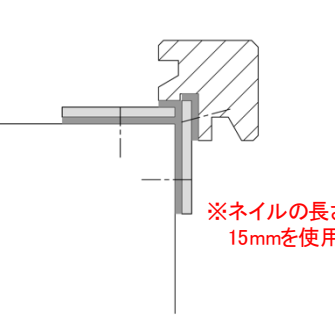
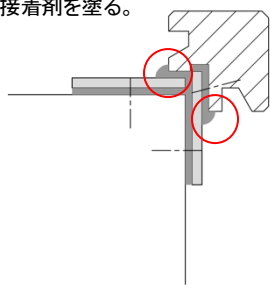
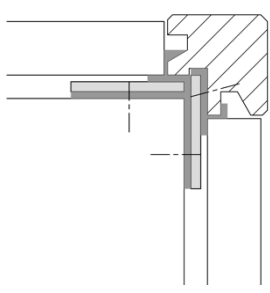
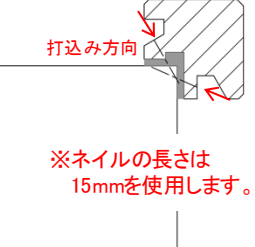
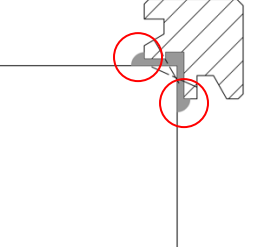
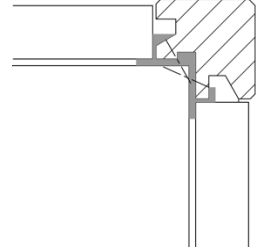


5. 木製部材の施工

【2】施工仕様

< 3 > 出隅

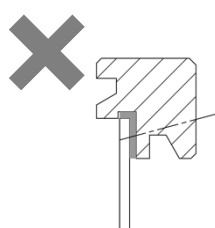
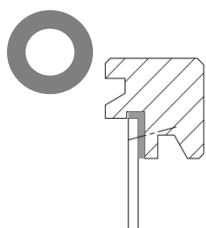
図中凡例:  接着剤  金具施工用
スペーサー  ネイル

	施工仕様	部材固定に必要な 接着剤の目安本数
柿洪塗りセンダン出隅 金具工法	①MDFを下地、部材それぞれに接着剤とネイルで固定する。 ②部材とMDF、MDFと下地をそれぞれ接着剤とネイルで固定する。   ※ネイルの長さは15mmを使用します。 ③部材とMDFの取合い部に接着剤を塗る。  ④SOLIDOを施工する。 	0.069本/m ※ ・下地⇔MDF: Φ3mm程度の波型 ・部材⇔MDF: Φ2mm程度のビード状 ・部材とMDFの取合い部(③): Φ3mm程度のビード状 でそれぞれ塗布
柿洪塗りセンダン出隅 接着工法	①部材に接着剤を塗り、溝部からネイルを打って固定する。  打込み方向 ※ネイルの長さは15mmを使用します。 ②部材と下地の取合い部に接着剤を塗る。  ③SOLIDOを施工する。 	0.034本/m ※ ・部材⇔下地(①): Φ2mm程度のビード状 ・部材と下地の取合い部(②): Φ3mm程度のビード状 でそれぞれ塗布

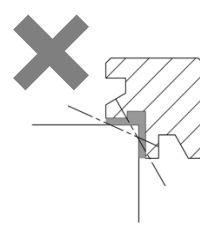
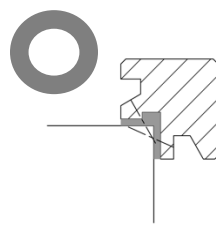
注意

出隅部材を留付けるネイルの長さは15mmを使用してください。
15mmを超える長さのネイルを使用した場合、出隅部材や下地の表面からネイルが飛び出すため危険です。

例) 金具工法



例) 接着工法



※ネイルの長さが15mmを超えた場合、下地からネイルが飛び出す

6. 参考資料

【1】補修・仕上げ方法	87
-------------------	----

6. 参考資料

【1】補修・仕上げ方法

<1>補修・仕上げについて

- 本製品は、1枚毎に色味が異なる商品のため、現場仕上げ塗料（補修塗料）は設定していません。補修・仕上げが必要な場合は、市販の補修剤等を使用してください。

<参考例>

「ジョイントコーク・A」 ヤヨイ化学工業㈱

F☆☆☆☆

※ホームセンター等で販売されています。



- ・市販のアクリル塗料に比べて艶が無く本製品になじみます。
- ・現場で混ぜて使う事で、1枚毎に色味が異なる本製品に対応可能です。

※「ジョイントコーク・A」について

補修・仕上げの参考例としてのご紹介のため、ヤヨイ化学㈱で下記内容に関する保証お問合せ対応はしていませんのでご了承ください。

- ・施工に関する内容
- ・色味や仕上り外観等
- ・施工後の変色等の不具合等

<2>準備物

- 補修に必要な準備物は下記の通りです。
- 「ジョイントコーク・A」は、ジュラク・ブラック・グレーの3色を使用して調合し、塗布する箇所の色に合わせます。

ジョイントコーク・A	攪拌、塗装用のヘラ	ジョイントコークを混ぜる用紙 (白い厚紙等)
ブラック ジュラク グレー		<例：白い厚紙> 用紙サイズ：約150mm角 ※はかりを使用しない場合は、マジックで等間隔に目盛りを打って調合の目安とする (下の例では、1目盛り=10mm)
	はかり	

6. 参考資料

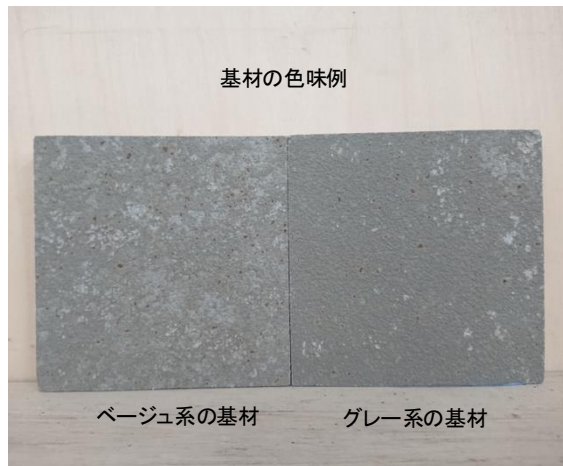
【1】補修・仕上げ方法

＜3＞調色・調合方法 —SOLIDO typeF coffee—

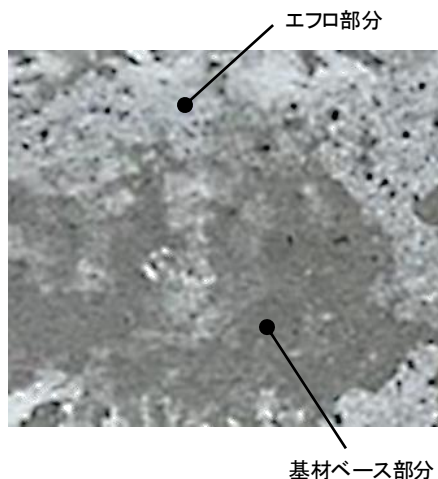
①調色について

(1) SOLIDO typeF coffeeは、ベージュ系～グレー系で基材色にばらつきがあります。

また、同一基材内でもエフロと基材箇所で色味が異なりますので、塗布する箇所に合わせて事前に試し調合を行ってください。



(2) エフロ部分の色に合わせて補修するか、基材ベース部分の色に合わせて補修するかを決めてください。



(3) 塗布する箇所に合わせて、ジョイントコークを混ぜてください。（下表参照）

※あくまでも参考ですので、実際の板に合わせて調整が必要です。

SOLIDO typeF coffeeの参考割合

参考割合		基材色	
		ベージュ系の基材	グレー系の基材
塗布箇所	基材ベース部分	ブラック 2 ジュラク 23	ブラック 5 ジュラク 10 グレー 22
	エフロ部分	ブラック 1 ジュラク 3 グレー 13	ブラック 1 グレー 20

推奨色

エフロに似せて仕上げることで補修跡が比較的目立ちにくくなります

6. 参考資料

【1】補修・仕上げ方法

<3>調色・調合方法 —SOLID0 typeF coffee—

②調合方法

- (1) ジョイントコークのキャップをとります。
(使用後は、キャップをはめて保存します。)



- (2) ジョイントコークの先端を切断します。



(3) <はかりを使用する場合>

調合したい比率分のジョイントコークを計測しながら出します。

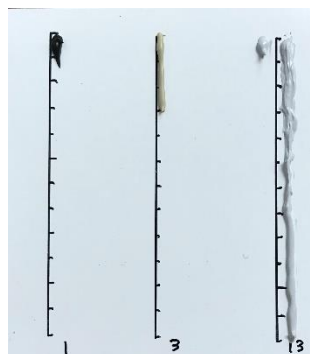
例) ブラック : ジュラク : グレイ = 1 : 3 : 13
(0.5g : 1.5g : 6.5g)



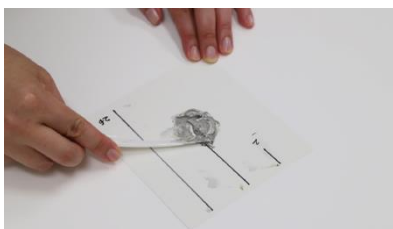
<はかりを使用しない場合>

目盛りの入った白い用紙に、調合したい比率分のジョイントコークを出します。

例) ブラック : ジュラク : グレイ = 1 : 3 : 13
※各色を同じ太さで引くようにしてください。



- (4) ヘラを使って用紙上でしっかり混ぜます。



- (5) 端材等で色味の確認をして、黒すぎればグレーを足す、白すぎればブラックを足す等の微調整をしてください。

※ブラックは少し加えるだけでも影響が大きいですので慎重に足してください。

※ジョイントコークは乾燥すると色が濃くなりますので、若干明るめに色を調整すると乾燥後の色が合うようになります。



6. 参考資料

【1】補修・仕上げ方法

< 4 > 調色・調合方法 —SOLIDO typeF shirasu—

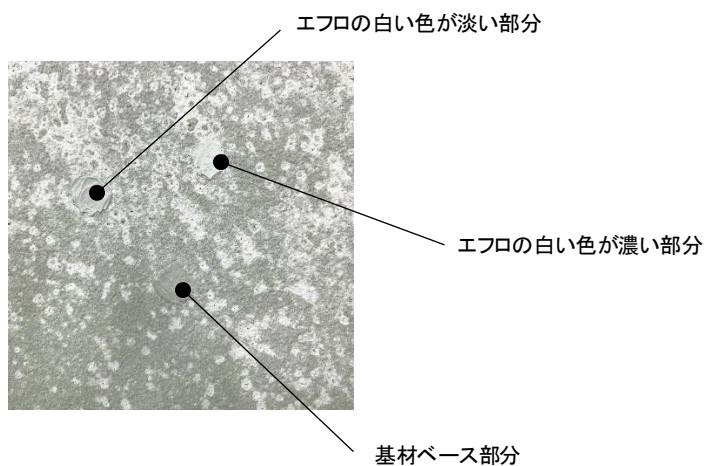
①調色について

(1) SOLIDO typeF shirasuは、ベージュ系～グレー系で基材色にばらつきがあります。

また、同一基材内でもエフロと基材箇所で色味が異なりますので、塗布する箇所に合わせて事前に試し調合を行ってください。



(2) エフロ部分の色に合わせて補修するか、基材ベース部分の色に合わせて補修するかを決めてください。



(3) 塗布する箇所に合わせて、ジョイントコークを混ぜてください。（下表参照）

※あくまでも参考ですので、実際の板に合わせて調整が必要です。

SOLIDO typeF shirasuの参考割合

塗布箇所	参考割合
基材ベース部分	ブラック 1 ジュラク 20 グレー 8
エフロの白い色が淡い部分	ブラック 1 ジュラク 23 グレー 24
エフロの白い色が濃い部分	ジュラク 1 グレー 5



推奨色

基材ベースに似せて仕上げることで補修跡が比較的目立ちにくくなります

6. 参考資料

【1】補修・仕上げ方法

<4>調色・調合方法 —SOLID0 typeF shirasu—

②調合方法

- (1) ジョイントコークのキャップをとります。
(使用後は、キャップをはめて保存します。)



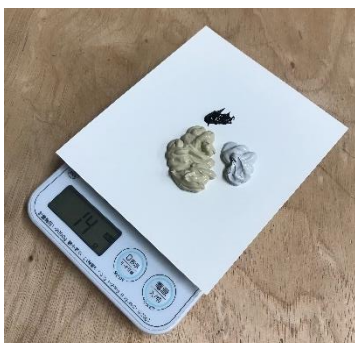
- (2) ジョイントコークの先端を切断します。



(3) <はかりを使用する場合>

調合したい比率分のジョイントコークを計測しながら出します。

例) ブラック : ジュラク : グレイ = 1 : 20 : 8
(0.5g : 10.0g : 4.0g)



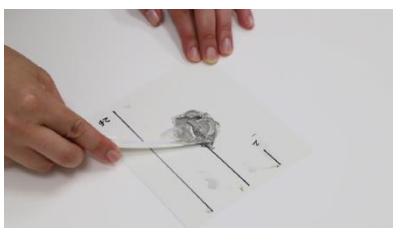
<はかりを使用しない場合>

目盛りの入った白い用紙に、調合したい比率分のジョイントコークを出します。

例) ブラック : ジュラク : グレイ = 1 : 20 : 8
※各色を同じ太さで引くようにしてください。



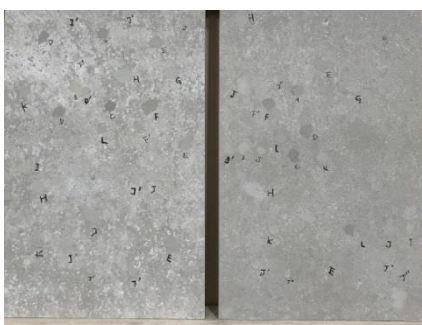
- (4) ヘラを使って用紙上でしっかり混ぜます。



- (5) 端材等で色味の確認をして、黒すぎればグレーを足す、白すぎればブラックを足す等の微調整をしてください。

※ブラックは少し加えるだけでも影響が大きいですので慎重に足してください。

※ジョイントコークは乾燥すると色が濃くなりますので、若干明るめに色を調整すると乾燥後の色が合うようになります。



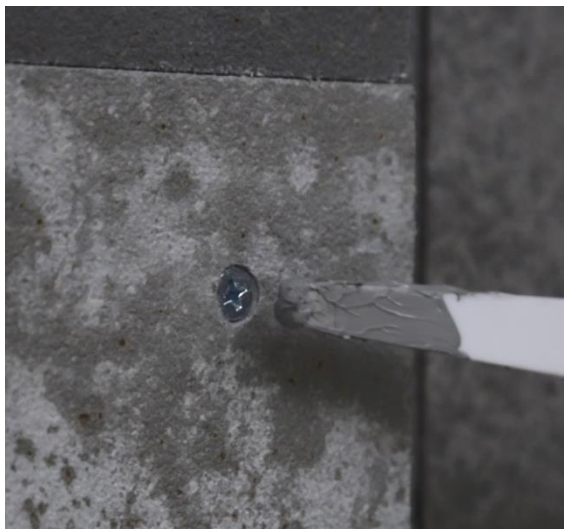
6. 参考資料

【1】補修・仕上げ方法

< 5 > 塗布方法

※写真例：SOLIDO typeF coffee

①色味の確認後、ヘラ等を使って当該部位に混ぜた
ジョイントコークを塗ります。



②ヘラで均します。



③周囲と馴染ませる場合は、ウエス等で軽くたたいて調整します。
乾燥させて完成です。



< 留意事項 >

- ・SOLIDO typeF coffeeは、基材よりもエフロに似せる方が目立ちにくくなります。
- ・SOLIDO typeF shirasulは、エフロよりも基材に似せる方が目立ちにくくなります。
- ・ジョイントコークは乾燥後色が濃い目になりますので、明るめに調合することで目立ちにくくなります。
- ・大きい面積の補修の場合は補修部が目立ちやすくなりますので、部分的に商品の張替えをおすすめします。

6. 参考資料

【1】補修・仕上げ方法

< 6 > 施工例

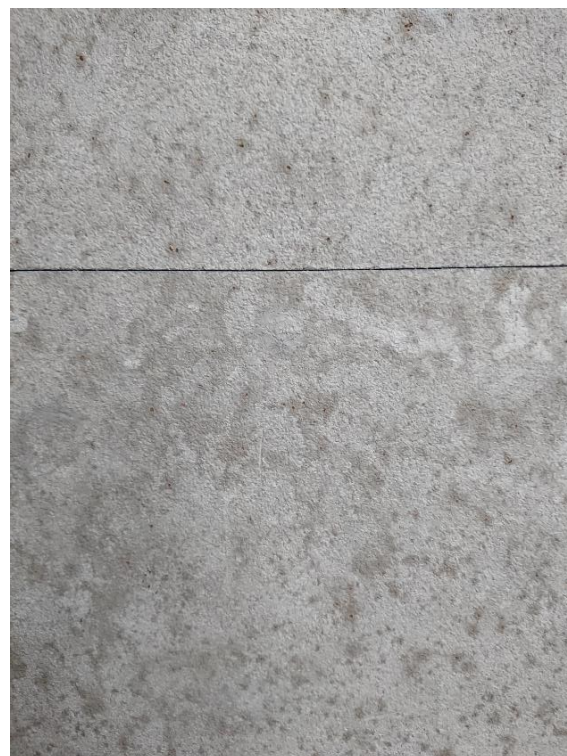
※写真例：SOLIDO typeF coffee

●ビス頭への塗布例

塗布前



塗布後



●合いじゃくり接合部への塗布例

※すき間をふさぐ場合は、事前にパテ等のバックアップ材等を詰め込んでから塗布すると写真（右下）のように仕上がります。

塗布前



塗布後



6. 参考資料

【1】補修・仕上げ方法

< 6 > 施工例

※写真例：SOLIDO typeF coffee

●キズ部への塗布例

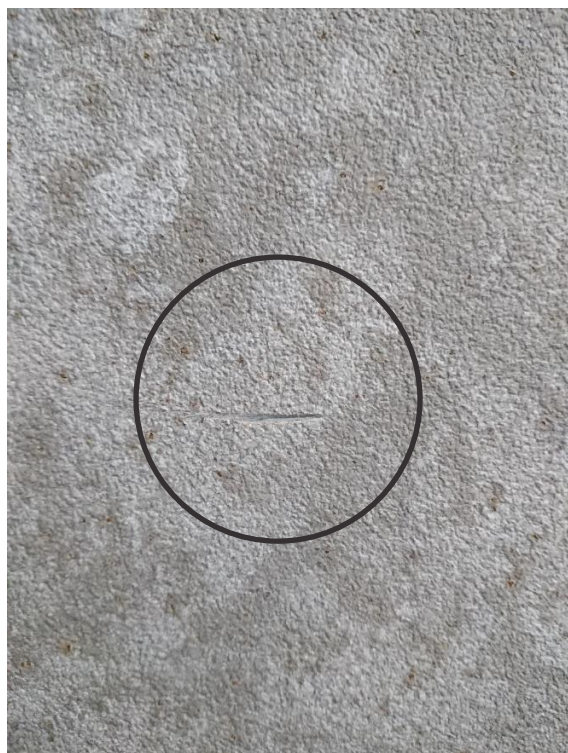
塗布前



塗布後



塗布前



塗布後

